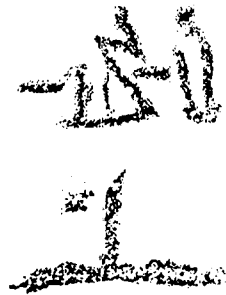


# 市原市文化財センター年報

平成8年度



財団法人 市原市文化財センター

## 序 文

平成8年度は、公共民間を合わせて、21遺跡で発掘調査を実施し、4遺跡について整理事業を行いました。

このうち市東地区では平成7年度に続き、3箇所を確認調査を実施致しましたが、この地区は開発の手があまり及んでいないこともあり、計画されている大規模な区画整理の進展に伴い、将来予想される本格的な調査の実施により、次第にその内実が明らかになっていくものと思われれます。

また4遺跡のうち国分寺台遺跡群の祇園原貝塚の整理報告事業については、これまでの調査研究の成果として、近いうちに報告書の刊行に至る予定であります。

これら調査成果の一部については、平成9年3月に実施しました遺跡発表会において公表し、市内外からの多くの方々の目に触れるところとなりました。

今後も発掘調査、整理作業を通して得られた情報や資料を提供し、地域の文化財や歴史に親しめるよう、さらに努力していくつもりです。

最後に、御指導・御協力を賜りました千葉県教育委員会、市原市教育委員会をはじめとする関係の皆様に対し、心よりお礼申し上げます。

平成12年3月31日

財団法人 市原市文化財センター  
理事長 小 茶 文 夫

# 目 次

序

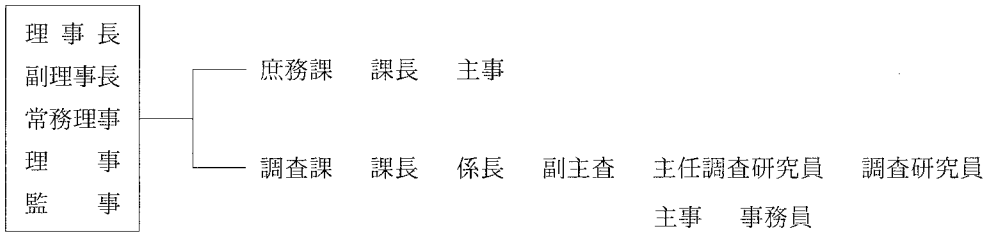
I 機 構 .....	1
II 平成8年度事業概要 .....	2
III 平成8年度調査概要 .....	6
1. 潤井戸鎌之助遺跡 .....	8
2. 山田橋大山台遺跡 .....	9
3. 八幡御墓堂遺跡 .....	11
4. 姉崎妙経寺遺跡2次調査 .....	15
5. 潤井戸中横峰遺跡(2次) .....	17
6. 姉崎棗塚遺跡 .....	19
7. 山田橋亥の海道遺跡 .....	21
8. 立野中伊沢遺跡 .....	25
9. 五井神取遺跡 .....	27
10. 郡本遺跡群(古甲遺跡5次) .....	28
11. 畑木小谷遺跡 .....	30
12. 市原条里制遺跡 .....	33
13. 菊間手永遺跡 .....	35
14. 下矢田遺跡 .....	39
15. 二日市場遺跡 .....	41
16. 中野向山遺跡 .....	45
17. 東国吉下台遺跡 .....	47
18. 永吉花ノ台遺跡 .....	49
19. 椎津大ツ作遺跡 .....	51
20. 椎津五霊台遺跡 .....	51
21. 海保野口遺跡 .....	52
IV 平成8年度受贈図書一覧 .....	55
付編 椎津大ツ作遺跡発掘調査報告 .....	81

# I 機 構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員および職員から構成されている。役員は、寄附行為の定めにより、理事長、副理事長、理事、監事をもって構成され、平成8年度の職員は、事務職員6名（うち都市公社出向職員1名）、技術職員12名（うち事務従事職員11名）であり、その組織および氏名は以下のとおりである。

## 1 組 織

### 役 員



## 2 役 員

職 名	役 職 名	氏 名
理 事 長	専 任	白鳥一夫
副理事長	市原市教育委員会 生涯学習部長	相川市隆
常務理事	専 任	大谷 豊
理 事	市原市教育委員会教育長	大野 皎
理 事	國學院大學教授	加藤晋平
理 事	和洋女子大学名誉教授	寺村光晴

職 名	役 職 名	氏 名
理 事	郷 土 史 家	木村千春
理 事	市原市企画部長	大町裕之
理 事	市原市総務部長	田中信雄
理 事	市原市都市計画部長	深沢和良
監 事	市原市出納室長	斎藤初男
監 事	市原市教育委員会 教育総務部総務課長	石川善隆 (~8.12.15)

## 3 職 員

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課長	宮崎澄夫
	主事	高浦貞子 阿部茂之
調査課	課長	宮本敬一
	係主	田中清紳
	副主	小出藤敏
	副主	近藤康男 高橋真

所 属	職 名	氏 名
調査課	主任調査研究員	大村直
	調査研究員	忍澤成
	調査研究員	小川浩一
	調査研究員	櫻井敦史
	調査研究員	北見一弘
	調査研究員	半田堅三
	主事	大鐘光江
	事務員	辻葉子
	事務員	常澄智子

## II 平成8年度事業概要

### 1 理事会の開催

- 第1回理事会 平成8年5月27日  
 議案第1号 平成7事業年度事業報告の承認について  
 議案第2号 平成7事業年度収入支出決算の承認について  
 第2回理事会 平成8年11月19日  
 議案第1号 平成8事業年度事業計画の変更について  
 議案第2号 平成8事業年度補正予算(第1号)  
 第3回理事会 平成8年12月19日(書面表決)  
 議案第1号 職員給与規程の一部を改正する規程について  
 第4回理事会 平成9年3月28日  
 議案第1号 組織規程の一部を改正する規程について  
 議案第2号 処務規程の一部を改正する規程について  
 議案第3号 職員給与規程の一部を改正する規程について  
 議案第4号 常勤役員の報酬額の決定について  
 議案第5号 平成8事業年度事業計画の変更について  
 議案第6号 平成8事業年度補正予算(第2号)  
 議案第7号 平成9事業年度事業計画について  
 議案第8号 平成9事業年度収入支出予算について

### 2 会計監査

平成8事業年度の会計監査は、平成9年5月16日財団法人市原市文化財センター事務室において、高山美則、鈴木利昭 監事により実施された。

### 3 平成8年度受託事業

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容	面積	契約年月日	受託金額 (円)
1	市津運動広場埋蔵文化財調査委託	市原市 (スボ-ツ振興課)	潤井戸 鎌之助遺跡	集落跡	確認調査	3,425㎡	平成8年11月29日	18,999,380
2	(仮称)総合防災センター 用地埋蔵文化財発掘調査	市原市 (消防局)	山田橋 大山台遺跡	集落跡	確認調査 本調査	435㎡ 11,480㎡	平成8年4月1日	59,999,560
3	八幡宿駅東口土地区 画整理事業に伴う埋 蔵文化財調査	市原市 (八幡都市政事務所)	八幡 御墓堂遺跡	溝跡	確認調査	516㎡	平成8年9月30日	13,484,760
4	八幡宿駅東口土地区 画整理事業に伴う埋 蔵文化財調査	市原市 (八幡都市政事務所)	八幡 御墓堂遺跡	溝跡	本調査	830㎡	平成8年12月26日	12,692,690
5	姉崎駅前土地区画整 理事業に伴う埋蔵文 化財調査	市原市 (姉崎都市政事務所)	姉崎 妙経寺遺跡	古墳	本調査	1,185㎡	平成8年4月26日	12,554,670
6	都市計画道路押沼安須 線(潤井戸)建設工事 に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (街路課)	潤井戸 中横峰遺跡	集落跡	確認調査	1,500㎡	平成8年4月15日	11,088,980

番号	事業名	委託者名	遺跡名	種別	事業内容	面積	契約年月日	受託金額 (円)
7	都市計画道路押沼安須線(潤井戸)建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市(街路課)	潤井戸中横峰遺跡	集落跡	本調査	3,210㎡	平成8年6月26日	18,910,800
8	都市計画道路八幡綿推津線(姉崎)建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市(街路課)	姉崎塚遺跡	貝塚	確認調査	408㎡	平成8年10月14日	9,861,220
9	都市計画道路八幡綿推津線(姉崎)建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市(街路課)	姉崎塚遺跡	貝塚	本調査	1,340㎡	平成9年1月16日	9,625,350
10	都市計画道路君塚小田部線(山田橋)建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市(街路課)	山田橋亥の海道遺跡	道路跡	確認調査	161.3㎡	平成8年5月23日	4,979,020
11	都市計画道路君塚小田部線(山田橋)建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市(街路課)	山田橋亥の海道遺跡	道路跡	本調査	1,550㎡	平成8年6月25日	17,886,980
12	市道148号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査業務委託	市原市(道路建設課)	立野中伊沢遺跡	集落跡	本調査	1,750㎡	平成9年1月30日	9,998,210
13	都市計画道路青柳北飯沼線建設工事に伴う埋蔵文化財調査	市原市(街路課)	五井神取遺跡	包蔵地	確認調査	282㎡	平成8年11月22日	6,154,250
14	上総国府推定地確認調査委託	市原市(ふるさと文化課)	古甲遺跡	国府推定地	確認調査	400㎡	平成9年1月31日	6,999,880
15	国分寺台遺跡群整理報告事業(根田祇園原貝塚)	市原市(ふるさと文化課)	根田祇園原貝塚	貝塚	整理報告		平成8年4月1日	28,008,540
16	都市農業センター建設に伴う埋蔵文化財調査委託	市原市(農業センター)	浅井小向金神遺跡	集落跡	整理報告		平成8年8月1日	4,999,620
17	不特定遺跡発掘調査	市原市(ふるさと文化課)		包蔵地	確認調査	400㎡	平成9年1月13日	2,238,650
18	市内遺跡発掘調査	市原市(ふるさと文化課)		包蔵地	確認調査 整理報告	604㎡	平成8年4月8日	10,536,652
19	市原市市東第一土地区画整理事業(第1地点その3)に伴う埋蔵文化財調査	市原市市東第一土地区画整理組合 設立準備委員会	中野向山遺跡	集落跡	確認調査	1,535㎡	平成8年4月10日	16,177,180
20	市原市市東第一土地区画整理事業(第2地点その2)に伴う埋蔵文化財調査	市原市市東第一土地区画整理組合 設立準備委員会	東国吉下台遺跡	集落跡	確認調査	565㎡	平成8年4月10日	6,472,520
21	市原市市東第一土地区画整理事業(第3地点)に伴う埋蔵文化財調査	市原市市東第一土地区画整理組合 設立準備委員会	永吉花の台遺跡	集落跡	確認調査	2,345㎡	平成8年4月10日	22,389,110
22	マンション建設に伴う埋蔵文化財調査	(株)ディア建設	姉崎六孫王原遺跡	集落跡	整理報告		平成6年4月26日 (9年度まで継続)	4,195,080 (総事業費 21,112,940)
23	(仮称)後楽園市原レクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査(A・B・C区)	(株)東京ドーム	新生狹原野遺跡	集落跡	整理報告		平成5年11月12日 (9年度まで継続)	1,442,517 (総事業費 115,376,480)
24	無線基地局の建設に伴う埋蔵文化財調査	りんかい建設株式会社 TKC作業所	権津大ツ作遺跡	包蔵地	確認調査	36㎡	平成8年5月7日	1,046,480
25	無線基地局の建設に伴う埋蔵文化財調査	りんかい建設株式会社 TKC作業所	権津大ツ作遺跡	包蔵地	本調査	60㎡	平成8年5月23日	456,290
26	宅地造成(権津)に伴う埋蔵文化財調査	細田哲平	権津五臺台遺跡	集落跡 城郭跡	本調査 整理報告	2,977㎡	平成8年6月11日 (9年度まで継続)	18,956,120 (総事業費 23,685,880)
27	宅地造成(権津)に伴う埋蔵文化財調査(第2次)	東日本建設株式会社	権津五臺台(B)遺跡	集落跡 城郭跡	本調査	162㎡	平成8年12月27日 (9年度まで継続)	1,661,390 (総事業費 2,799,540)
28	第1種電気通信設備の設置に伴う埋蔵文化財調査	株式会社 東京デジタルホン	海保野口遺跡	包蔵地	確認調査 本調査	39㎡ 100㎡	平成9年2月28日	2,353,550
合 計								324,686,449

#### 4 研究事業

調査事業、整理事業に係わる日常の研究活動、職員の資質向上を目指す研修を行っている。

##### (1) 外部主催研修会等

###### ① 全国埋蔵文化財法人連絡協議会関係

ア 総 会	平成 8 年 6 月 6～7 日	愛媛県松山市
イ 研 修 会	平成 8 年 10 月 3～4 日	山形県山形市
ウ 関東ブロック法人連絡協議会	平成 8 年 5 月 16～17 日	千葉県千葉市
エ コンピューター等研究委員会関東ブロック地区委員会	平成 8 年 5 月 24 日	東京都豊島区

###### ② 千葉県文化財法人連絡協議会関係

ア 総 会	平成 8 年 7 月 1 日	千葉市中央区（ちば共済会館）
イ 役 員 会	平成 9 年 3 月 12 日	財団法人千葉県文化財センター
ウ 部 会	事務部会 2 回	技術部会 5 回
エ 研 修 会	共同研修会 1 回	事務研修会 1 回

###### ③ 海外研修会

平成 8 年 10 月 17 日～21 日 韓国

##### (2) 内部研修会

- |          |                  |   |
|----------|------------------|---|
| ① 補助員研修会 | 平成 8 年 10 月 15 日 | 江戸東京博物館                                     |
| ② 職員研修会  | 平成 8 年 11 月 26 日 | 市原条里制遺跡発掘現場<br>旧汐留貨物駅跡地内遺跡発掘調査現場<br>浜離宮恩賜公園 |

#### 5 普及事業

##### (1) 千葉県文化財法人連絡協議会

遺跡調査研究発表会

平成 9 年 1 月 26 日（日） 於 千葉市文化センター

##### (2) 遺跡発表会

平成 9 年 3 月 9 日（日） 於 市原市五井会館

調査遺跡の成果報告

- |            |             |           |
|------------|-------------|-----------|
| ① 山田橋大山台遺跡 | ② 潤井戸中横峰遺跡  | ③ 姉崎妙経寺遺跡 |
| ④ 椎津五霊台遺跡  | ⑤ 山田橋亥の海道遺跡 |           |

特別講演

- |             |                 |             |
|-------------|-----------------|-------------|
| ① 国分寺跡の諸問題  | 文化庁鑑査官          | 三 輪 嘉 六     |
| ② 建築遺構とその復元 | (財)文化財建造物保存技術協会 | 理 事 伊 原 恵 司 |

## 6 印刷物の刊行

「市原市文化財センター年報（平成5年度）、（平成6年度）」の刊行

「啓蒙普及パンフレット（私たちの文化財）1～8、14、18、19」の増刷

## 7 平成8年度決算報告

平成8年4月1日から  
平成9年3月31日まで

### 収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
基本財産運用収入	30,000	6,000	36,000	36,479	△ 479	
事 業 収 入	370,956,000	△ 35,783,000	335,173,000	334,418,939	754,061	
雑 収 入	254,000	213,000	467,000	494,634	△ 27,634	
当期収入合計	371,240,000	△ 35,564,000	335,676,000	334,950,052	725,948	
前期繰越収支差額	49,953,000	493,000	50,446,000	50,446,949	△ 949	
収 入 合 計	421,193,000	△ 35,071,000	386,122,000	385,397,001	724,999	

### 支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
受 託 事 業 費	326,969,000	△ 30,266,000	296,703,000	295,833,123	869,877	
研究普及事業費	9,663,000	△ 2,052,000	7,611,000	7,610,054	946	
一 般 管 理 費	20,906,000	△ 501,000	20,405,000	20,111,904	293,096	
消 費 税 支 出	4,327,000	△ 422,000	3,905,000	3,896,100	8,900	
固定資産取得支出	4,080,000	1,454,000	5,534,000	5,533,366	634	
財政調整基金積立預金支出	104,000	23,000	127,000	126,603	397	
退職給与引当預金支出	1,671,000	△ 311,000	1,360,000	1,360,000	0	
予 備 費	2,000,000	△ 1,999,000	10,000	0	10,000	
当期支出合計	369,720,000	△ 34,065,000	335,655,000	334,471,150	1,183,850	
当期収支差額	1,520,000	△ 1,499,000	21,000	478,902	△ 457,902	
次期繰越収支差額	51,473,000	△ 1,006,000	50,467,000	50,925,851	△ 458,851	



### Ⅲ 平成8年度調査概要

平成8年度の発掘調査は、確認調査13事業、確認調査～本調査2事業、本調査9事業の計24事業、21遺跡を対象に実施した。このうち、山田橋大山台遺跡、姉崎妙経寺遺跡、八幡御墓堂遺跡は、公共事業に伴う継続的調査である。また、古甲遺跡は、上総国府推定地確認調査事業の調査対象遺跡として調査した。本年度で5年目となった。

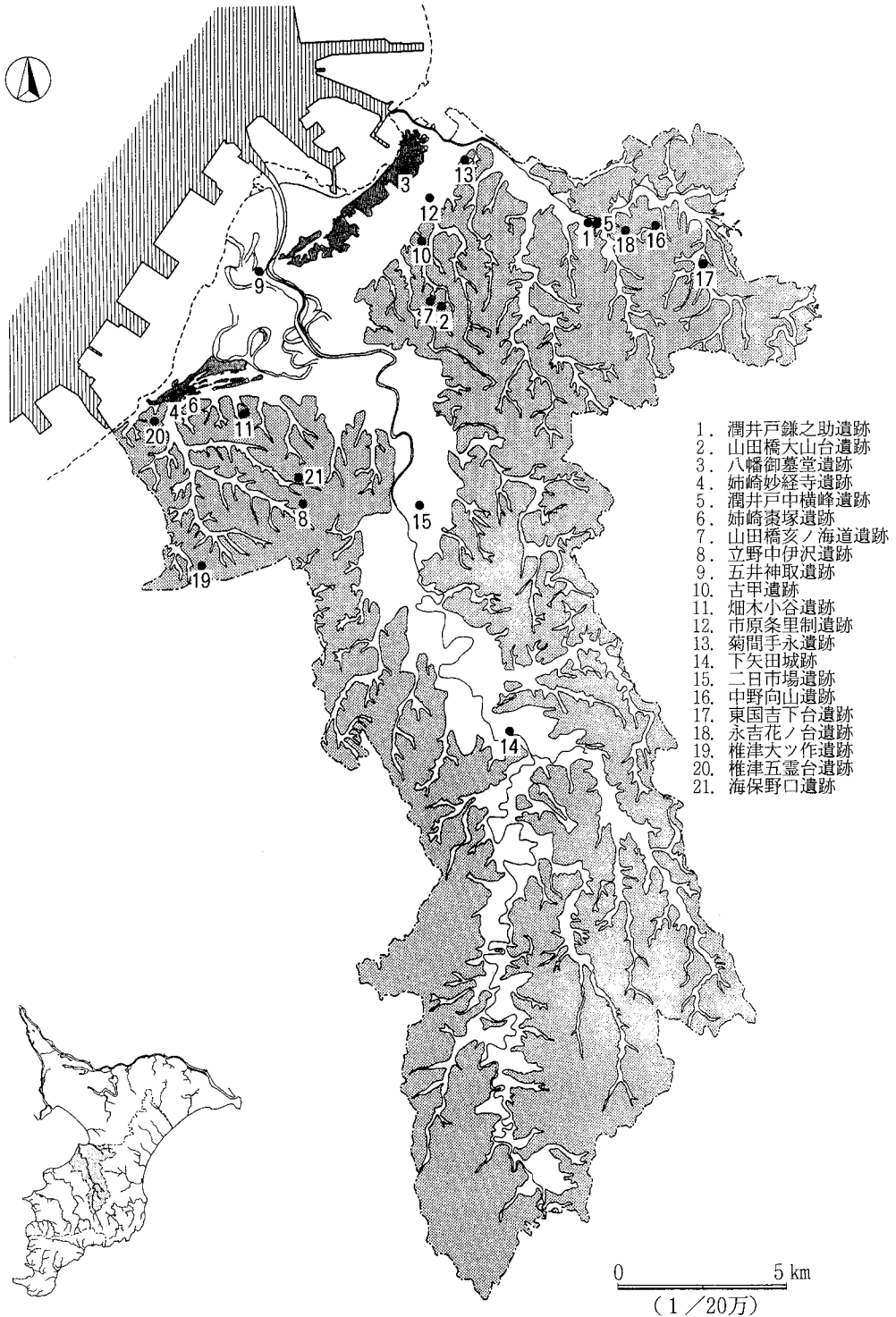
個別の調査の内容については、各報文を参照願うこととし、以下に当年度調査の若干の総括を試みる。

市東地区の区画整理事業に先行して、本年度も3遺跡で確認調査を行った。同事業に伴う確認調査は平成6年度から開始し本年度までに約11万㎡について確認調査が終了したこととなるが、ようやく一割程度を終了したにすぎない。残余の確認調査、本調査等息の長い取り組みとなる。市東地区においては、大規模な調査例は少なく、今後の調査により全体像が明らかになっていくと思われるが、調査体制等長期的見通しを立てる必要がある。

携帯電話の普及にともない、無線基地局建設に伴う調査例が見受けられるようになったことは、昨今の社会情勢の反映である。本年度は椎津大ツ作遺跡、海保野口遺跡がこれにあたる。しばらくは同種の事業に伴う調査が続くと思われる。事業規模は小さく、面的な調査にはならないものの、山間部における資料の蓄積につながるものである。ゴルフ場の開発が収束した現段階において、これら小規模な調査からより多くの情報を引き出すことが求められる。

数年来の傾向として、海岸平野、河岸段丘などでの調査が増加しつつある。妙経寺遺跡、棗塚遺跡は標高7m前後の砂堆上にある。妙経寺遺跡は、縄文時代および古墳時代の遺跡であり、棗塚遺跡は中世の遺跡である。八幡御墓堂遺跡は標高約2mの部分で中世の溝や畦畔が検出されている。いわゆる市原台地北方においては、古代から中世にかけての条里地割の水田跡の存在が知られているが、今回調査した市原条里制遺跡などの限定された面積の調査における水田跡の捕捉の困難性を指摘しておきたい。鎌之助遺跡と中横峰遺跡は村田川左岸の河岸段丘上に立地する隣接した遺跡である。縄文時代後期から奈良時代にかけての遺構・遺物が検出されている。

開発の動向と関連したと思われるが、今年度は弥生時代から古墳時代にかけての時期の集落跡の調査が僅少であった。わずかに五霊台遺跡や畑木小谷遺跡で古墳時代の集落が調査された。ともに海岸平野にほど近い台地上にある。姉崎地域では、海岸平野での調査例は増加しつつあるが、弥生時代の遺跡を欠いている。古墳時代前半も希薄な感がある。今後の調査を見守りたい。



平成8年度調査遺跡位置図

# うるいどかまのすけ 1. 潤井戸鎌之助遺跡

事業名 市津運動広場埋蔵文化財調査委託

所在地 市原市潤井戸字鎌之助11-2他

調査期間 平成8年12月2日～平成9年3月24日

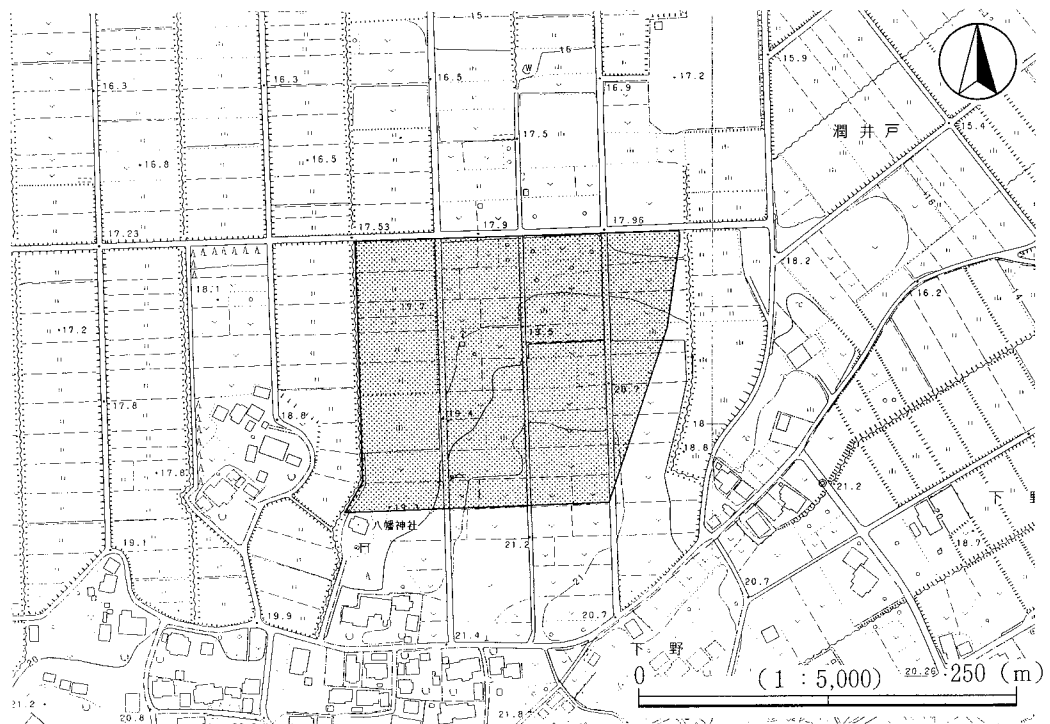
調査面積 34,250㎡のうち3,425㎡（上層・確認調査）、308㎡（下層・確認調査）

調査概要 潤井戸鎌之助遺跡は、村田川中流域左岸の標高17～21m前後の低位段丘に位置する。周辺の遺跡としては、隣接する東側に弥生時代中期を中心とした方形周溝墓群を検出した、潤井戸中横峰遺跡が存在する。調査は、4×4mのグリッドを調査区全体に配置することにより、遺構の存在範囲とその帰属時期を把握した。

その結果、貝層を伴う縄文時代後期の竪穴住居跡をはじめ、弥生時代から奈良・平安時代にいたる竪穴住居跡や、掘立柱建物跡などが検出され、これまで調査事例の少なかった村田川沿岸の低位段丘面において、各時期の遺構が複合する遺跡の存在が確認された。

また、弥生時代の方形周溝墓の存在も確認され、潤井戸中横峰遺跡の方形周溝墓群との関連が考えられる。なお、本遺跡の詳細については、下記文献によられたい。（小川浩一）

田所 真「潤井戸鎌之助遺跡」『第14回 市原市文化財センター遺跡発表会要旨』 1999



潤井戸鎌之助遺跡の位置と調査対象範囲

## 2. 山田橋大山台遺跡

**事業名** (仮称) 総合防災センター用地埋蔵文化財発掘調査

**所在地** 市原市山田橋字大山台340-1 他

**調査期間** 平成8年4月1日～平成9年3月31日

**調査面積** 720㎡/28,650㎡(下層) 11,480㎡(上層)

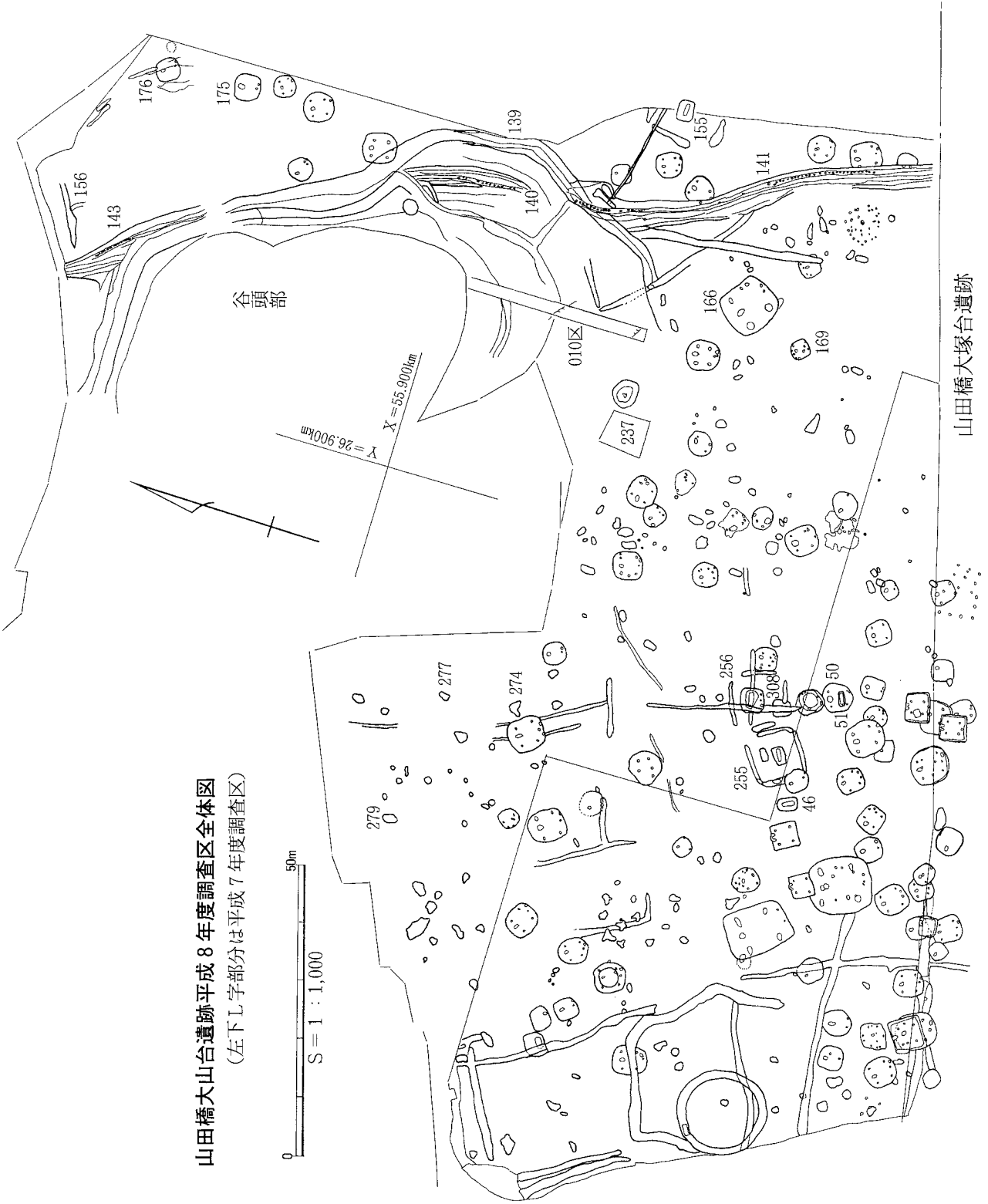
**調査概要** 遺跡は、市原市役所から東へ1 km、国道297号線勝浦街道に沿った、扇状の市原台地のほぼ中央にある。また八幡方面へ能満・市原を流れる新田川と、五井方面へ国分寺台・郡本を流れる白旗川流域の源流部分、山倉ダムを南にひかえた分水嶺上の標高33m～34mのローム層の台地に位置する。隣接遺跡には、亥の海道・表通・大塚台・東千草山遺跡、北に千草山・稲荷台遺跡、南には山倉貝塚・南青野遺跡・武士遺跡がある。

調査は市原市消防局関連事業として、平成6年度に33,200㎡を対象に確認調査を行ない、7年度は約6,000㎡の調査を実施し、平成8年度も継続して確認・本調査が行なわれた。確認調査の結果、旧石器時代5カ所の地点分布が検出され492㎡が本調査の対象とされた。別にソフトローム中から槍先形尖頭器片の出土した237号礫群、黒曜石製の剥片や碎片が2,000点以上出土した165号土坑が検出された。ローム層より上層の黒褐色土中より、縄文時代早期の条痕文系土器の出土する土坑群がO5区にあり炉穴である274・277・279号等が台地の北部分から検出され、平成7年度分の調査区に連続する。

弥生時代後期の住居跡は連続する集落である大塚台遺跡に36軒、7年度では35軒、今年度は27軒が調査されている。主軸長9mを超える大型の住居跡が166号である。大型住居は前年度の2軒を含め、3時期以上継続した可能性がある。石製品が2点検出されており、隣接の169号住居跡からは石製勾玉や土器が多数検出された。それらと同時期と考えられる方形周溝墓からは、木棺直葬土壙155・255・256号が3基検出されている。155号方形周溝墓の木棺直葬土壙からはガラス玉が出土しており、256号からは同様のガラス玉が検出された。255号からはガラス玉と管玉と鉄製釧片が出土している。また256号木棺直葬土壙は308号住居跡の廃絶に伴い住居主軸に直交して設定されている。これらは、墓制を考える上で興味深い事例である。

古代道路跡の140～143・156号の調査は156号の富士山系や浅間山系テフラの分析研究によって、時期が平安時代から中世に特定されることができそうである。141号では硬質の緑釉片が出土している。また谷頭部には関東ローム層上面から5m以上も土壌が堆積しており、縄文時代から中世の16世紀戦国時代まで時期毎に堆積しており、土壌の研究も進めたい。(近藤 敏)

山田橋大冢台遺跡平成8年度調査区全体図  
 (左下L字部分は平成7年度調査区)



### 3. やわたみはかどう 八幡御墓堂遺跡

**事業名** 八幡宿駅東口土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市八幡815-8

**調査期間** 平成8年10月1日～12月24日（確認調査）平成9年1月7日～3月28日（本調査）

**調査面積** 5,168㎡のうち517㎡（確認調査）・（本調査）

**調査概要** 遺跡は村田川と養老川に挟まれた広大な海岸平野にあり、近年埋め立てられるまで水田として利用されていた。付近の海岸砂堆列上には房総往還が縦断し、八幡宿や五所などの宿街が古くから展開している。

この一帯は中世を通し市原荘に含まれていた。平安時代末期ころ石清水八幡宮を領家として成立した寄進型荘園と思われ(1)、鎌倉期は北条得宗家や足利氏などが加地子的な得分権を有していたと推測されるが、地主職に連なる在地領主や民衆の活動は史料上窺えない。中世後期になると、足利氏の庇護下に市原八幡宮（別当寺靈応寺）を通し、京都醍醐寺勢力の進出が本格化した。戦国期は小弓公方の政治的影響を受け、足利義明に関わる伝承が多い。最終的には北条氏勢力下に原氏が進出し、楽市の実施に関与しており(2)、この頃には近世宿場そのものの原型となる街村集落が一定規模で展開していたものと思われる。

なお、調査区に隣接する御墓堂墓地には、足利義明夫妻墓塔とされる大型五輪塔2基が存在するが、何基かの組合せで、義明の墓塔とは考えがたい。靈応寺の僧侶か、これを菩提寺とする在地領主などの供養塔と考えるのが妥当であろう。地名「御墓堂」についても靈応寺御墓堂の遺名地として捉えられ、必ずしも足利義明と結び付ける必要はない。五輪塔周辺には同期の中型宝篋印塔や小型五輪塔残欠群も認められる。

#### 1 確認調査

7本のトレンチを設定し、中世大溝1条、同土坑2基、同畦畔1条、中・近世溝14条、ピット21基などを確認した。遺跡の覆土は近世以前の堆積が殆ど認められず、全般に不明な点が多い。溝跡は条里遺跡から砂堆に向けた排水路と、これに直交するものがある。

#### 2 本調査

中世大溝1条・溝3条・土坑8基が検出された。大溝は幅11mを測り、調査区の大半を占める。道路として機能し、堀方中心に砂堆から搬入した砂を敷き、路床としている。中世の路床は上下2面あり、良く硬化していることから頻繁な通行が伺われる。中世条里畦畔延長上の通路であるが、周囲に水田跡は検出されず、畦道かどうかは分からない。下面路床は両側に側溝を伴い、排水機能を持たせている。上面路床が埋没すると大溝としての景観も消失するが、近世段階でこれを踏襲した区画に基づく路面が再構築され、戦後の圃場整備まで畦畔として機能



八幡御墓堂遺跡地形図

している。近世に存在した水田の開墾時期については不明といわざるを得ず、今後調査成果の蓄積が期待される。

出土遺物は、中世土器・陶磁器・石造物・獣骨・輸入銭などがある。陶磁器類は古瀬戸後期様式Ⅲ・Ⅳ期に並行するものが多く、砂堆上に分布する石造物造立期とも一致するので、八幡・五所街村集落の成立期を暗示するものと思われる。中世陶磁器類の定量は以下の通りである。

輸入磁器11	青磁8（碗6・皿2）、白磁3（皿3）
瀬戸・美濃系陶器68	碗1・平椀8・天目茶碗5・浅碗1・皿20・碗形鉢1・播鉢14・盤14・瓶子3・花瓶1・不明1
常滑産陶器63	こね鉢11・甕52
渥美産陶器7	壺1・甕6
在地土器64	かわらけ50・播鉢1・内耳鍋7・羽釜1・不明5
東海系土器20	羽釜20

総計は233点（確認調査で検出した中世遺物は含まない）

すべて破片で周辺からの流れ込みだが、近年発掘した分目要害遺跡や椎津尾崎遺跡より遺物密度は高い。盤・皿・甕・播鉢などの日常雑器が多く、近隣に遺物相の濃い生活遺跡が存在する裏付けとなる。また、東海系土器の出土は、海上交通の要所である東京湾岸の地理的要因に起因するものである。

時期的には鎌倉期（13世紀前半期）と戦国時代前期（15世紀）に大別できる。

まず13世紀前半期は渥美・常滑産陶器が主体を占め、やや遅れて竜泉窯系青磁碗が加わる。この後14世紀は、瀬戸・美濃系陶器が若干見えるに止まる。瓶子3点・花瓶1点がこれで、特殊な高級調度品と見られ、僧侶を含む在地有力者が消費層と思われる。

15世紀前半になると瀬戸・美濃系陶器が多くなり、常滑産陶器・輸入磁器なども含め遺物構成が豊かとなる。特に南北朝期と比べ、盤・鉢など日常雑器を中心とした組成に変貌している。

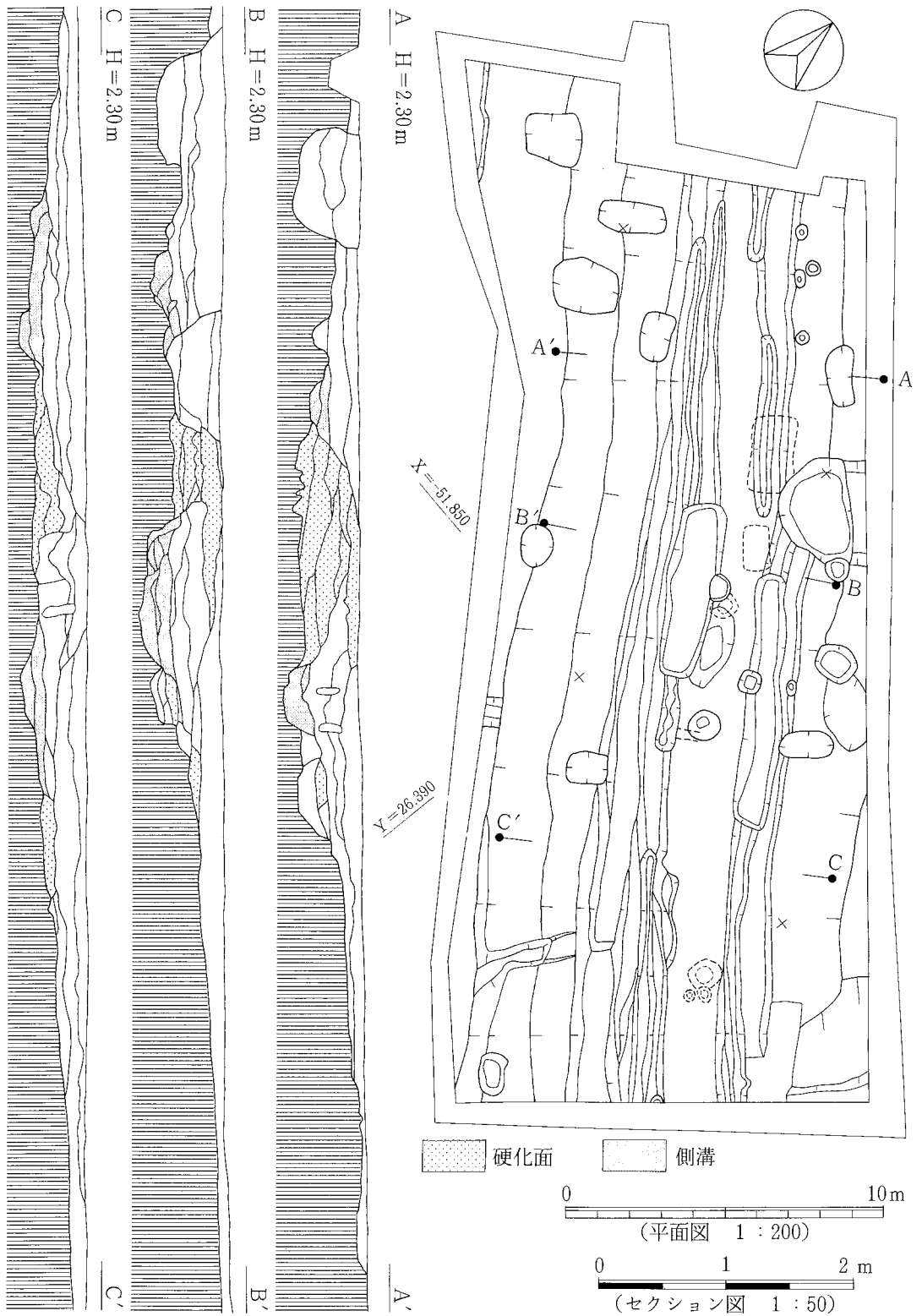
戦国期は更に瀬戸・美濃窯製品（古瀬戸後期様式Ⅳ期）が増加し、皿類（縁釉皿）が目立つ。在地土器や東海系土器もこの頃消費されたものと思われ、遺物量・器種共に最も豊富である。

15世紀末から16世紀の遺物は減少し、皿類・播鉢を若干認めるにすぎない。前段階の遺物群に使い込まれた個体が多いことから、街村集落成立期に一括購入された陶器群の伝世を想定できるが、集落の局地的な移動を示す可能性もあるため、入念な検討を要する。（櫻井敦史）

（注釈）(1)「保元3（1158）年12月3日官宣旨」『石清水文書』『神奈川県史史料編1』所収

(2)「天正9（1581）年7月5日刑部少輔・谷澤丹波守連著奉書」『榊原ヨシ家蔵文書』689





八幡御墓堂遺跡（本調査）遺構配置図

#### 4. 姉崎妙経寺遺跡 2 次調査

事業名 姉崎駅前土地区画整理事業に伴う発掘調査

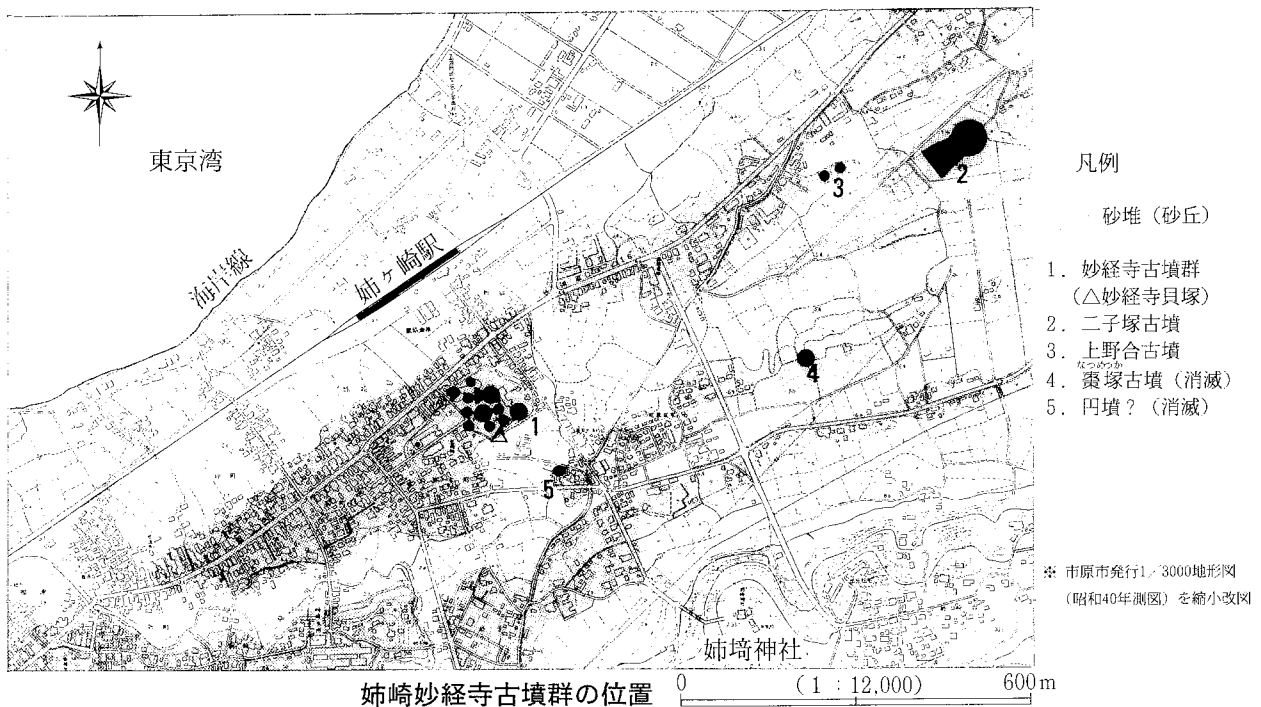
所在地 市原市姉崎454番地 1 他

調査期間 平成 8 年 9 月 24 日～平成 8 年 12 月 4 日

調査面積 1,185㎡ (本調査)

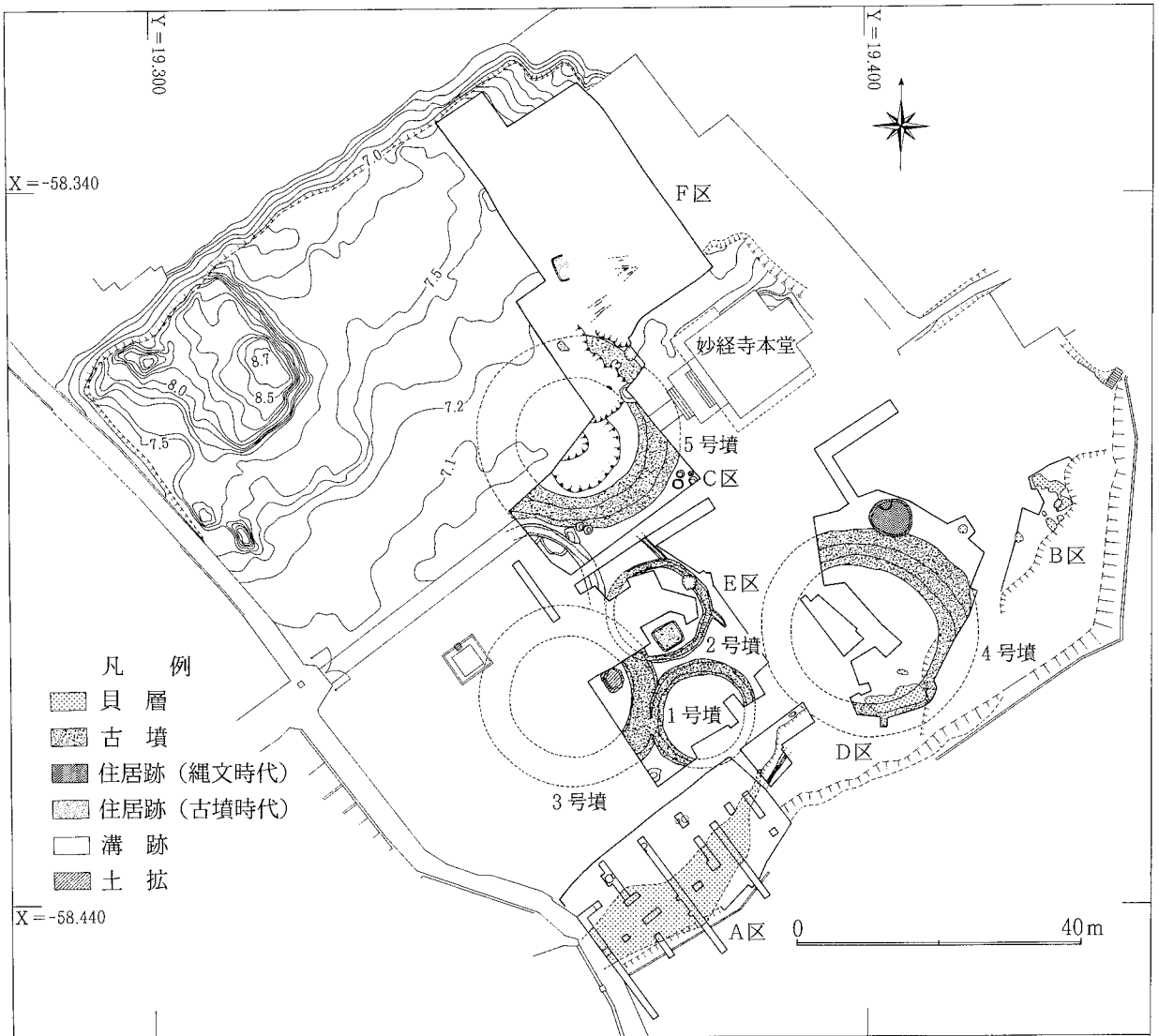
調査概要 遺跡は J R 姉ヶ崎駅の南東約 300m に位置する妙経寺の境内に所在する。遺跡が所在する部分は標高 6～7 m の砂堆 (砂丘) 上で、周囲より 3～4 m 高い地形である。

今回の調査は、継続して行なわれている市原市の「姉崎駅前土地区画整理事業」による妙経寺墓地の改葬・移転に伴うもので、今回は本堂の西側部分および本堂正面の参道部分の 2 地区で合せて 1,185㎡ の発掘を行った。本堂の西側部分 (調査では F 区と呼称) については、墓地の改葬時に全面に渡り約 1.5～2 m の掘削を受けており、遺構が残っている可能性は少ないものと考えていた。調査の結果、古墳時代初頭頃の堅穴住居跡 1 軒および時期のわからない溝状遺構の残存部分 2 条を発見した。本堂正面の参道部分 (調査では C 区と呼称) については、古墳 1 基 (5 号墳) および古墳時代の溝状遺構 1 条が発見された。古墳は、墳丘部分がすでに削平されていたものの内径 16m、周溝幅 4 m の円墳で、周溝内から 5 世紀末から 6 世紀初頭頃の土師器、須恵器が出土した。溝状遺構は、昨年度の調査で発見した溝の延長部分で、今回は部分的な調査のため性格などは不明だが隣接の古墳より古い状況である。



昨年度発見した4基の古墳と合せると5基となり、調査面積から考えると密集した状況と言える。時期的には1号墳は5世紀後半頃、3・4号墳については7世紀頃、今回の5号墳が6世紀初頭頃のものとする。今後の墓地改葬に伴う調査では、古墳の基数は増加するものと思われ、この妙経寺境内一帯の砂堆上は、密集した古墳群であったことがうかがえる。

(小出紳夫)



姉崎妙経寺遺跡全体図 (1 : 1,000)

## 5. うるいどなかよこみね 潤井戸中横峰遺跡（2次）

事業名 都市計画道路押沼安須線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市潤井戸143-3 他

調査期間 平成8年4月15日～平成8年11月29日

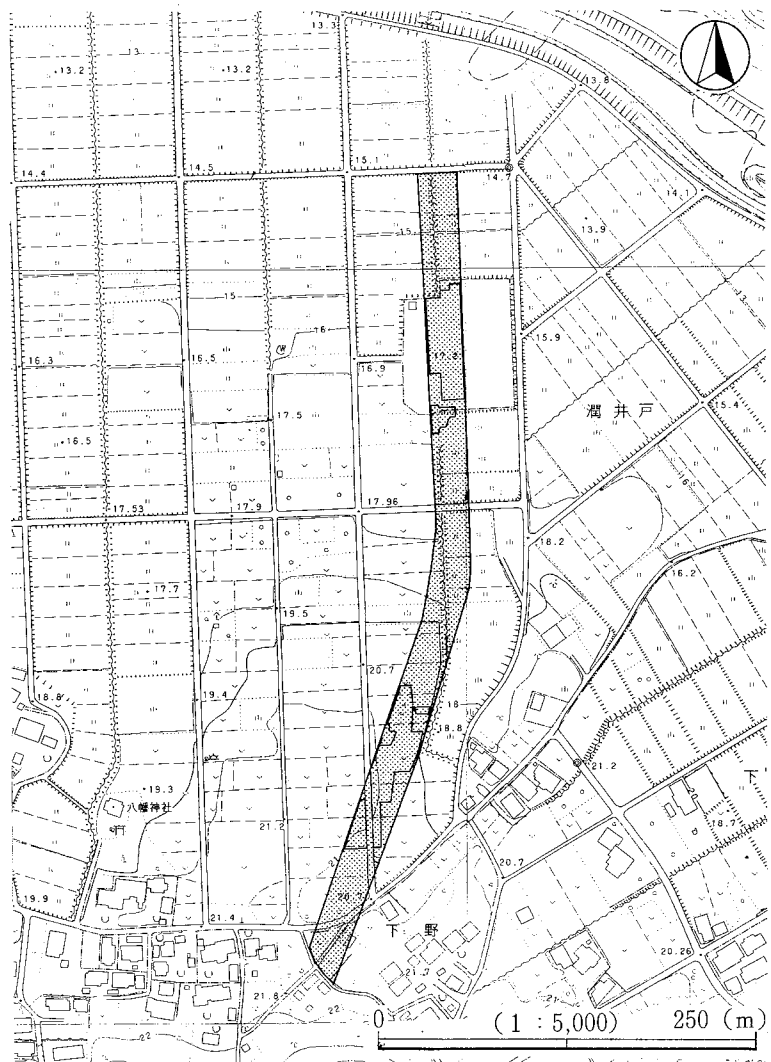
調査面積 15,000㎡のうち1,500㎡（上層・確認調査）85.7㎡（下層・確認調査）  
3,210㎡（上層・本調査）

調査概要 本遺跡は、村田川中流域に形成された標高16～21m前後の河岸段丘に位置する。調査の結果、奈良・平安時代掘立柱建物跡1棟、縄文時代後期から奈良時代にいたる竪穴住居跡16軒、縄文時代陥し穴22基等が検出され、また弥生時代中期～後期にいたる方形周溝墓8基が検出された。

先述した方形周溝墓は村田川左岸に舌状に張り出した標高16～17mの段丘面に存在し、当地に弥生時代中期を中心とした墓域が形成されていたことが判明した。

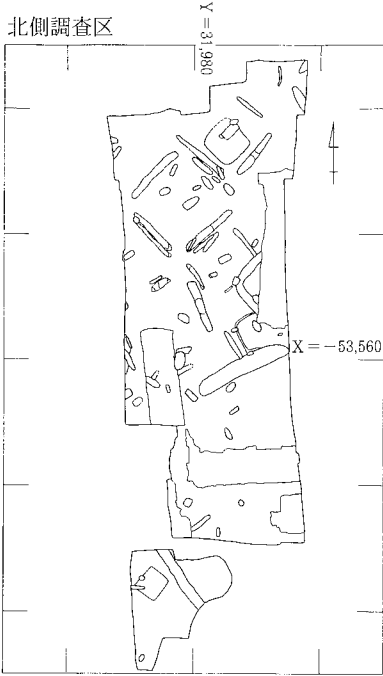
なお、本遺跡の詳細については、下記文献によらねたい。

「2. 潤井戸中横峰遺跡」『第12回 市原市文化財センター遺跡発表会要旨』1997  
(小川浩一)

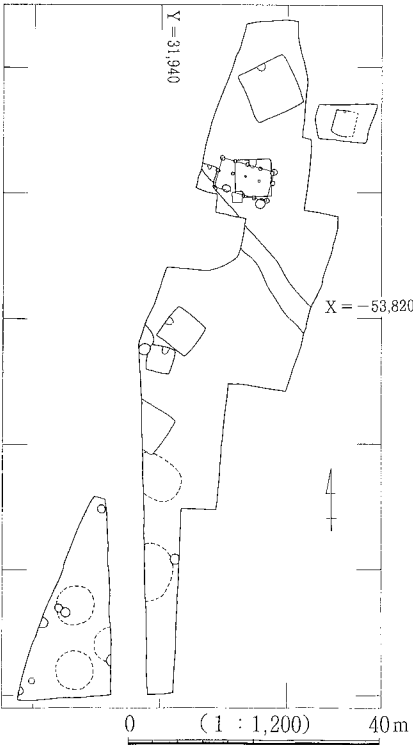


潤井戸中横峰遺跡（2次）の位置と調査対象範囲

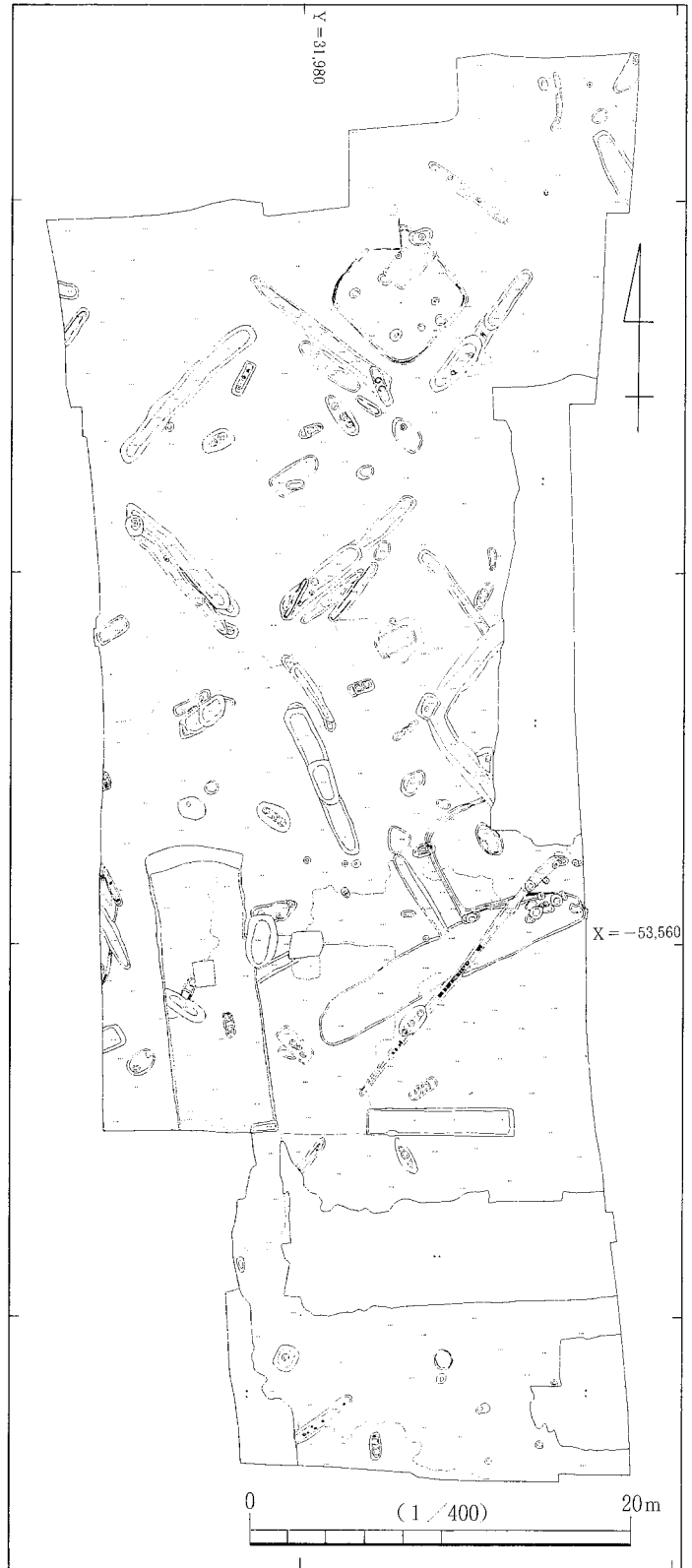
北側調査区



南側調査区



潤井戸中横峰遺跡全体図



北側調査区遺構配置図

## 6. 姉崎棗塚遺跡

事業名 都市計画道路八幡椎津線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

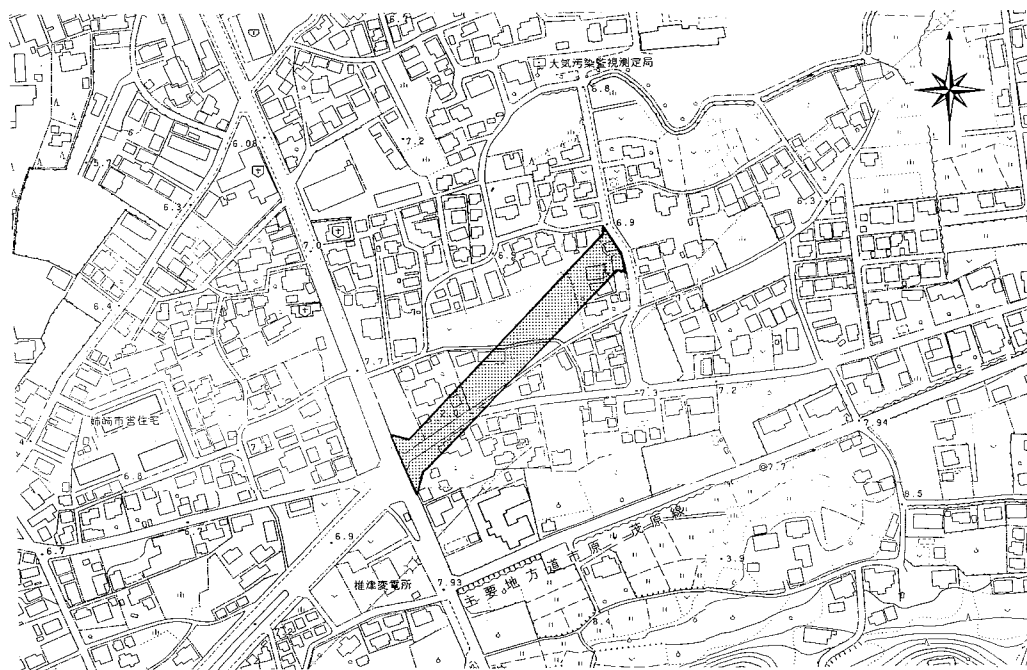
所在地 千葉県市原市姉崎1,919地先他

調査期間 平成8年11月1日～12月24日（確認調査） 平成9年1月20日～3月28日（本調査）

調査面積 4,087㎡のうち408㎡（確認調査） 1,340㎡（本調査）

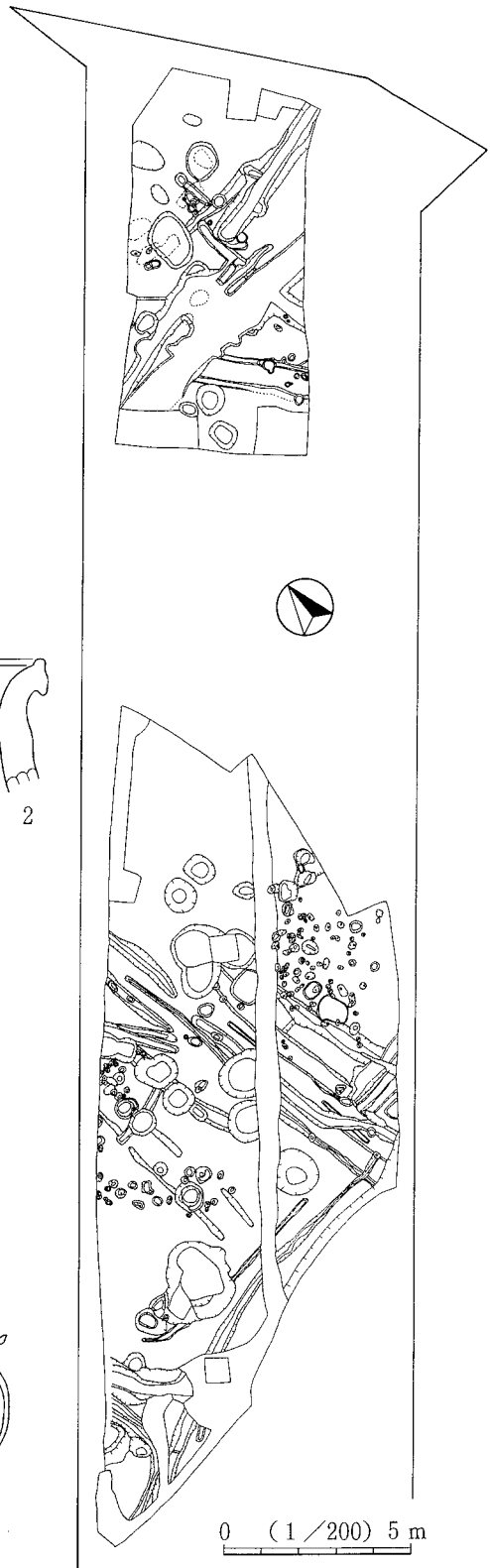
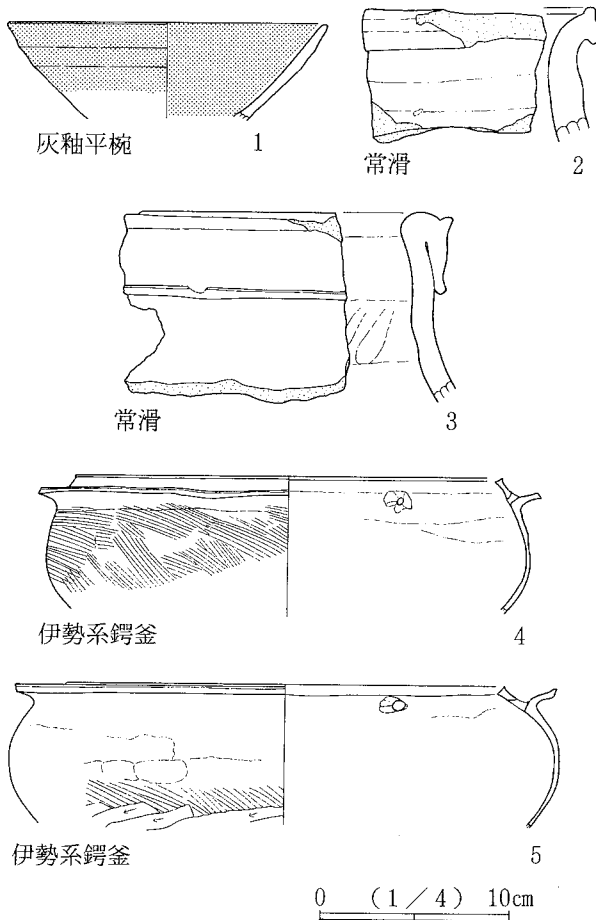
調査概要 千葉県市原市姉崎に所在する姉崎棗塚遺跡は、JR姉ヶ崎駅からほど近い標高5～6m程度の低地帯に位置している。付近の地形を細かく見ると、台地から海岸線までの間に海岸線に沿って発達した「砂堆」と呼ばれる数条の微高地が存在する。姉崎棗塚遺跡はこのうちの台地に近い砂堆上に位置しており、付近の田んぼとは50cm～1mの比高差がある。

検出された遺構は、人骨を伴う土壇墓3基、土坑42基、溝状遺構29条、粘土貼り土坑5基などである。このほか、表土直下で20cm～30cmの厚さの貝層が確認されている。貝種はイボキサゴを主体とし、ハマグリ、シオフキ、アサリ、マガキなどで、時期は詳しい分析を行っていないので明確にできないが貝層除去後に検出された土坑や溝が貝層を掘り込んでいないことから検出された遺構群よりも新しいと思われる。しかし、貝層のサンプル中にスラグや鍛造剥片などが混在しており、遺構群の時期とそれほど離れた時期ではないと思われる。溝は直角方向に交差する2方向の溝が検出されている。溝幅はあまりなく浅いが、何らかの区画溝と考えられる。大型の土坑はこれらの溝にあまり規制されていないような状況で検出されている。



第1図 姉崎棗塚遺跡調査位置図 (1/5,000)

遺物は、貿易陶磁の青磁・白磁、国産陶磁の瀬戸製品（縁釉小皿、折縁小皿、おろし皿、端反皿、平碗、天目茶碗、三足盤、播鉢 茶壺、瓶子、祖母懷茶壺）、常滑製品（甕、壺、こね鉢）、備前製品（播鉢）などである。この他伊勢系鍔釜、内耳土器、カワラケ、銭貨、スラグ、羽口、縄文土器、古墳時代土師器・須恵器、円筒埴輪、板碑、五輪塔、茶臼、砥石などである。検出された遺構の時期は、出土遺物から15世紀後半代を主体としていると考えられ、姉崎周辺の中世の動向を探る上で今回の調査は貴重な資料を提供している。（蜂屋孝之）



第2図 検出遺構及び出土遺物

## 7. 山田橋亥の海道遺跡

**事業名** 都市計画道路君塚小田部線建設に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市山田橋172-1他

**調査期間** 平成8年5月27日～平成8年6月19日（確認調査）

平成8年6月26日～平成8年12月10日（本調査）

**調査面積** 1,613㎡のうち161.3㎡（確認調査） 1,550㎡（本調査）

**調査概要** 山田橋亥の海道遺跡は、市原台地の東側に深く入り込んでいる開析谷の、谷頭部西側台地上から縁辺にかけて広がる遺跡である。亥の海道貝塚が知られている。今回の調査地点は、遺跡の北東端部に当たっており、谷頭を渡る古代以来の道路状遺構を中心とする部分であった。調査は、国道297号線を挟んで、北側調査区と南側調査区とに分けて実施している。

発見された遺構は、平安時代以降を中心とする道路状遺構（2ヶ所）、溝状遺構（16条）、ピット群（1ヶ所）であった。また南側調査区のほぼ中央には、隣接地で発見されていた縄文時代の埋没谷が入り込んでおり、古代道の建設時期には、既に、谷頭部がやや北に後退していたことも、観察することができた。調査地点の標高は29～30mである。道は、北側調査区から埋没谷に向かって緩やかな下り坂となり、これを境に、山田橋表通遺跡や大山台・大塚台遺跡に向かって、再び上り坂となっていた。北からの道は、南東へ進路を大きく変えている。

本遺跡で発見された道路遺構の北側延長線上には、幅員5m前後の計画道が発見されている。稲荷台G地点である。更に、木戸脇・道成窪・辻といった字名や、連続する地割も見られる。稲荷台遺跡・郡本遺跡・古甲遺跡などが並ぶ。即ち、山田橋から市原にかけては、古代の市原を語る重要な地域と言える。辻に隣接する向台には、早くから「上総国庁址」との説があった。光善寺廃寺との関係から、遠ざけられてきた説ではあるが、近年、ここに方格子地割の存在が指摘され、見直しが急務となってきている。辻から北西に折れて台地を降りると、市原条里制遺跡で発見された幅員6m前後の直線道路に至る。亥の海道遺跡は、国府域の南端にあたろう。

（田所 真）

### （主要参考文献）

- 鶴田恵吉 1968 「上総国府の研究」『市原地方史研究 第四号』市原市教育委員会  
浅利幸一 1980 「稲荷台遺跡第2次調査」『上総国分寺台発掘調査概報』市原市教育委員会  
田中清美 1989 『千草山遺跡・東千草山遺跡』財団法人市原市文化財センター  
近藤 敏 1991 「五所四反田遺跡」『第6回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』  
大谷弘幸 1991 「市原条里制遺跡検出の古道について」同上発表要旨  
忍澤成規 1992 『市原市山田橋亥の海道貝塚』財団法人市原市文化財センター  
宮本敬一 1996 「上総国」シンポジウム資料『国府 畿内・七道の様相』日本考古学協会三重県実行委員会  
半田堅三 1997 「5.山田橋大塚台遺跡」『市原市文化財センター年報 平成五年度』  
吉田敏弘 1999 「市原台地の地割」『上総国府推定地歴史地理学的調査報告』市原市教育委員会



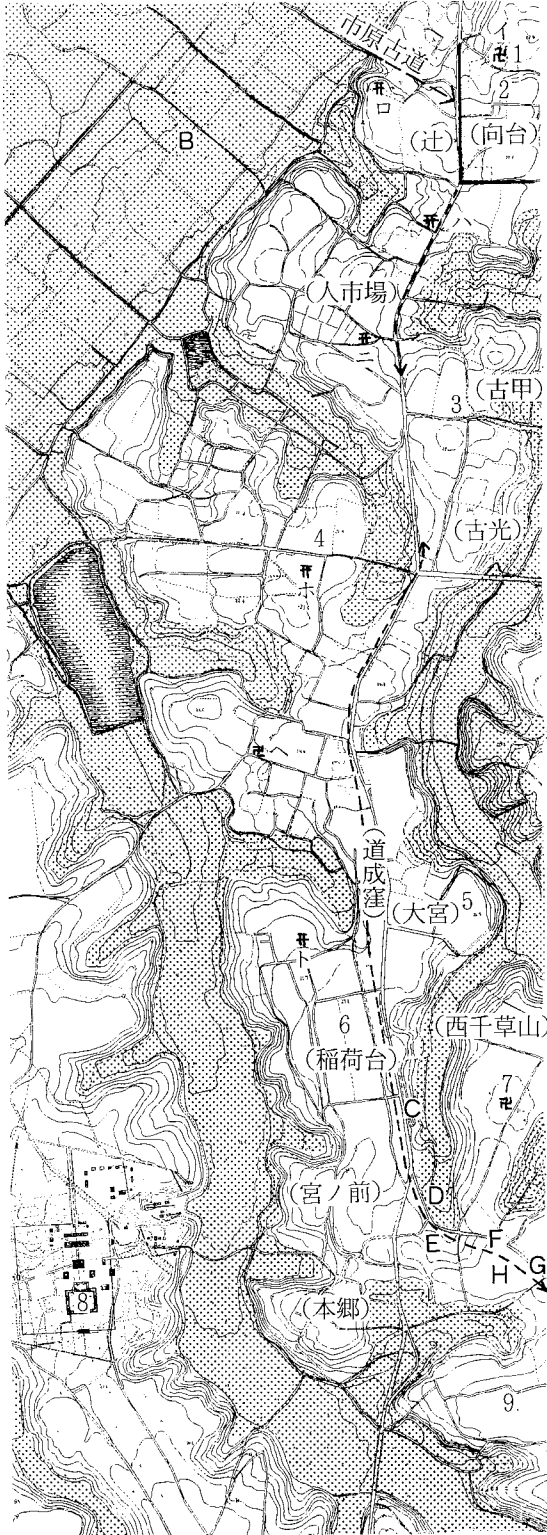


表1 古代道の形状と規模

図中No.	遺跡名 (道構名)	形状	立地	路面幅 (m)	溝幅 (m)	長さ (m)	年代
A	五所四反田遺跡	両側溝	低地	6.0m±	1.0m±	120m±	8.9C-
B	市原築里遺跡	両側溝	低地	5.5m±	2.0m±	55m±	8.9C-
C	稻荷台遺跡C地点	片側溝	台地	4.2m-6m	0.9m±	40m±	8.9C-
D	茨の海道遺跡北跡	両側溝	台地	2.3m-4.2m	1.5m±	42m±	
E	茨の海道遺跡南跡	両側溝	台地	3.0m±	2.0m±	57m±	
F	東千草山遺跡	溝形	台地	—	—	—	(9C)
G	表廻遺跡(分枝)	溝形	台地	6.0m±-3.0m	—	30m/38m±	8.9C-
H	表廻遺跡(北跡)	溝形	台地	3.0m±	—	140m±	大塚台跡へ?
I	大塚台遺跡 Ⅰ	片側溝	台地	6.0m-6.5m	—	30m±	8.9C-
J	大塚台遺跡 Ⅱ	溝形	台地	(4.0m±)	—	22m±	近世
K	大塚台遺跡 Ⅲ	両側溝	台地	3.0m-4.0m	1.0m±	22m±	
参考	権津敷の上遺跡	両側溝	台地	3.0m±	1.0m±		8.9C-

(周囲の主な遺跡)

1. 光善寺廃寺跡
2. 「上総国庁址」想定地
3. 古甲遺跡
4. 郡本遺跡
5. 郡本大宮遺跡
6. 稻荷台遺跡
7. 千草廃寺跡
8. 上総国分尼寺跡
9. 山田橋大山台遺跡

(周囲の神社など)

- イ. 光善寺
- ロ. 阿須波神社
- ハ. 市原八幡神社
- ニ. 姥神社
- ホ. 郡本八幡神社
- ヘ. 神守院跡
- ト. 稻荷神社

※ 昭和39年の地形図(S=1/3,000)を原図として作成した。

S=1/20,000

( )内は小字名

図1 古代道と周囲の環境

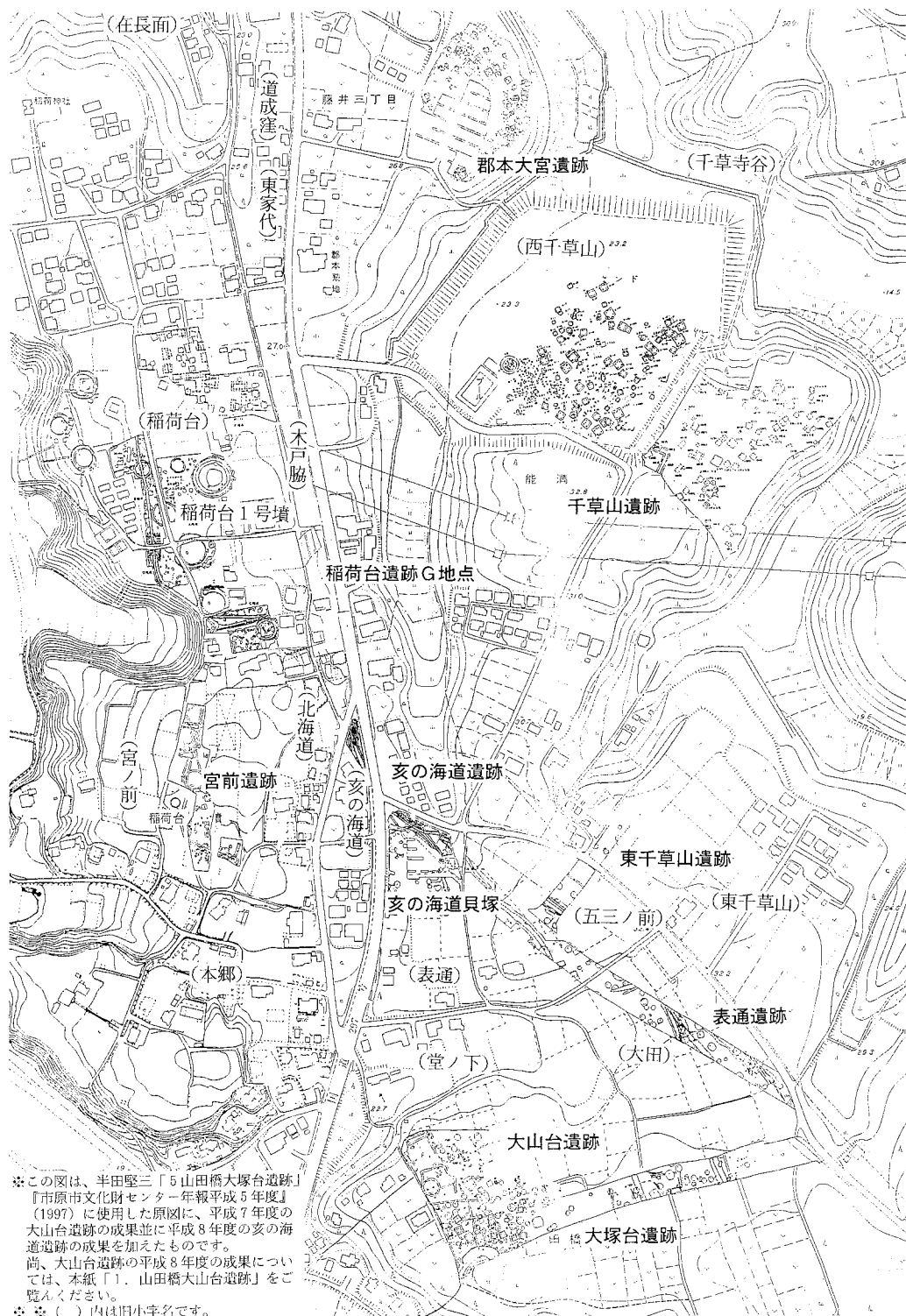


図2 市原市山田橋の道路遺構と周囲の遺跡

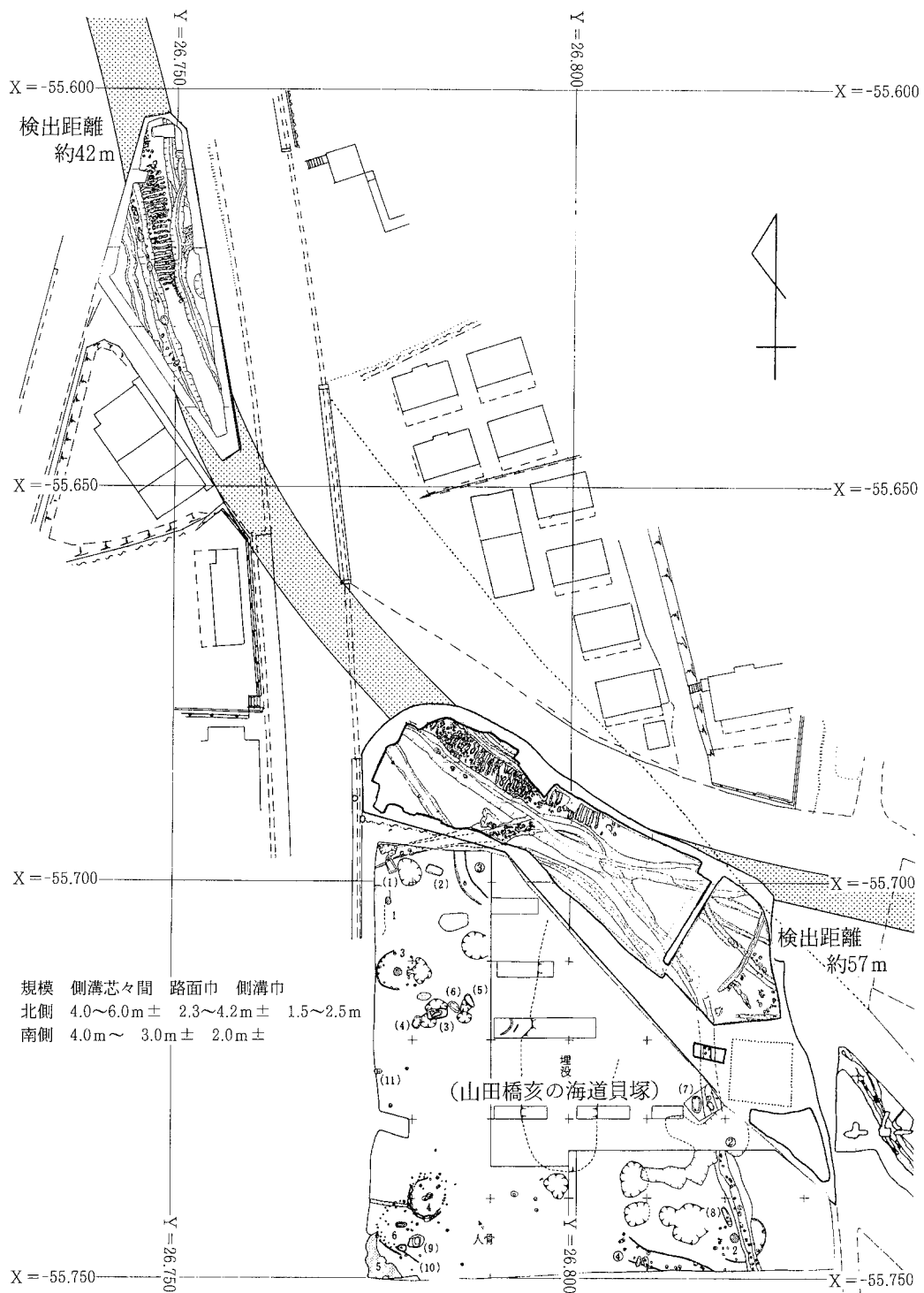


図3 山田橋亥の海道遺跡全体図

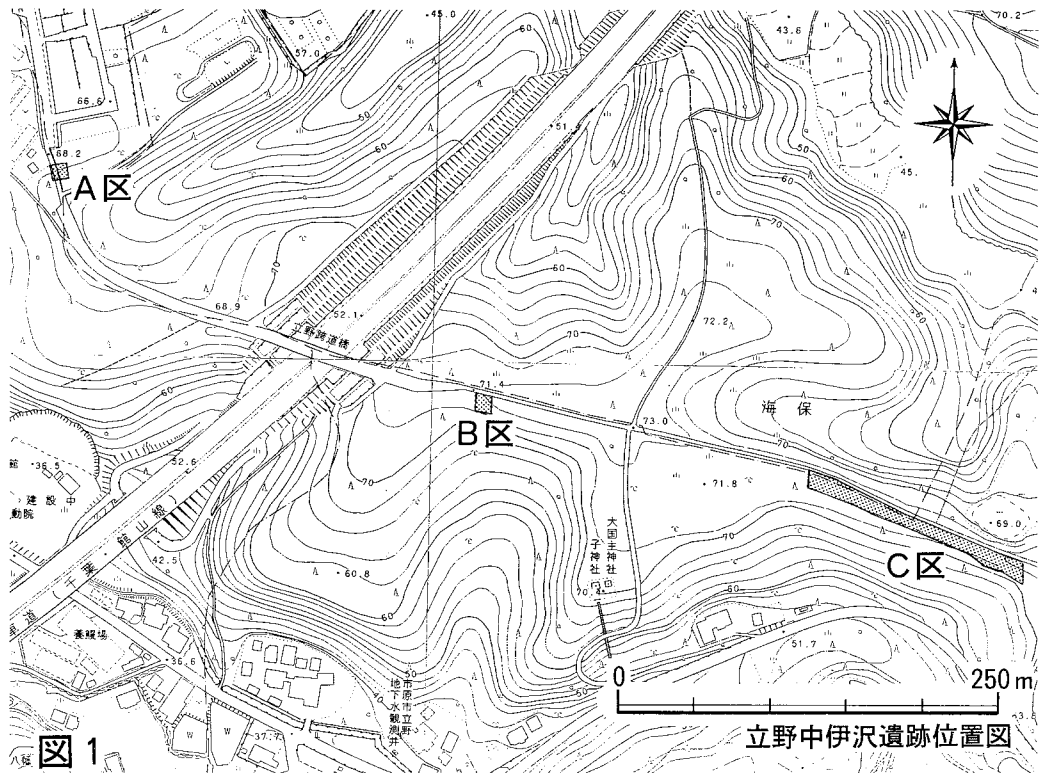
## たてのなかいざわ 8. 立野中伊沢遺跡

事業名 市道148号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市立野228-1番地他

調査期間 平成9年1月31日～3月28日

調査面積 1,750㎡（本調査）



**調査概要** 本遺跡は南側を椎津川に開析された標高70m程の細く東西に延びる台地上に位置する。今回の調査は、平成5年度の確認調査での、先土器時代剥片集中地点、縄文時代早期包合層・炉穴、奈良平安時代竪穴住居の確認を受け、3地点の調査区を北からA・B・C区として実施した。周辺の遺跡としては、同台地上1km圏内には縄文時代早期後半の住居跡・炉穴、古墳時代前期住居跡、奈良・平安時代住居跡・方形周溝遺構等を検出した片又木遺跡が位置し、小谷を挟んで北側台地上には、縄文時代早期後半の炉穴、46群121基を検出した今富大道遺跡が存在する。本遺跡のA区・B区間の東関東自動車道用地は平成2年度に中伊沢遺跡として調査が行われ、縄文時代早期の土坑2基を検出している。

今回の調査の結果、縄文時代早期包含層・炉穴6基、縄文時代陥し穴1基・土坑20基、奈良・平安時代竪穴式住居跡1軒、時期不明道路状遺構2条等の遺構を検出した。

A区は5m×7m程の調査区で、奈良・平安時代の竪穴式住居1軒が検出された。住居の規模は、3.2m×3.1m程で、覆土には多量の焼土粒や炭化物が含まれており、床面には建物の部材と考えられる炭化材が多く遺存していた。

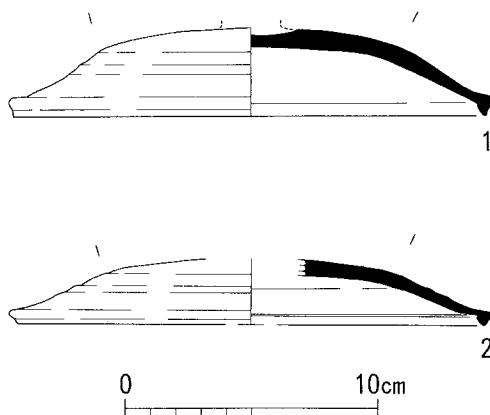


図 2

構造としては、北側壁面中央にカマドが認められるが、遺存度は低い。支柱穴・周溝は認められず、南西隅に貯蔵穴とみられる掘り込みがある。遺物は、図2の1が住居西側壁面中央付近の床面直上より内側を上にした状態で、2が貯蔵穴底より検出された。1・2ともに内面中央部分が摩滅して滑らかになっており、1については墨の付着が認められることから、硯として転用されたものと考えられる。

B区は10m×10m程の調査区で確認調査時にV層中より剥片10点を検出しているが、今回の調査では石核1点、剥片1点を検出した。

C区は、頂上幅20m～50mを測る、馬の脊状の尾根に位置する。10m×160m程の細長い調査区で、全体に南へ傾斜している。包含層については、2m×2mの小グリッドを設定し、遺物を取り上げた。遺構としては、炉穴が3地点、6基が検出された。その内028号遺構では、条痕文系土器(図3の1・2)が出土している(1は1個体として接合可能)。道路状遺構は確認面から20cm程の深さで、覆土中～上部に宝永の火山灰が確認されたことから、近世に機能していたと考えられる。  
(北見一弘)

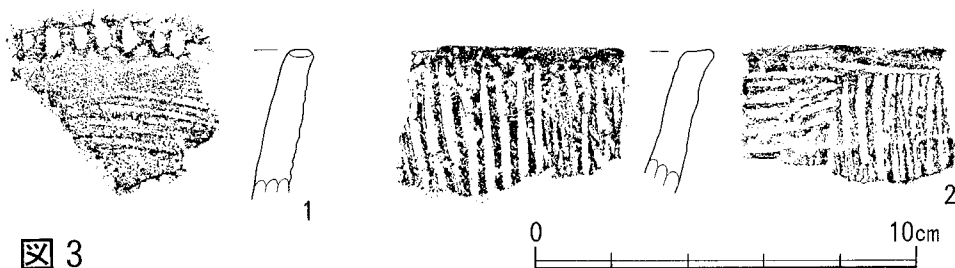


図 3

## 9. 五井神取遺跡

事業名 都市計画道路青柳北飯沼線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市五井9-1他

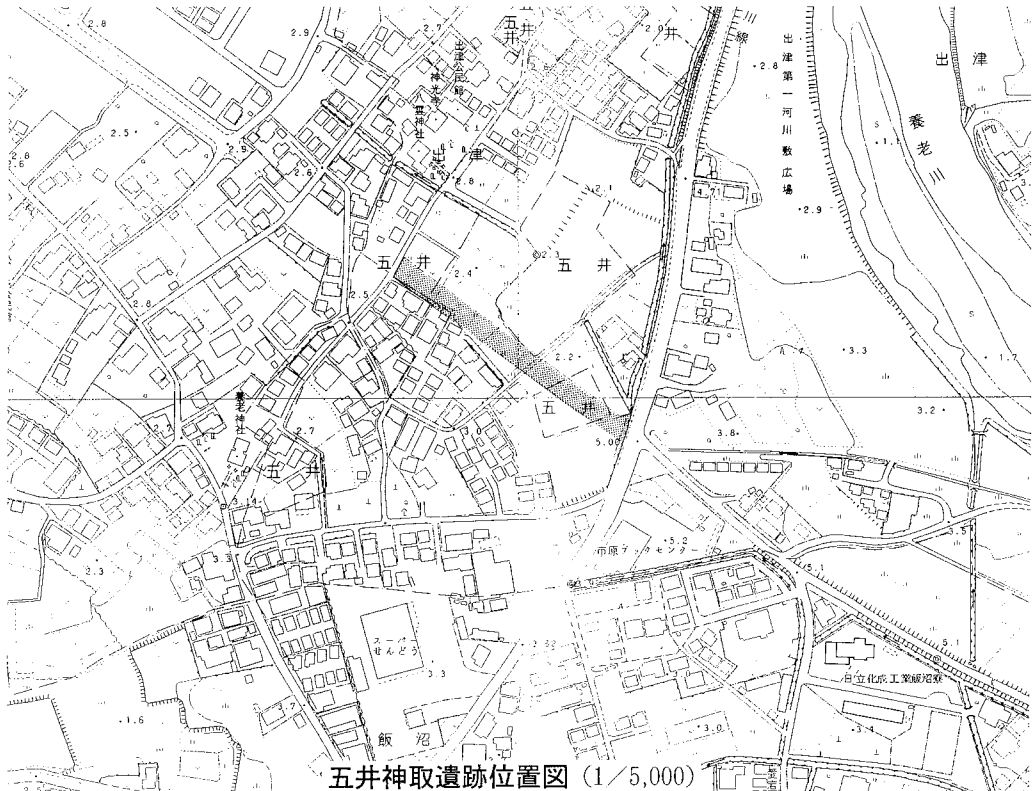
調査期間 平成8年12月9日～平成9年1月17日

調査面積 2,822㎡のうち282㎡

調査概要 遺跡は養老川下流左岸の標高約2mの沖積地上にある。南東から延びてきた流路が北方へと向きを変える屈曲点の外側にあたる。流路に近接し、河口にも近いところから、洪水や津波の影響を受けやすい環境であったと考えられる。遺跡の東端は県道千葉鴨川線に接している。かつての房総往還である。調査前の現地はわずかに土師器片が散布していた。これまで、近接する箇所での調査歴はない。

調査は調査対象範囲にグリッドを配置して行った。遺構確認面は最終的には、地表から約2m下位となり、調査区は常時水没する状況であった。この遺構確認面で確認した遺構は、近世以降の溝4条である。遺物もごく少量の出土にとどまり、本調査には移行しなかった。遺構の確認面がかなり下位だったことから、近世段階の景観は現在とかなり異なったことが想起され、さらに中世、古代と遡及した場合は、今とはまったく異なる姿であったかもしれない。

(高橋康男)



## 10. 郡本遺跡群（古甲遺跡第5次）

事業名 平成8年度 上総国府推定地確認調査委託

所在地 市原市郡本二丁目～門前二丁目

調査期間 平成9年2月12日～平成9年3月18日

調査面積 3,240㎡のうち441㎡（確認調査） 120㎡（本調査）

調査概要 平成3年度より古甲遺跡で実施してきた上総国府推定地確認調査の第5次調査である。調査は、5地点（A～E）で実施した。各調査地点での成果は、以下の通りであった。

**A地点の調査** 八世紀中葉から九世紀の竪穴建物跡や、火葬土壇・掘立柱建物跡などを確認した。調査対象地全域にわたって遺構が分布しており、掘り込みの深いものについては、比較的に良好な形で保存されている。

**B地点の調査** 耕作土直下に、ソフトローム土が観察された。遺構の分布は全域に及んでいるが、密度は比較的に低い。溝状遺構や竪穴建物跡、規模の小さな掘立柱建物跡などを確認している。遺物の出土量も、他地点と比較するとやや少ない傾向が見られる。また、調査地点ほぼ中央において五世紀代の木棺直葬墓1基を確認している。周溝や盛土は確認できなかった。

**C地点の調査** B地点同様、耕作土直下にソフトローム土が確認された。字「古光」にあたる地点である。調査対象地全域にわたって遺物の分布を見るが、遺構では弥生時代後期の竪穴式住居跡1軒を調査したのみであった。掘立柱建物跡を確認できる状況にはなかったが、奈良時代以降の竪穴建物跡が発見されていない点は、平成3年度以来の調査として特筆されよう。

**D地点の調査** 奈良時代中葉以降の竪穴建物跡2軒と、掘立柱建物跡3棟以上が重複した形で確認された。南側の東竈の竪穴建物跡からは、多量の須恵器などが発見されており、「山」の墨書土器も1点出土している。掘立柱建物跡はいずれも竪穴建物跡廃絶後に建てられている。また、掘立柱建物間での変遷に、焼土層による整地面が確認されている。柱掘形から白磁の出土した例も観られ、これまでの調査の中では最も新しい時期の遺構群を含むものと考えられる。

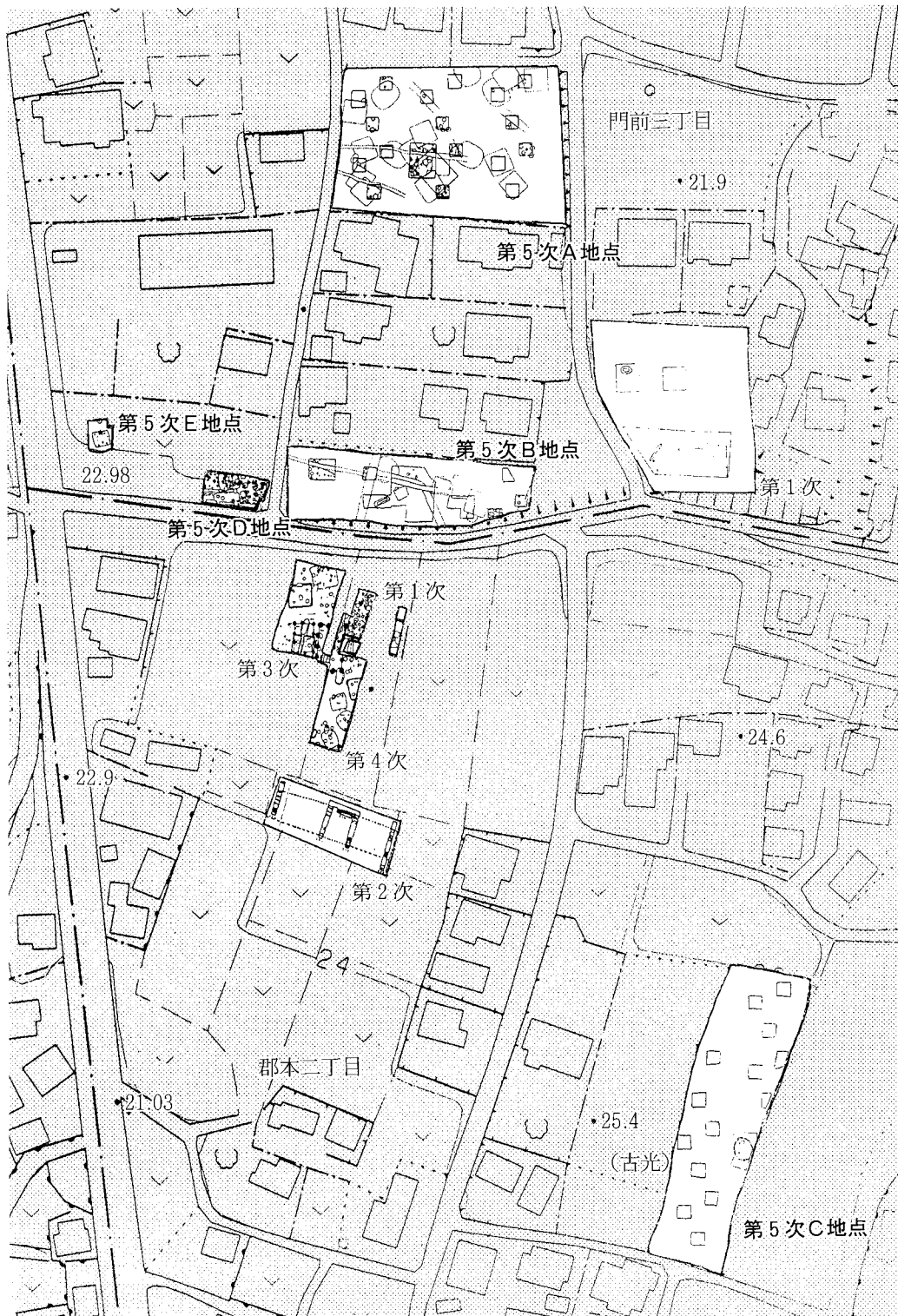
**E地点の調査** 奈良時代後期の竪穴建物跡1軒を検出し記録した。建物は北竈でほぼ正方位をとる。D地点で確認した焼土面は、E地点に及んでいなかった。

平成3年度以来の発掘調査と電気探査によって、郡本遺跡群古甲遺跡の概要を、不十分ながらも、面的に把握することができた。その概要については、参考文献を参照されたい。

（田所 真）

### （参考文献）

田所 真「12 郡本遺跡群」『千葉県の歴史』資料編 中世1（考古資料）千葉県（1998）



郡本遺跡群古甲遺跡



## 11. 畑木小谷遺跡

事業名 不特定遺跡発掘調査

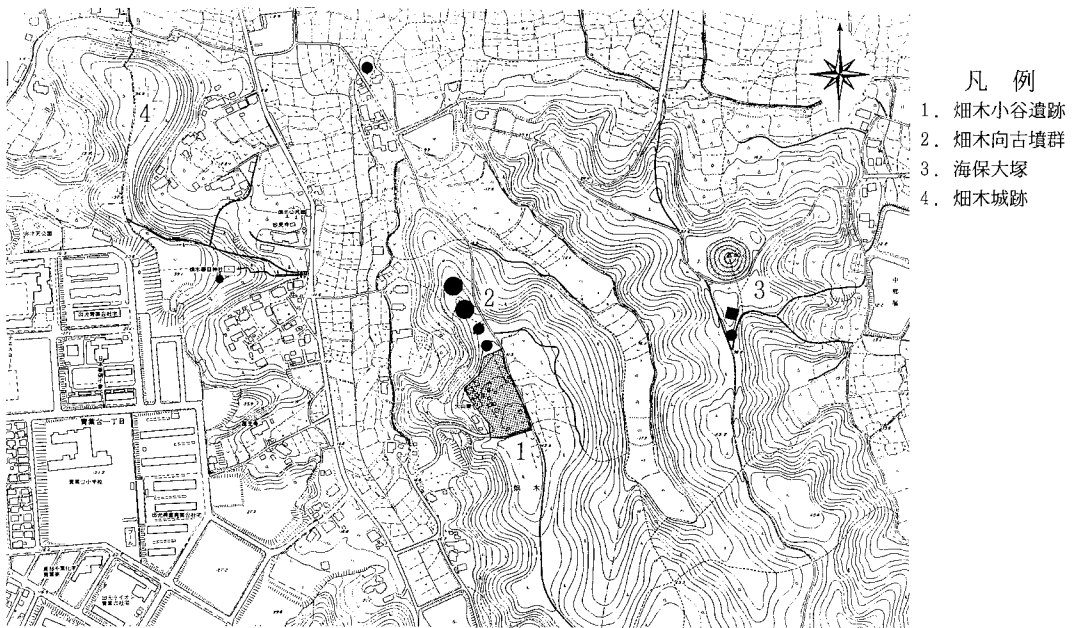
所在地 市原市畑木246番地の1他

調査期間 平成9年1月27日～2月10日

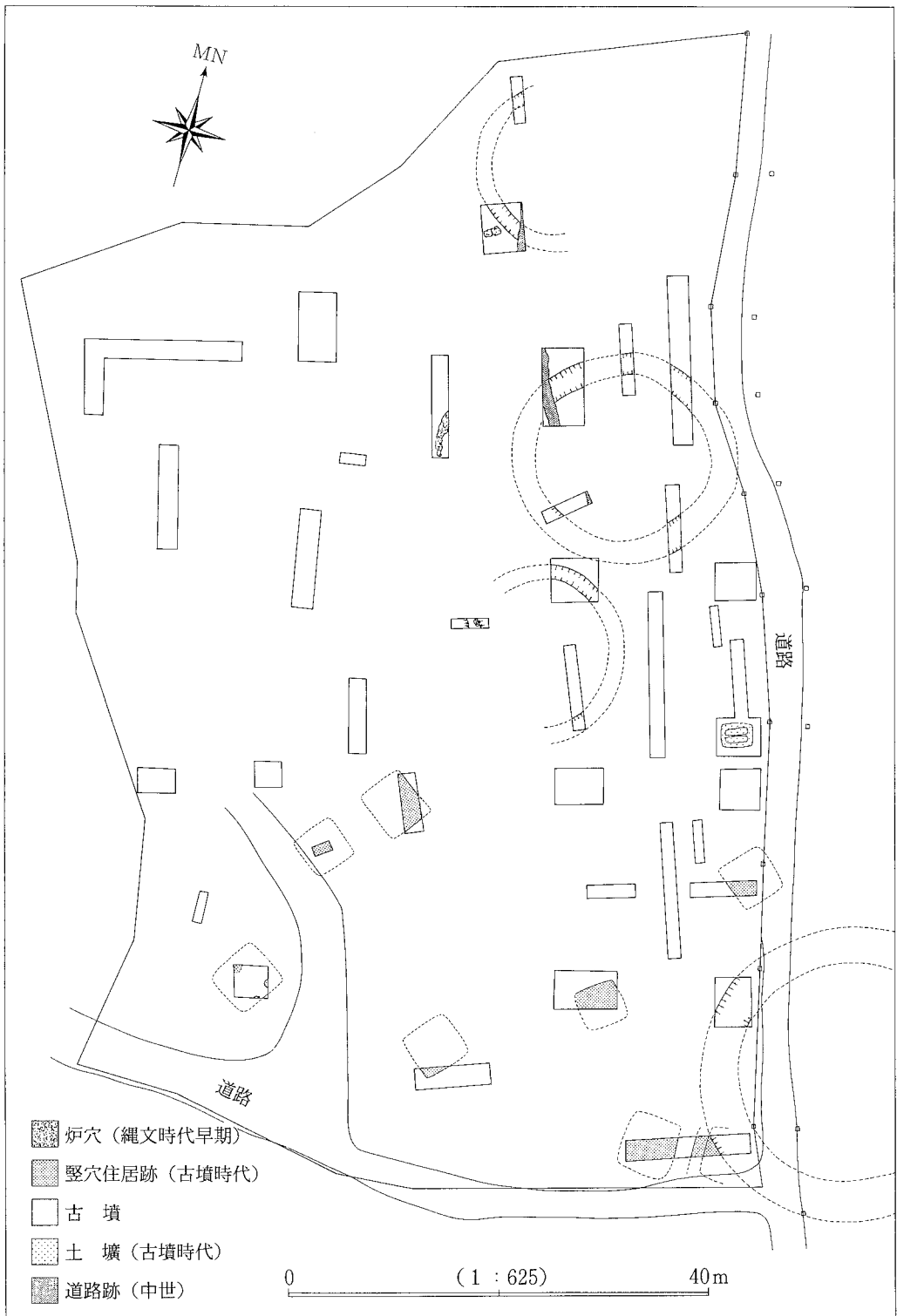
調査面積 6,028㎡のうち580㎡（確認調査）

調査概要 畑木小谷遺跡は、養老川下流域を北に望む標高42m前後の丘陵台地に位置している。この丘陵台地から養老川に向かって伸びる尾根には、径10～15mの規模を持つ4基の円墳からなる畑木向古墳が所在する。今回の調査は、当該地部分に身体障害者施設の建設が計画されたことによるもので、対象地全域の確認調査を実施した。

調査の結果、調査区の西側部分約1,700㎡については、昭和50年代のレクリエーション施設の造成のため、大きく削平を受けており遺構は認められなかった。それ以外の区域から、縄文時代早期の炉穴3群、古墳時代前～中期の竪穴住居跡8軒、古墳4基、古墳時代の土壌1基、中世期の道路跡1条が検出された。状況としては、調査区域北側部分は、縄文時代の炉穴などの遺構を含め、縄文土器が多量に出土している。南側部分は主に古墳時代前～中期の竪穴住居跡群の検出が見られた。



畑木小谷遺跡の位置 (S = 1 : 10,000)



畑木小谷遺跡グリッド配置図

古墳については、推定15～20m程度の規模を持つ円墳と考えられる。時期については、不明瞭だったが、一部竪穴住居跡を壊して周溝を造っていることから、後期の可能性も考えられる。古墳時代の土壌については、トレンチによる確認で遺物の一部を検出したことからその存在がわかり、急遽その部分を拡張した。調査の結果、墓壇掘り方は長軸3.1m、短軸2.3mで、掘り方内に2つの棺を北東－南西方向に並列して設置してあった模様である。そのうちの南側の棺の頭部付近から耳環5点、琥珀製棗玉7点、ガラス小玉229点、滑石製白玉2点、腕部分と思われる箇所からは銅釧が重なった状態で2点出土した。

また、北側の棺からは、ガラス小玉11点、滑石製白玉4点出土した。この土壌が古墳の主体部の可能性もあるため、土壌墓周囲の予想される部分について、トレンチを増設して確認したが、周溝の存在は見られなかった。このことから、単独の土壌墓として判断している。

以上の結果、畑木小谷遺跡は、縄文時代早期の炉穴群、古墳時代前期から～中期にかけての集落跡、古墳群と比較的密な状況の複合した遺跡として取り扱うことができる。

(小出紳夫)

## 12. 市原条里制遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市菊間字六洲弁才天267-6、268-1番地

調査期間 平成8年4月8日～4月11日

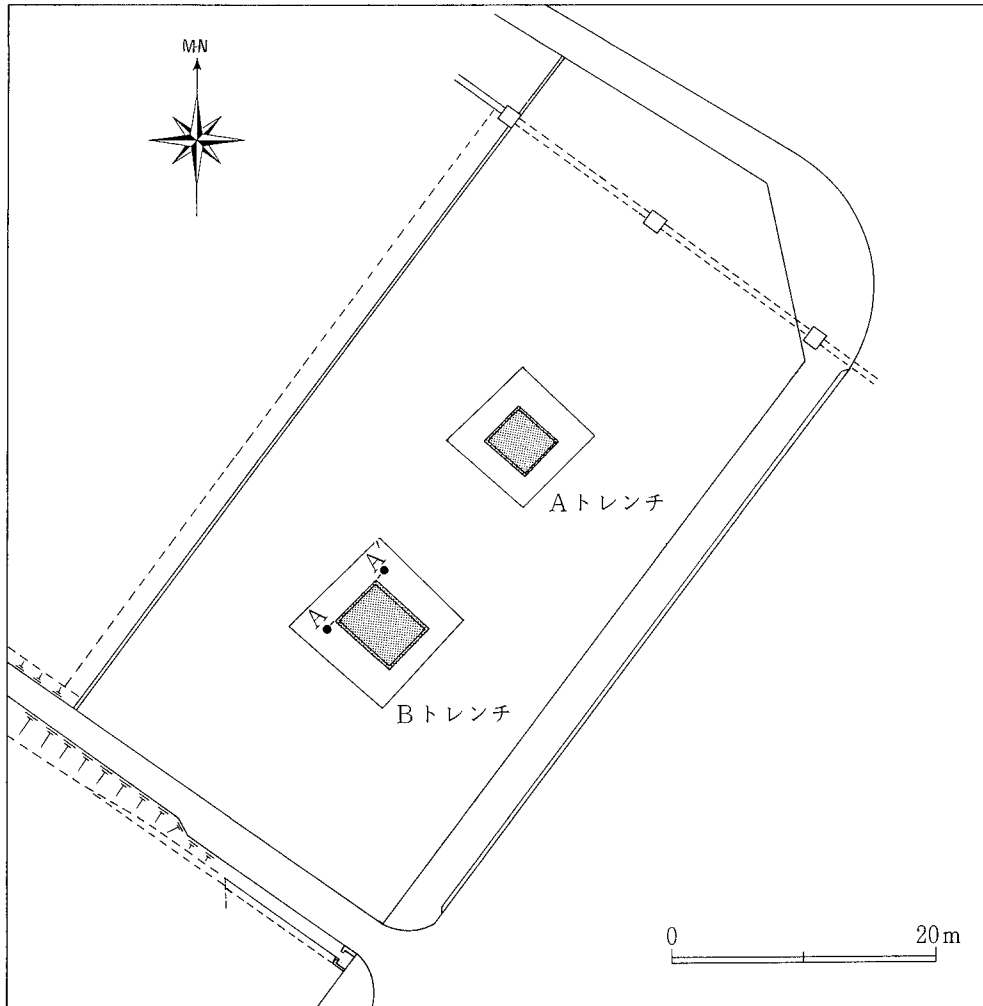
調査面積 1,582㎡のうち34㎡（確認調査）

調査概要 市原条里制遺跡は市原台地の北西に広がる標高5m前後の沖積低地に立地する。当遺跡を含む周辺は昭和63年から平成5年にかけて、高速道路建設（東関東自動車道-館山線）に伴う発掘調査を実施しており、その結果、古代から中世までの条里地割の畦畔・水路などの水田跡と縄文時代・弥生時代の貝塚および平安期の古代道路跡などが発見されている。現況では水田面の上に1m以上の客土をしていることなどから、調査は対象地に2ヶ所のトレンチを設定して発掘を行なった。

調査の結果、当初予想された条里に伴う水田跡は検出されなかった。調査地区の基本的な層序は、1・2層が灰褐色土、3・4層が灰褐色シルト質土、5・6層が暗灰色・黒色粘質土、7層が灰色シルト質砂層、8層が灰オリーブ色粘土層となっている。遺物については、小片で器形の分かるものは少なかったが、4層灰褐色シルト質土から中・近世の遺物を、5層、6層の暗灰色・黒色粘質土からは、土師器片のみ出土している。このうち、図にしえた遺物が第3図で、1は北宗銭（元祐通寶？）、2は志野釉丸皿とともに4層から出土している。今回の調査では、調査区が小規模のため水田等の遺構はつかめなかったが、今後周辺で調査が行なわれる場合、5・6層の暗灰色・黒色粘質土層部分を面的に精査する必要がある。（小出紳夫）



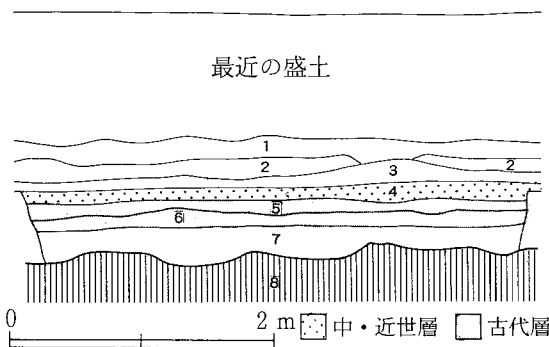
第1図 市原条里制遺跡周辺地形図



第2図 調査区域トレンチ配置図

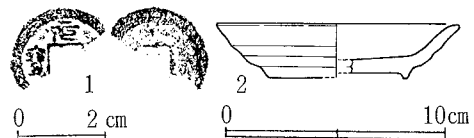
A 5,200m

A'



Bトレンチ土層断面図

1. 灰褐色土層 (7.5YR5/0) 現水田耕作層
2. 灰褐色土層 (7.5YR4/2) キシヤゴ・アサリの貝破片を多く含む
3. 灰褐色シルト質土層 (7.5YR4/2) 細砂混じりのシルト質土
4. 灰褐色シルト質土層 (7.5YR5/2) 粘性強い
5. 暗灰色粘質土層 (N3/0) 粘性強い シルト層の様に均質な土質
6. 黒色粘質土層 (N2/0) 粘性強い 白色粒子・植物遺存体を多く含む。
7. 灰色シルト質砂層 (5Y5/2) やや還元状態。植物の泥炭化物を含む。
8. 灰オリブ色粘土層 (7.5Y5/2) 地山



Bトレンチ出土遺物

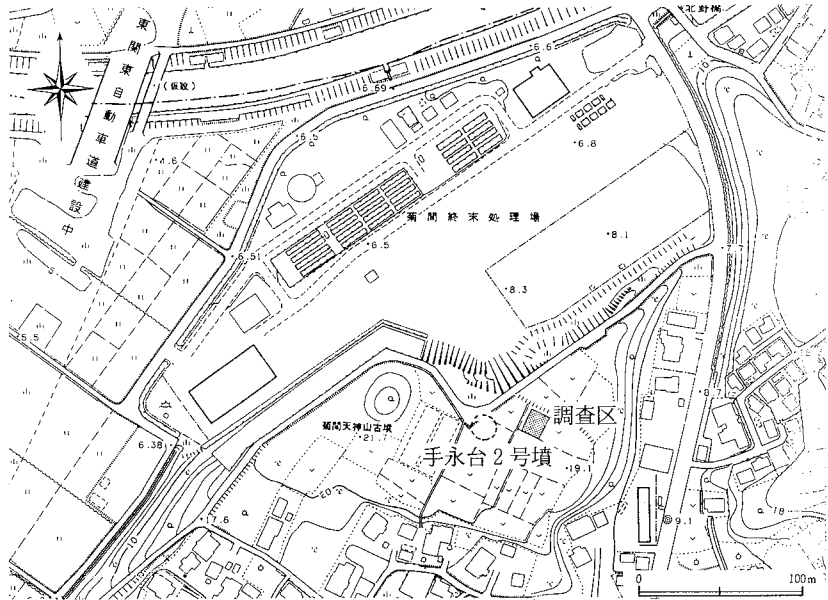
第3図 市原条里制遺跡全体図および出土遺物

### 13. 菊間手永遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査  
所在地 市原市菊間字手永2, 183番地  
調査期間 平成8年4月12～5月22日  
調査面積 264㎡のうち190㎡（本調査）

調査概要 菊間手永遺跡は、村田川が東京湾に流れ込む河口流域を一望できる標高19mの左岸台地上に位置する。現在は台地突端という地形となっているが、これは下水処理場建設による台地掘削のためであり、旧状は突端より約150m程奥まったところに位置していたことになる。

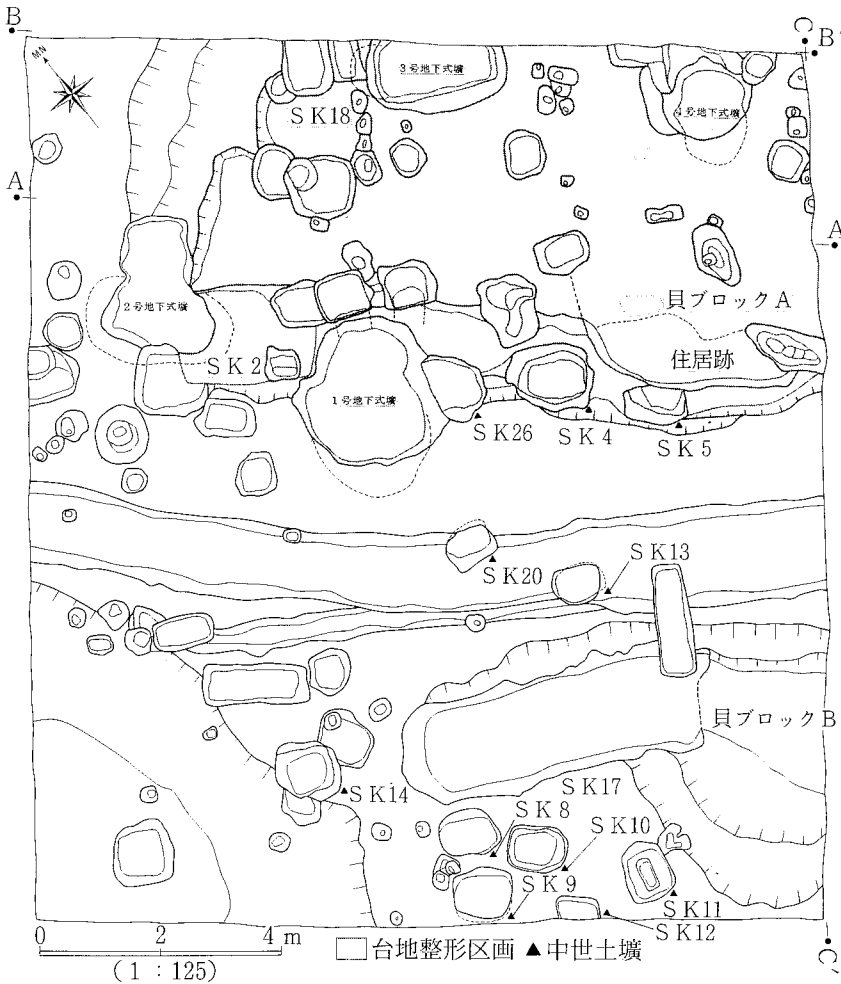
この地区には、縄文時代後期の馬蹄形貝塚である菊間手永貝塚が所在する。昭和46～47・58年度には、先程の下水処理場建設関連で約15,000㎡の発掘調査を行なった。この調査では、縄文時代から奈良・平安時代・中世までの集落跡、貝塚、古墳群、



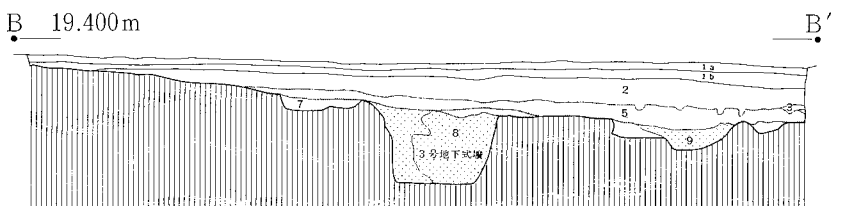
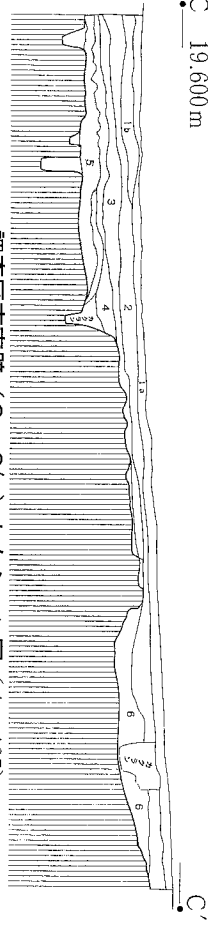
菊間手永遺跡周辺地形図

墓域など重複した遺構が発見されている。縄文時代では、後期の竪穴住居跡、小竪穴をはじめ、安行期の墓域等があり、弥生時代では中～後期の竪穴住居跡、V字型環壕溝が、古墳時代では後期の竪穴住居跡、古墳周溝などが検出され、中世には、地下式墳、土壇墓などを含む区画された墓域が発見されている。今回の調査は住宅建築に伴うもので、影響を受ける部分190㎡について発掘を行なった。

調査の結果、調査区北側から台地部分を削り込んだ台地整形区画と地下式墳4基及び中世土壇11基、同土坑6基、溝跡1条、弥生時代中期竪穴住居跡1軒、貝層ブロック2ヶ所を発見した。出土した遺物は、大部分が土器類の小片であったが、その中で顕著なものとしては円筒埴輪片、鉄滓が比較的多く見られた。円筒埴輪片については、昭和58年に隣接で行なわれた発掘調査でも出土しており、調査区西側の墳丘の消失した手永台2号墳のものと考えられる。鉄滓については、調査区北側の台地整形区画内の覆土中から多く出土しており、周辺に製鉄遺構の存在を伺わせる資料である。中世遺物については、陶磁器108点（舶載品4、国産品104）、



調査区南東壁 (C-C') セクション図 (1:125)



調査区北東壁 (B-B') セクション図 (1:125)



台地整形区画中央 (A-A') セクション図 (1:125)

1 a. 暗褐色土層  
 b. 灰褐色土層  
 2. 暗褐色土層  
 3. 暗褐色土層  
 4. 暗褐色土層  
 5. 暗褐色土層  
 6. 暗褐色土層  
 7. 暗褐色土層  
 8. 暗褐色土層  
 9. 暗褐色土層

貝殻断片 多量に含む。中世の遺物を含む。  
 石灰質のローム層を含む (SK18, SK19, SK20, SK21, SK22, SK23, SK24, SK25, SK26)  
 ローム層を多く含む (4号地下式竈)

貝殻断片 多量に含む。中世の遺物を含む。  
 石灰質のローム層を含む (SK10, SK11, SK12, SK13, SK14, SK15, SK16, SK17, SK18, SK19, SK20, SK21, SK22, SK23, SK24, SK25, SK26)

ローム層を多く含む (3号地下式竈)

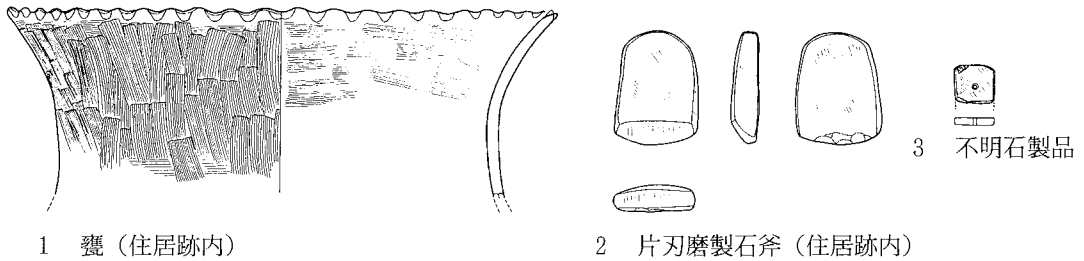
ローム層を多く含む (4号地下式竈)

菊間手永遺跡全体図

砥石1点、五輪塔片、宝篋印塔片、板碑片各1点、渡米銭9点を数える。陶磁器のうち舶載品については青磁碗3点、青磁花生1点で、いずれも竜泉窯系のものと思われる。

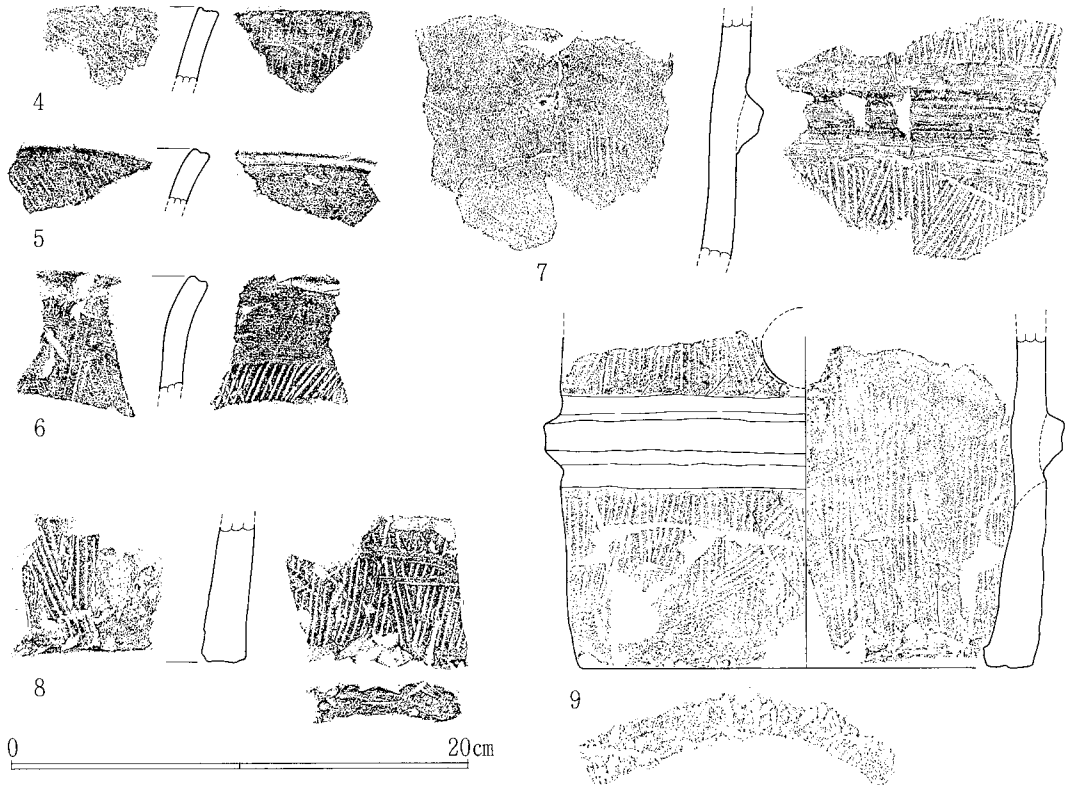
今回の調査により、弥生時代住居跡と中世期に造られた台地整形区画および墓壇群の一端が明らかとなった。住居跡については、伴うとみられる遺物から宮の台期の所産と考えている。隣接で行なわれた調査においても、同時期の住居跡が発見されており、中期の集落範囲を考える上での資料となろう。台地整形区画については、全体を把握できなかったため規模・性格など不明な部分が多いが、区画内で検出した地下式墳や土壌との新旧関係において、土層関係から後者が先に造られ、その後台地整形を施した状況である。時期については、良好な遺物の出土がないため判断できないが、区画内から出土する遺物の状況からみて15世紀後半を中心とした時期と考えている。昭和47年に調査区北側で行なわれた調査でも多数の地下式墳や土壌がまとまりのある群としてとらえられており、中世後期においては当地域が墓域として位置づけられていたことと思われる。

(小出紳夫)



1 甕（住居跡内）

2 片刃磨製石斧（住居跡内）



菊間手永遺跡出土遺物 4～9 円筒埴輪片（台地整形区画内）





1 元祐通寶 (SK 2)



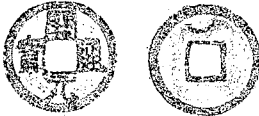
2 聖宋元寶 (SK 17)



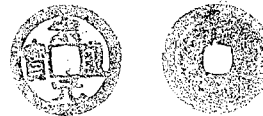
3 元豐通寶 (SK 18)



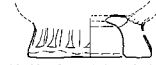
4 明道元寶 (SK 18)



5 開元通寶  
(台地整形区画内)



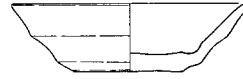
6 宋通元寶 (台地整形区画内)



7 青磁花生 (台地整形区画内)



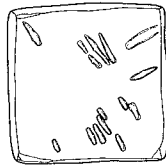
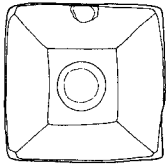
8 縁釉小皿 (台地整形区画内)



9 かわらけ片  
(SK 17)

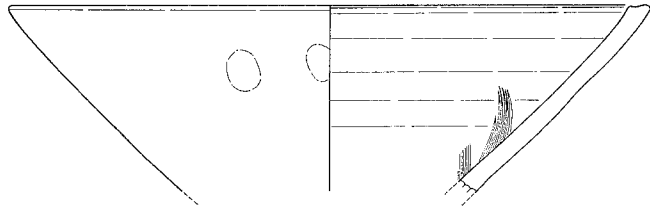
0 4 cm

調査区出土渡来銭

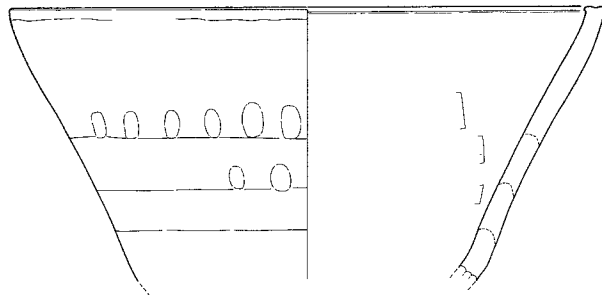


0 20 cm

13 五輪塔笠石 (3号地下式壙)



10 播鉢 (台地整形区画内)



11 内耳土鍋 (1号地下式壙)



12 折縁深皿 (SK 18)

0 20 cm

菊間手永遺跡出土中世遺物

## 14. <sup>しも や た じょうあと</sup>下矢田城跡

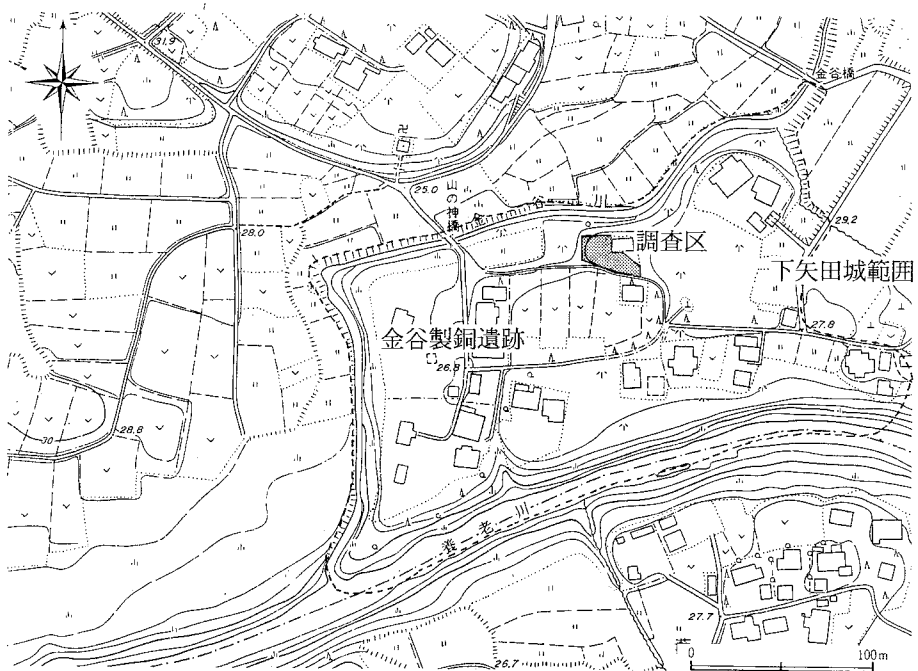
事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市下矢田字金谷192番地

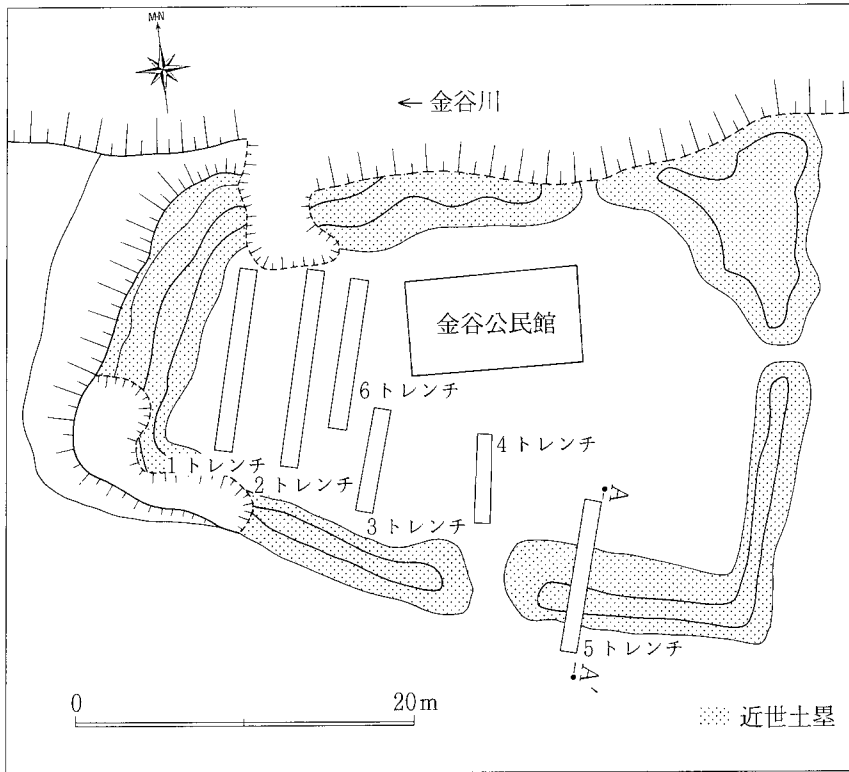
調査期間 平成8年5月23日～6月10日

調査面積 520㎡のうち52㎡（確認調査）

調査概要 下矢田城跡は養老川中流域平野の養老川本流とその支流にはさまれた標高27m前後の河岸段丘上に位置している。当遺跡の周囲には、池和田城跡や外部田城跡などの中世城郭が知られていたが、当城跡については、いままで確認されていなかった。平成7年に千葉県教育委員会が実施した県内中近世城館跡詳細分布調査により新たに発見された城跡である。<sup>1)</sup> 調査報告では、東西300m、南北150mの縄張りで河川を堀として利用し、その中に主郭・二の郭・三の郭を形成し、現状では、土塁・堀割などが残っている。

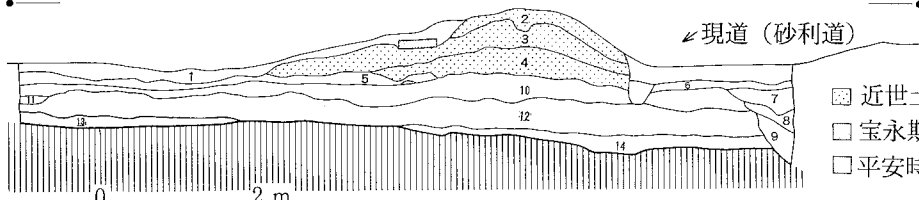


下矢田城跡周辺地形図



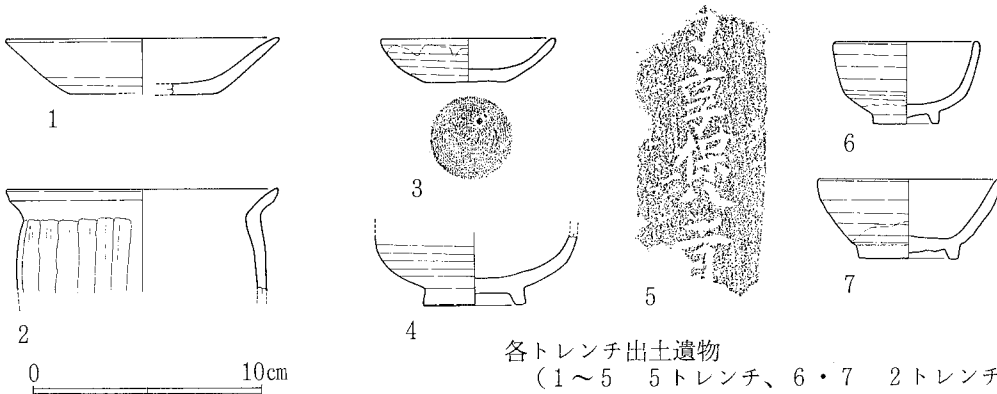
トレンチ配置図

A 28.200m



5 トレンチ東壁土層断面図

- |          |                      |             |                 |
|----------|----------------------|-------------|-----------------|
| 1. 暗褐色砂層 | 表土層                  | 10. 暗灰色砂質土層 | 明灰色砂、焼土粒を含む。    |
| 2. 灰褐色砂層 | 有機物を含む。              | 11. 明灰色砂層   | 浅褐色砂、焼土粒を含む。    |
| 3. 灰褐色砂層 | きめの細かい砂層             | 12. 暗灰色砂質土層 | 黒褐色土、明灰色砂を含む。   |
| 4. 灰褐色砂層 | 3層より色調は暗い。           | 13. 灰褐色砂層   | 黒褐色砂質土、焼土粒を含む。  |
| 5. 灰褐色砂層 | 明灰色砂をまだら状に含む。        | 14. 灰褐色砂層   | 黒褐色土、炭粒、焼土粒を含む。 |
| 6. 灰褐色砂層 | よくしまっている。(道路)        | 15. 灰褐色砂層   | 均質な灰褐色砂層        |
| 7. 暗灰色砂層 | 明灰色砂をまだら状に含む。(近世溝覆土) |             |                 |
| 8. 暗灰色砂層 | 焼土粒を含む。(近世溝覆土)       |             |                 |
| 9. 暗灰色砂層 | 黒褐色土をまだら状に含む。(近世溝覆土) |             |                 |



各トレンチ出土遺物

(1~5 5トレンチ、6・7 2トレンチ)

下矢田城跡全体図および出土遺物

今回の調査は、その主郭の一角で、東西40m、南北25mで周囲を高さ1m前後、幅3～4mの土塁を巡らす方形区画部分の発掘となった。調査は、土塁の性格および区画内の建物等の発見を目的として行なった。調査の結果、土塁については、近世の土手であることがわかった。また、区画内からは城に関係する建物等の施設については発見できなかった。土手は、盛土部分直下の層から火山灰（宝永期）が検出され、また盛土内からは享保八年銘の墓石断片・灯明皿・腰鍔茶碗等が出土したことから、この土手の築成時期は江戸時代後期頃と推定した。なお、このトレンチの地山（灰褐色砂層）直上層から平安時代前期頃の所産の土師器・須恵器が層状に多く出土している。住居跡等の遺構の可能性もありうるが床構造などは検出されず、今回の確認調査では性格を明らかにすることはできなかった。また、調査区2トレンチ内から、製練用の炉壁断片や銅滓が出土している。調査区南西の隣接には中世に活動が盛んであった「金谷の鋳物師」の推定地とされる金谷製銅遺跡が所在することから、関連の遺物であろう。

（小出紳夫）

註 (1)「千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 旧上総・安房国地域」1996 千葉県教育委員会

## 15. 二日市場遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市二日市場599番地

調査期間 平成8年7月29～7月31日

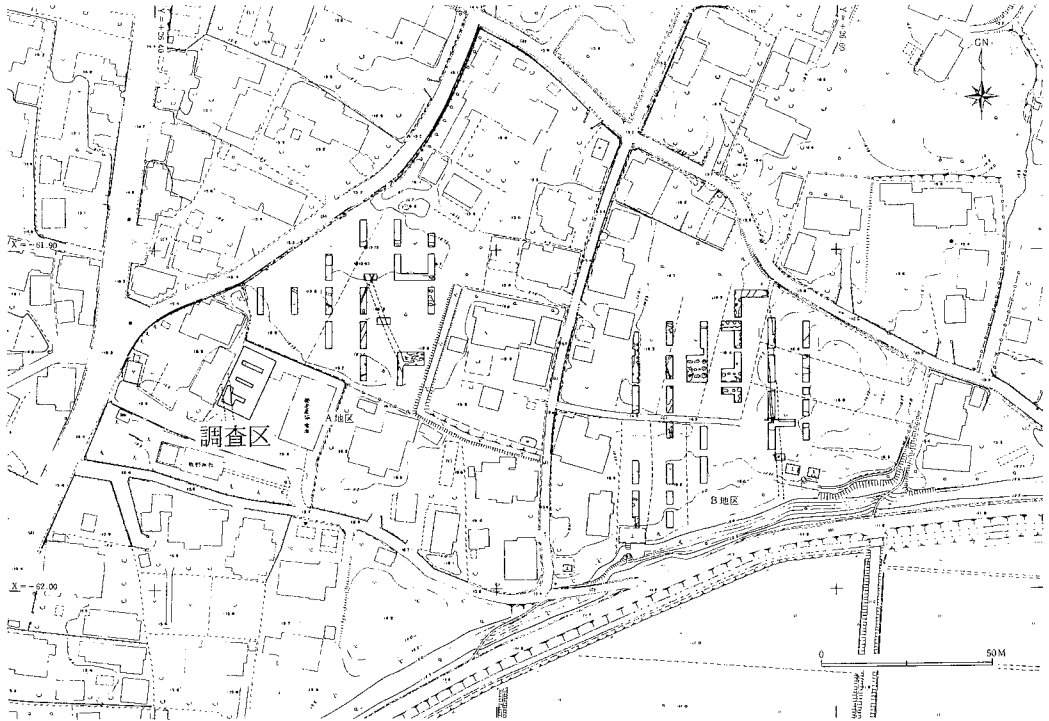
調査面積 194㎡のうち30㎡（確認調査）

調査概要 二日市場遺跡は、養老川中流域平野の周囲より1～3m高い島状微高地に位置している。この微高地を取り巻く低地はかつて養老川が蛇行して流れていた河道跡で、遺跡はちょうど袋状の中央部分に所在する。この袋状微高地一帯は、白鳳期の寺院跡と考えられている二日市場廃寺跡の遺跡範囲で、付近より古瓦が多く出土することで知られている。昭和58年には県の重要遺跡確認調査(1)により、掘立柱建物跡、溝等の遺構と花(雷)文八葉複弁蓮華文軒丸瓦、三重弧文軒平瓦、格子叩目文平瓦等の多量の瓦が検出されている。今回の調査は、地区公民館の建替えによる確認調査で、位置的に二日市場廃寺跡の推定範囲に入ることから、関連遺構の発見が考えられていた。

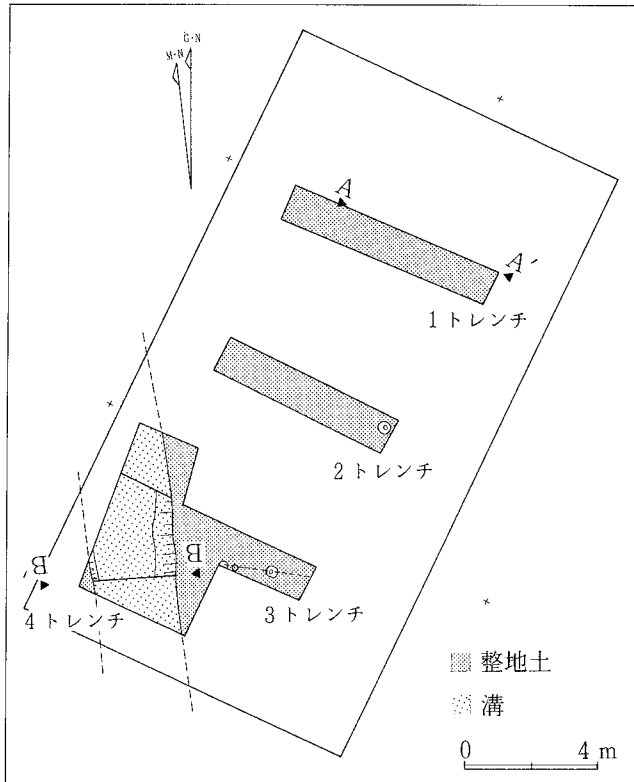
調査の結果、調査区全体に広がる整地土層と南北方向に走る溝跡1条、掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された。このうち整地土層については、トレンチ断面図の層序のように黒褐色粘質土層直上に灰白色粘土ブロックを主体とした灰褐色粘質土を厚さ10~15cmにわたって面的に整地されていた。今回発見した溝跡および掘立柱建物跡と考えられる柱穴の遺構は、この整地土層を掘り込み面としている。南北方向に走る溝跡は、座標北に対して西へ約6度偏位している。溝上端2.5m、下端2m、掘り込み面からの深さ0.5mを測り、断面は逆台形を呈している。溝の覆土となる層からは多量の瓦、土師器、須恵器が出土している。柱穴については、東西1間分(1.5m)と方向不明なもの1基を検出した。いずれも柱掘り方は直径30cm前後の円形を呈している。トレンチ調査のため、建物の規模・配列についてはわからなかった。遺物は、瓦、土師器、須恵器、鉄滓などが出土したが、そのほとんどは南北方向に走る溝の覆土からのものである。このうち瓦については平瓦、丸瓦のみである。昭和58年の調査時に郷堀英司氏が分類されているが、今回出土した瓦はこの範ちゅうにはいるもので新たな異種の瓦は無かった。1~5は格子系平瓦で、このうち1・2は郷堀氏分類の格子系A類で、凸面に1.2cm×1.6cm前後の格子目叩きを施す。凹面は布目痕を消すように縦方向のヘラ削り調整を施す。3~5は格子系C類で、凸面に4mm×5mm前後の格子目叩きを施し、その後ヘラ削りやナデ調整を行なうために無文となる部分が多くなっている。凹面は布目や模骨痕をそのまま残している。いずれも桶巻き造りである。6~8は丸瓦である。二日市場廃寺跡では行基式と玉縁がみられるが、今回のものは行基式と考えられる。凸面は全面ヘラ削りやナデ調整を施す。凹面は布目がそのまま残されている。9・10は須恵器杯、11は土師器杯、12は須恵器甕、13は土師器甕である。いずれも溝覆土中の黒褐色土層から集中した状態で出土している。須恵器杯については、体部下半をヘラ削りし、底部は回転糸切り後、ヘラ削りを施している。胎土は、1mm程度の黒色粒子を含む。焼成は甘く、部分的に酸化焰状態を呈している。

今回限られた面積のため、直接には二日市場廃寺跡と判断できる遺構は確認できなかったが、検出した溝および整地土層については、覆土の出土遺物や土層状況から奈良時代頃の所産と考えている。(小出紳夫)

註(1)「市原市二日市場廃寺跡確認調査報告」千葉県教育委員会 1984年

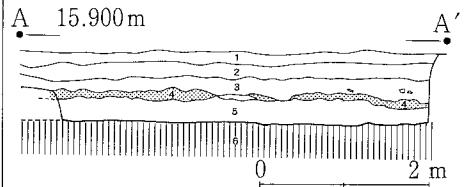


二日市場遺跡周辺地形図（昭和58年度調査報告書の地形図に、今回調査区を加筆）



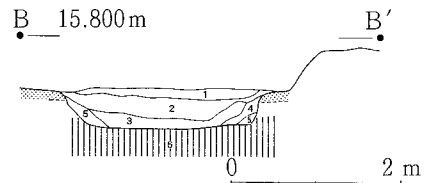
二日市場遺跡トレンチ配置図

二日市場遺跡全体図



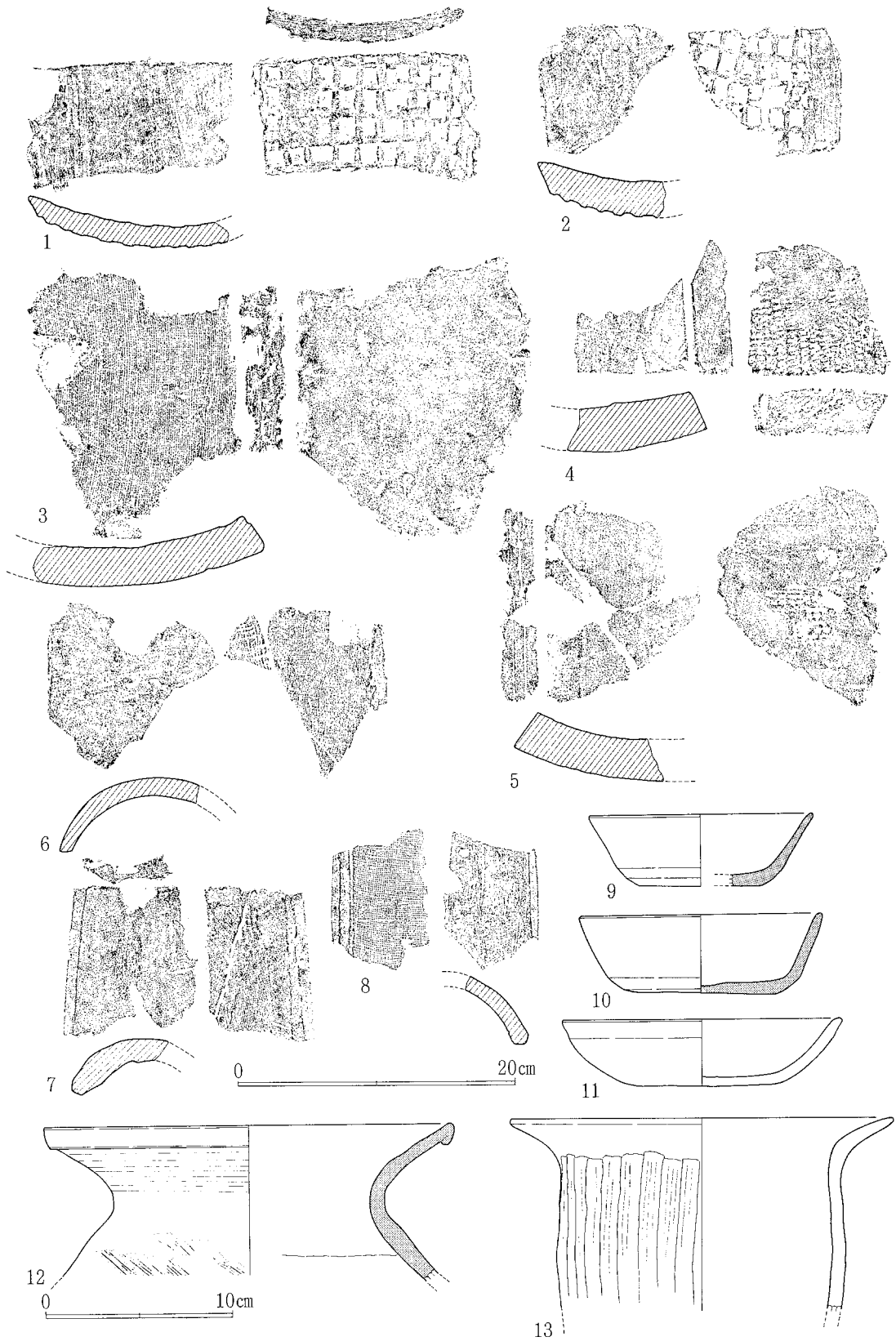
1 トレンチ土層断面図 (A-A')

1. 黄褐色砂層 表土層 客土
2. 赤褐色粘質土層 炭 酸化鉄分を含む
3. 暗茶褐色粘質土層 灰土粒を含む
4. 灰褐色粘質土層 灰白色粘土+黒褐色土
5. 黒褐色粘質土層 酸化鉄分を多く含む
6. 黒灰色粘土層 灰白色粘土をまだら状に含む



溝覆土断面図 (B-B')

1. 暗灰褐色粘質土層 酸化鉄分を多く含む
2. 黒褐色粘質土層 酸化鉄分を多く含む。遺物を多く含む
3. 黒色粘質土層 灰褐色土粒を多く含む。
4. 黒灰褐色粘質土層 灰褐色粘土ブロックを多量に含む
5. 黒褐色粘質土層 灰褐色粘土ブロックを含む
6. 黒灰色粘土層 灰白色粘土をまだら状に含む



二日市場遺跡出土遺物

なか の むかい やま  
16. 中野向山遺跡

事業名 市原市市東第一土地区画整理事業（第1地点その3）に伴う埋蔵文化財調査

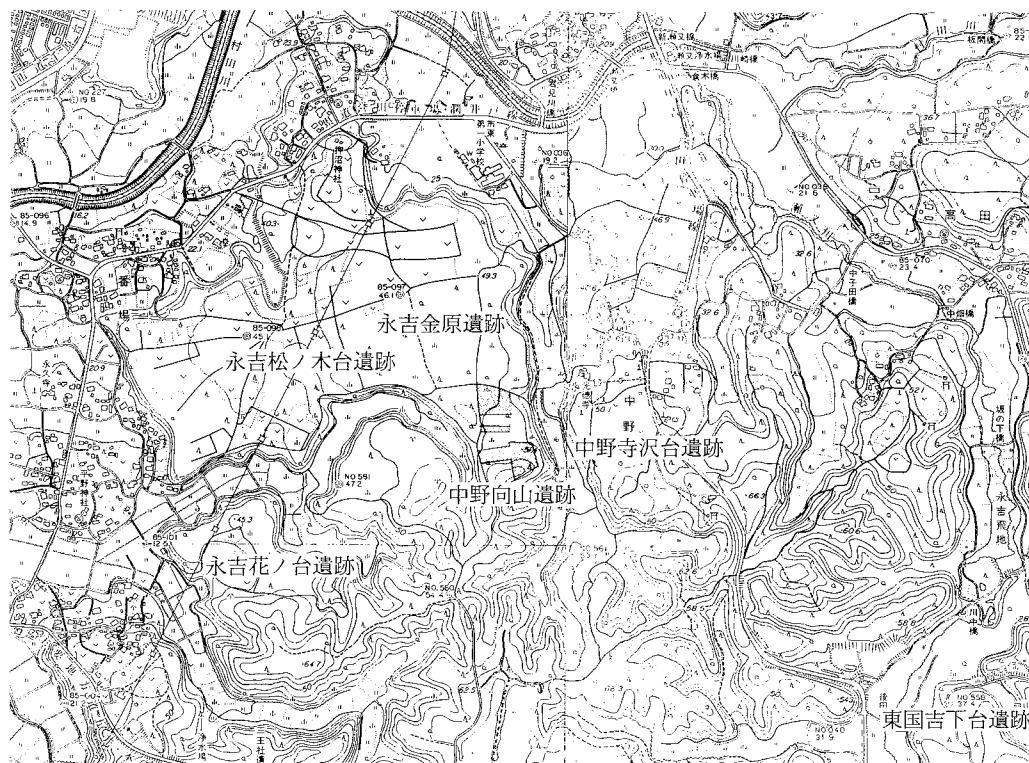
所在地 市原市中野字向山372番2他

調査期間 平成8年4月30日～平成8年7月5日

調査面積 15,350㎡のうち1,535㎡（上層）152㎡（下層）（確認調査）

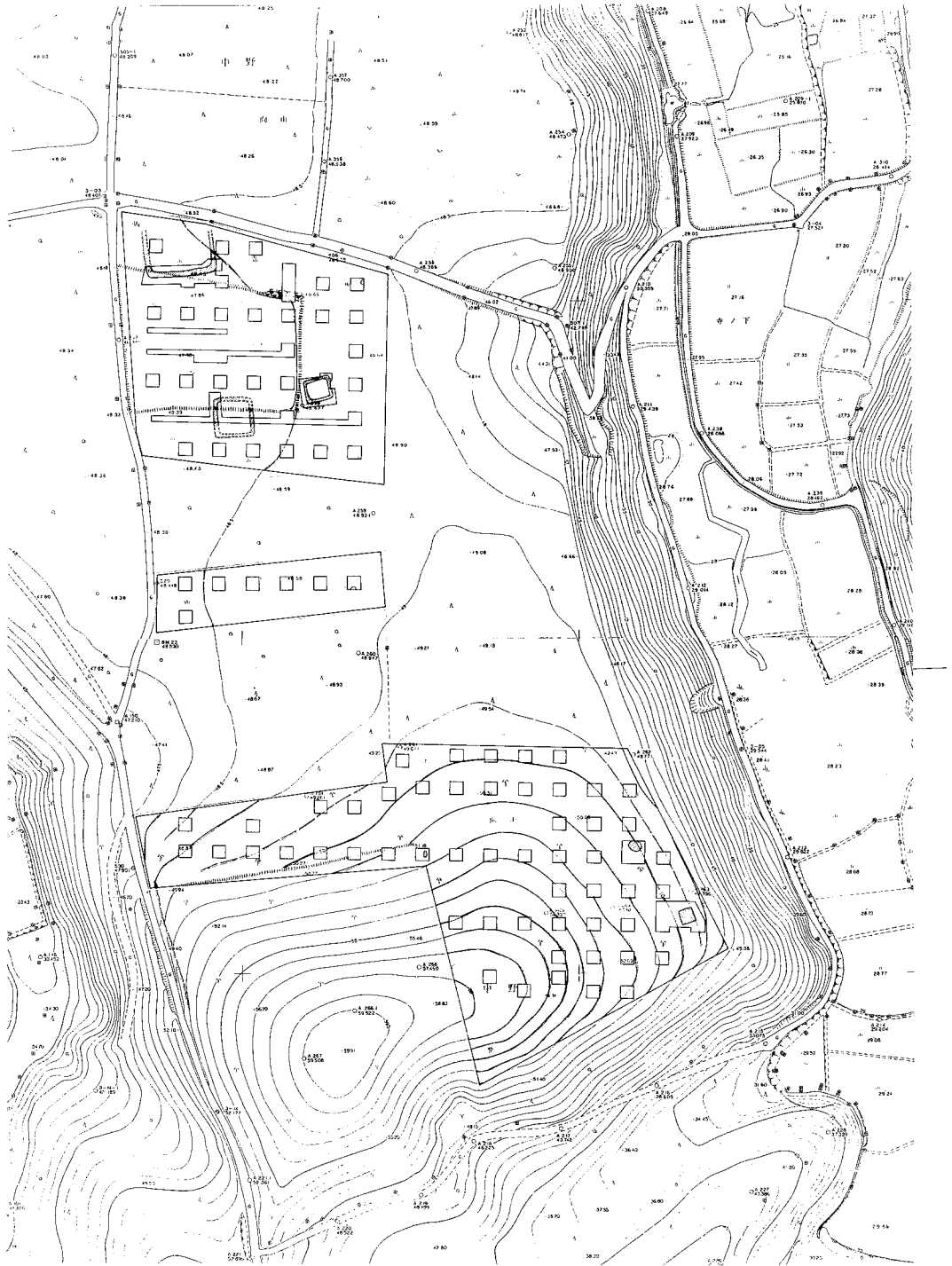
調査概要 遺跡は市の北部を流れる村田川上流の左岸の、標高約48m～55mの台地上に存在する。調査区は大きく分けて三つの部分からなるが、南端は小高い丘陵といった景観を呈しており、北方はほぼ平坦である。

調査区をここでは仮に北区、中央区、南区にわけて、以下に概要を記すこととする。北区は約5,300㎡で中央部分は、おそらく土取りが行われたのであろう、一段低くなっていた。調査の結果、奈良・平安時代の方形墳墓が3基確認された。規模としては北西で確認されたものが最大で一辺約20mである。中央区では、縄文時代早期の所産と考えられる焼き礫の出土があった。南区ではほぼ中央で縄文時代早期の落とし穴一基を確認し、東縁に近い部分で縄文時代の住居跡一軒、古墳時代の住居跡一軒を確認した。また同じく東縁に沿って、焼き礫がやや集中して出土した。なお、下層の確認調査では、石器の出土はなかった。（高橋康男）



中野向山遺跡と周辺の遺跡（1/20,000）





中野向山遺跡全体図 (1/5,000)

## ひがしくに よし しも だい 17. 東国吉下台遺跡

**事業名** 市原市市東第一土地区画整理事業（第12地点その2）に伴う埋蔵文化財調査

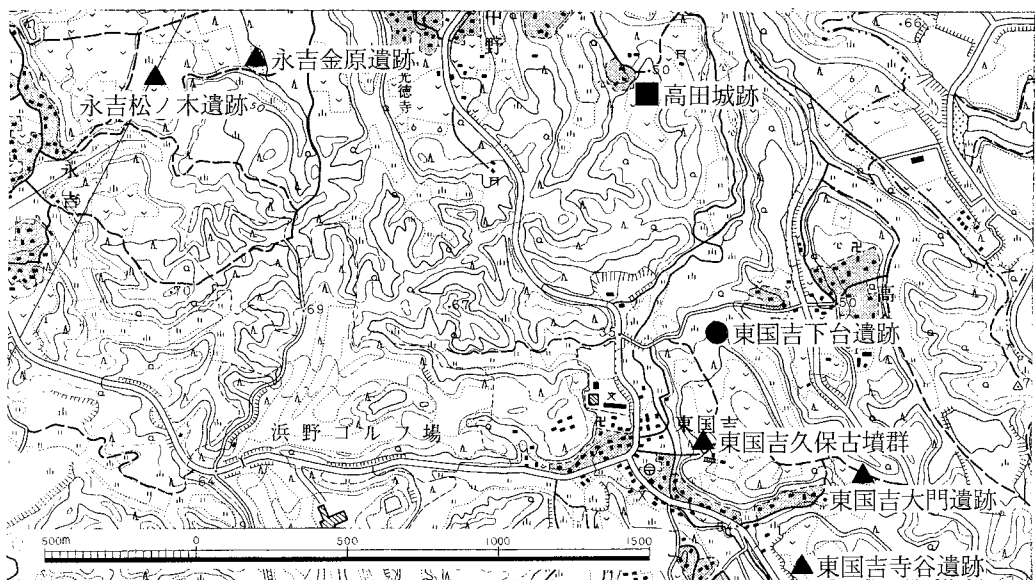
**所在地** 市原市東国吉字下台206地先他

**調査期間** 平成8年4月10日～平成8年5月10日（確認調査）

**調査面積** 5,650㎡のうち565㎡（上層確認調査） 5,650㎡のうち56㎡（下層確認調査）

**調査概要** 東国吉下台遺跡は、JR外房線誉田駅の南方約3.8kmの地点に所在している。

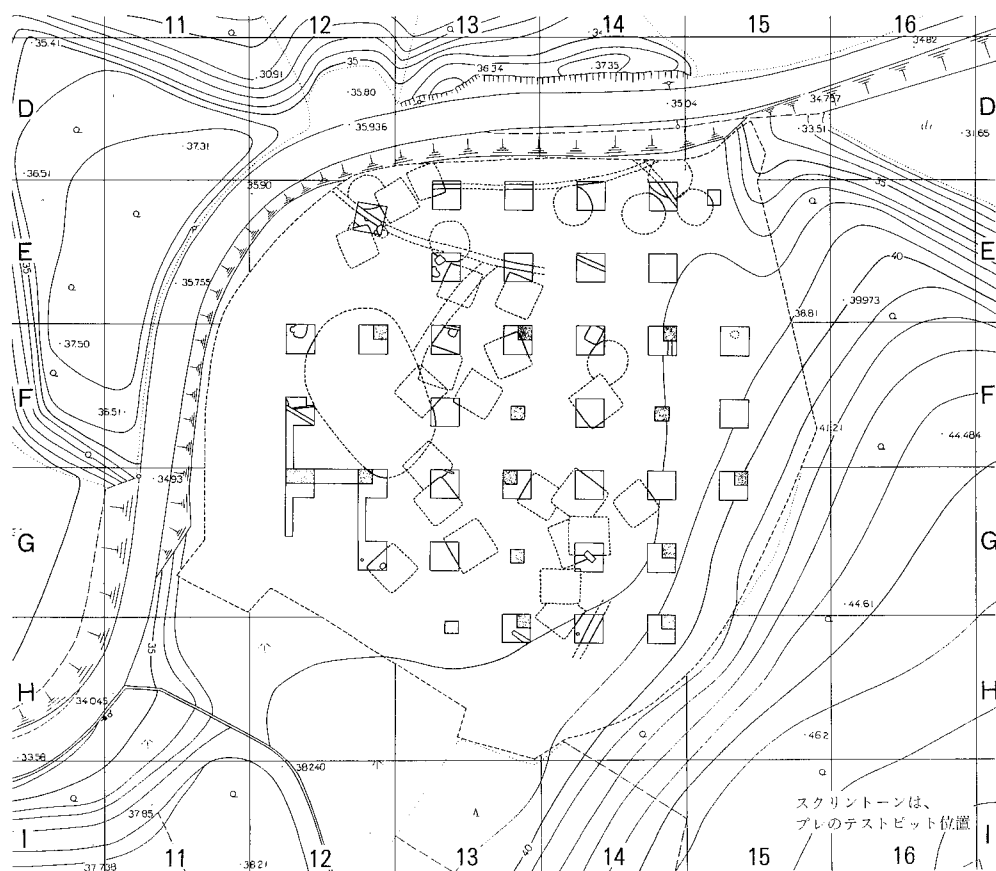
本遺跡は、『千葉県市原市埋蔵文化財分布地図 北部編』（昭和63年 市原市教育委員会）に「東国吉宮ノ台遺跡」（遺跡No.895）として周知されている遺跡の一部であり、村田川から南に分岐（高田涼沢台東地点）する支谷によって取り囲まれた、台地北端部（低位段丘面）に立地している。調査地点の標高は39m前後であり、南東に向かって緩やかな上り坂になっている。調査地点南400mの高台（標高60m）には、八幡神社（祭神：誉田別命）が祀られており、鎮守社の北側台地縁辺部には、直径14m前後の円墳を主墳とする群集墳（東国吉久保古墳群 円墳12基 遺跡No.896）が知られている。また、調査区の北側台地上高田寺台を中心とする地点には、高田直勝（小田原北条方）の居城「高田城跡」が所在している。『千葉県市原郡誌』所収の「市東村」誌によると、東国吉は元「上野郷」に属し、承平年間には平良兼之、後に平忠常、長享年間には酒井氏の所領であったと伝えている。また、古来「国吉」と呼び慣わしてきたものを、明治11年に西国吉との混乱を避けるために「東国吉」と呼ぶようにしたとも伝える。



第1図 東国吉下台遺跡の位置と周囲の遺跡

確認調査は、20mピッチの大グリッドを基準として実施した。グリッドの設定に当たっては、公共座標値を用いている。具体的には、一辺4mの確認グリッドを大グリッド一箇所に対して3～4箇所ずつ配置し、計34箇所の調査区によって縄文時代以降（上層）の密度や内容、広がりについて把握し（544㎡ 確認調査面積の約96.2%）、遺構の希薄なところや不詳な部分について補足調査を行った。各調査区は、大グリッド名に1～4の小番を附して呼称している。

先土器時代の確認調査（下層）については、上層の遺構の確認できなかった箇所を中心として、一辺2m弱の小グリッドを15箇所配置し、x層上面までの間について、礫群あるいは石器などの包蔵の有無を中心に実施した。調査によって確認された遺構は、以下のとおりである。先土器時代（礫群1箇所、土坑1基）、縄文時代（早期炉穴1箇所、前期炉穴1箇所・竪穴住居跡8軒・遺物包含層4地点）、古墳時代（中期竪穴住居跡21軒・小竪穴遺構1箇所、中期以降溝状遺構1条）、中世（道路遺構2条・整地遺構1箇所・地下式坑3箇所）、近世（溝状遺構5条）、合計50遺構であった。（田所 真）



第2図 東国吉下台遺跡全体図

## 18. 永吉花ノ台遺跡

事業名 市原市市東第一土地区画整理事業(第3地点)に伴う埋蔵文化財調査(確認調査)

所在地 市原市永吉字花ノ台1122-1地先他

調査期間 平成8年6月1日～平成8年9月30日

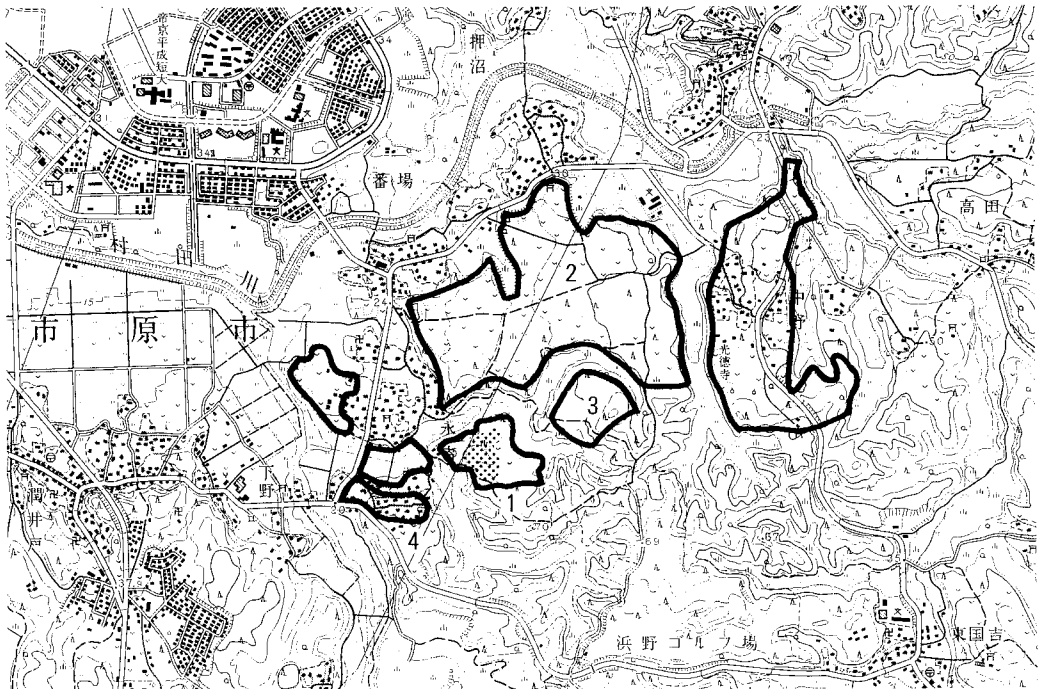
調査面積 23,450㎡のうち2,345㎡(上層) 320㎡(下層)(確認調査)

調査概要 永吉花ノ台遺跡(下図1)は、村田川と支川村田川に挟まれ、複雑に開析された標高40m前後の台地先端上に位置する。谷を挟んで北側の台地上には、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡として永吉鹿ノ原遺跡(2)が広がっている。東側の台地上には古墳時代後期を中心とした永吉鬼子母神遺跡(3)がある。谷を降りた西側の低地および微高地上には、永吉氏神遺跡(4)など数遺跡が展開する。

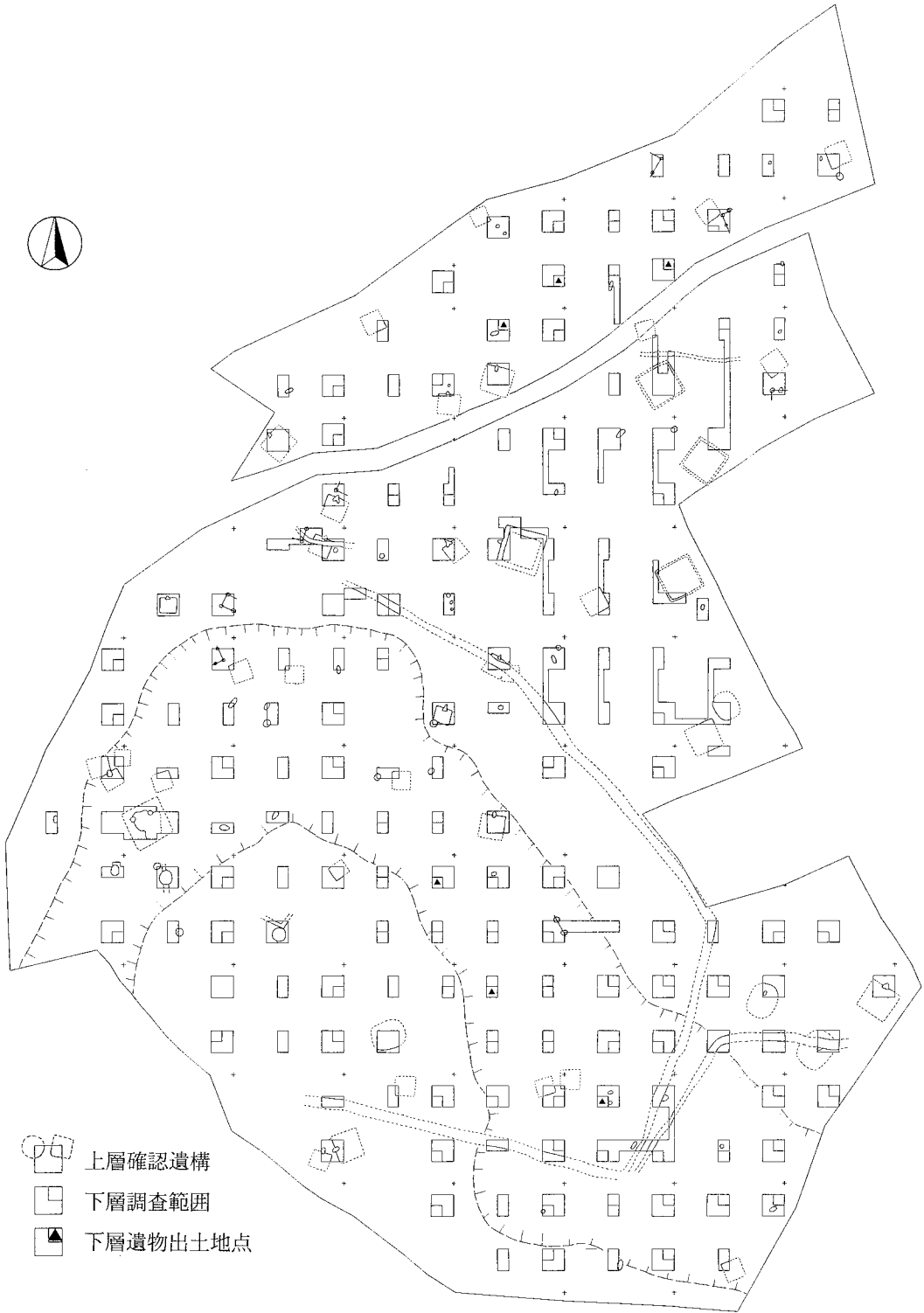
調査区域一帯は、大規模な土地区画整理事業の範囲内にあたるため、確認調査をおこなうこととなった。調査の結果、縄文時代の陥し穴状遺構17基、弥生時代の竪穴住居跡4軒、古墳時代後期の竪穴住居跡3軒および方墳4基、平安時代の竪穴住居跡32軒・掘立柱建物跡9棟および土坑26基の存在を確認した。2m×2mのグリッドを80個設定して行った下層の調査では、そのうち7つの地点で剥片や焼礫などの遺物を検出した。




以上の成果より、この台地上には旧石器時代より人々が生活し始め、平安時代において最もこの土地を利用するに至った痕跡を確認することができた。今後本調査が進められることになると、周辺遺跡の調査成果とあわせることで、この地域のより大きな歴史的全体像の解明につながるであろう。

(牧野光隆)



遺跡の周辺環境(トーン部分が調査区) S=1/30,000



-  上層確認遺構
-  下層調査範囲
-  下層遺物出土地点

永吉花ノ台遺跡全体図 (1/1,200)

## 19. 椎津大ツ作遺跡

**事業名** 無線基地局の建設に伴う埋蔵文化財調査（確認・本調査）

**所在地** 市原市椎津字バチ谷2970-9地先

**調査期間** 平成8年5月20日～同年5月23日（確認調査）

平成8年5月24日～同年5月28日（本調査）

**調査面積** 360㎡のうち36㎡（確認調査）、60㎡（本調査）

**調査概要** 遺跡は、椎津川上流の小谷を望む標高約65mの台地上にある。この台地は北側から椎津川、南側からは小櫃川の支流である松川の小谷がそれぞれ入り込み、南北に長い鼓状を呈している。

調査の結果、縄文時代早期後半の炉穴群などが検出された。炉穴から出土した土器は、無文で繊維を含み、擦痕を伴う例が多く、田戸上層式でも新しい段階と考えられる。田戸上層式から次の子母口式にかけての資料は市内の調査でも蓄積されつつあり、やや奥まった台地上や丘陵地で検出される傾向がある。今後の開発動向にもよるが、調査の進展や集成分析により、縄文時代早期後半の歴史の実態が、次第に輪郭を現してくると思われる。（田中清美）

※詳細については、本年報巻末所収の「付編 椎津大ツ作遺跡発掘調査報告」を参照されたい。

## 20. 椎津五霊台遺跡

**事業名** 第1次 市内遺跡発掘調査（確認調査）、宅地造成（椎津）に伴う埋蔵文化財調査  
第2次 宅地造成（椎津）に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市椎津662、663（第1次）、市原市椎津660-1の一部・660-4の一部（第2次）

**調査期間** 第1次 平成8年4月15日～平成8年4月25日（確認調査）

平成8年7月8日～平成8年10月21日（本調査）

第2次 平成9年1月9日～平成9年1月24日（本調査）

**調査面積** 第1次 2,977㎡のうち298㎡（確認調査）、2,977㎡（本調査）

第2次 162㎡（本調査）

**調査概要** 遺跡は東京湾に面した、標高約30mの台地上に存在する。遺跡の北方約200mの地点には市原市の代表的な中世城郭である椎津城跡の主郭があり、今回の調査地点も椎津城の一角を占めると考えられていた。

調査は、個人による宅地造成に先立つ2,977㎡に対する確認調査を、国庫補助事業の市内遺跡発掘調査事業の一環として実施し、この確認調査の結果を受けて全面に対する本調査を事業者の負担により実施した（第1次調査）。第1次調査区の南限を画する現道南側の民間業者の宅地造成に先行して162㎡の本調査を行った第2次調査区は、市原市教育委員会ふるさと文化課による試掘の際に椎津城跡の堀と考えられる溝跡が対象地を東西に貫通することが明らかとなったため、確認調査を経ずに本調査を実施したものである。ここでは、これらの成果をまとめて報告する。

調査の結果、古墳時代から平安時代にかけての住居跡45軒、円墳5基、中世の方形竪穴状遺構1基、和鏡・人骨を出土した1基を含む土壌墓4基、椎津城に伴う堀跡2条等を検出した。住居跡45軒の内訳は古墳時代前期のもの33軒、古墳時代後期以降のもの12軒である。古墳時代前期の住居の展開が一旦途絶えたのち円墳5基が築造されたと考えられる。なお、古墳時代前期の土器の中には、S字甕などの外来系の土器が含まれる。椎津城の堀跡と考えた二つの遺構のうち2次調査で検出したものは、断面逆台形の溝の底部の一部を掘り残して障壁状にしたいわゆる畝堀である。城跡の堀としては小規模な印象をあたえる。これまで、椎津城の広がりについては、もっぱら城郭研究者によってある程度の広がりをもつものと考えられてきたが、今回の調査結果は、それを裏付けるものとなった。

一方、通時的観点からは、多くの遺構から土錘が出土していることを挙げるができる。遺跡の立地から見ても漁労との関係の強さを考えるのが妥当であろう。なお、詳細については、下記文献に拠られたい。

高橋康男「椎津五霊台遺跡」『市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会 1997

高橋康男『市原市五霊台遺跡』財団法人市原市文化財センター 1998

(高橋康男)

## 21. かいほのぐち 海保野口遺跡

**事業名** 第1種無線基地建設に伴う埋蔵文化財調査

**所在地** 市原市海保字野口1220番地1の一部

**調査期間** 平成9年3月5日～平成9年3月19日

**調査面積** 339㎡のうち39㎡（確認調査）100㎡（本調査）

**調査概要** 海保野口遺跡は養老川下流の支谷奥部の標高67m前後の台地上に位置している。この台地北側には、縄文時代中～後期の諸久蔵貝塚が所在する。また、遺跡の東側隣接には、東

関東自動車道（館山線）が通っているが、この建設工事に先立って平成元年に発掘調査が行なわれ、その結果、先土器時代の石器群、縄文時代早期の炉穴群、陥し穴、竪穴住居跡、奈良～平安時代の方形周溝状遺構などが発見されている。特に、縄文時代早期の炉穴群が遺跡全域に広がっているなど、その性格が注目されていた。今回の調査は、無線基地建設に伴うもので、これら隣接の遺跡状況を踏まえて発掘を実施した。調査の結果、先土器時代の遺構・遺物は発見されなかったが、縄文時代早期の炉穴1基、同時期の集石遺構1基、

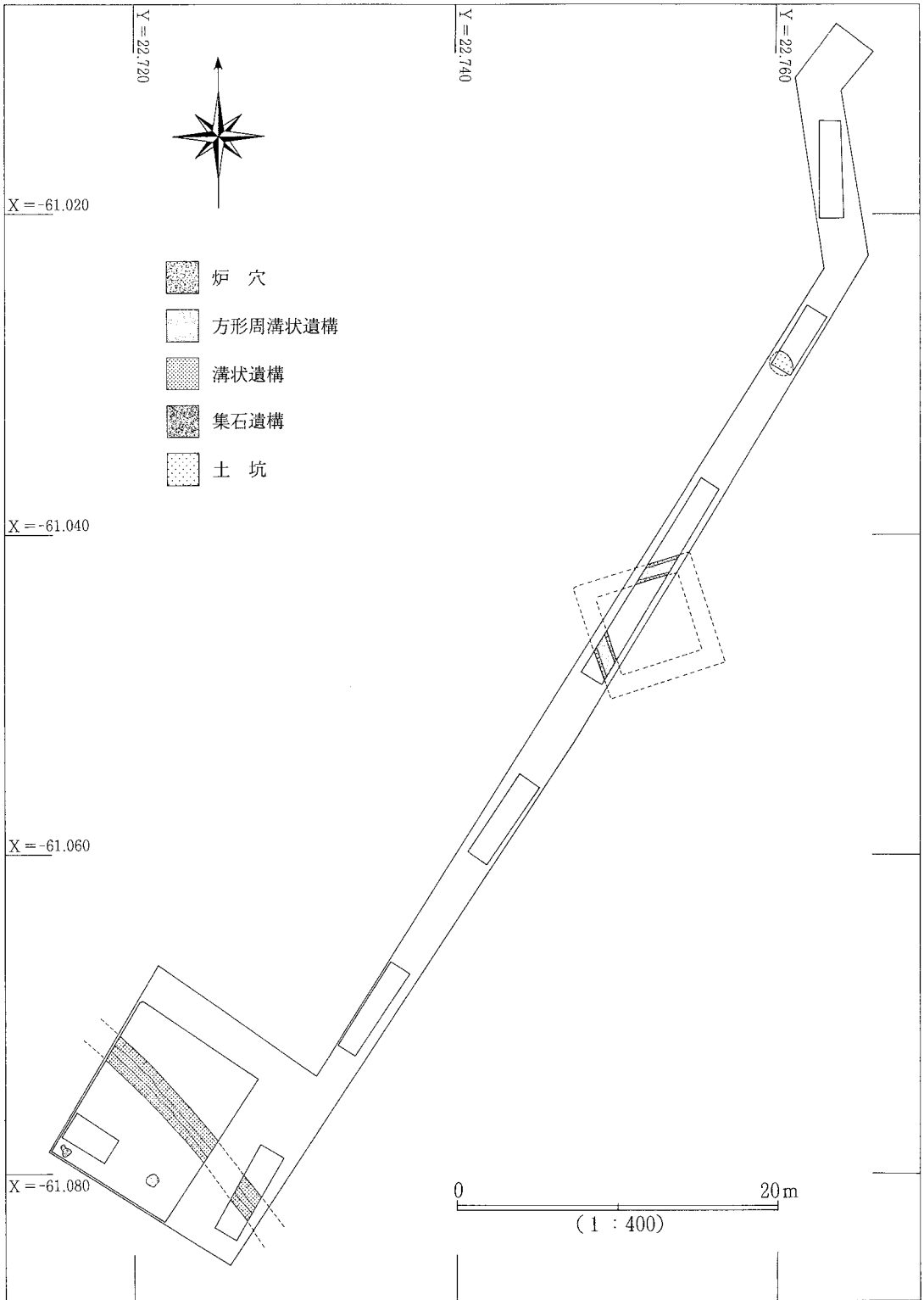


海保野口遺跡の位置（1：5,000）

奈良～平安時代の方形周溝状遺構1基、同時期と思われる溝状遺構1基が検出された。炉穴については、隣接の発掘調査で確認されている炉穴群と同じもので、その広がり状況を把握することができる。集石遺構については、縄文早期の包含層と思われる暗茶褐色層より掘り込んでおり、長軸90cm、短軸70cm前後の楕円形の土坑である。その内部から敷き詰めた状態で扁平な円礫105点が検出されている。覆土中には、焼土、炭化物は見られないが、礫には、熱を受けて赤化しているものが見られた。方形周溝状遺構については、周溝の部分的な検出のみで終了したが、上端幅1m、下端幅0.8m、深さ0.4mで逆台形状の溝である。東側隣接の調査でこの周溝と思われる隅を検出しており、推定で一辺6～8mの規模を持つ遺構と考えられる。溝状遺構については、上端幅1.3m、下端幅0.2m、深さ0.7mのV字形の溝で、座標北に対してやや曲がりながら西へ約41～44度偏位している。また、溝覆土の状況から、溝が $\frac{1}{2}$ 程度埋まった段階で黒褐色ぎみのやや硬化した土層が見られることから、一時期、この溝上の窪みを道路として使用していた可能性がある。この溝状遺構は、隣接の発掘調査でも同様な溝が確認されており、その延長部分のものであろう。

以上、この遺跡の性格としては、東側隣接の調査で発見された遺跡と同様に縄文時代早期を中心とする炉穴群と奈良～平安時代の方形周溝状遺構群として取り扱うことができ、この遺跡からその一連の広がりを把握することができよう。（小出紳夫）





海保野口遺跡トレンチ配置図

#### IV 平成8年度 受贈図書一覧

書名	寄贈者	受入日
いわき市教育文化事業団研究紀要第7号	(財)いわき市教育文化事業団	8. 4. 1
いわき市教育文化事業団年報6	同上	〃
中高瀬観音山遺跡 A本文編 B写真編 C資料編	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
内匠日向周地遺跡 下高瀬寺山遺跡 下高瀬前田遺跡	同上	〃
二之宮谷地遺跡	同上	〃
飛石の砦跡・東平井塚間遺跡・東平井官正前遺跡・東平井土井下遺跡・西平井久保田代遺跡	同上	〃
居合台遺跡発掘調査報告書	(財)山武郡市文化財センター	〃
川の前遺跡	(財)浜松市文化財協会	〃
若林村西遺跡	同上	〃
葛西城跡XVIII (第1分冊)	葛飾区教育委員会	〃
葛西城跡XVIII (第2分冊)	同上	〃
羽沢大道遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	〃
瀧ノ前遺跡発掘調査報告書	同上	〃
東谷戸遺跡発掘調査報告書	同上	〃
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報IX・X	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	〃
第四第一地点(鹿児島大学教養部)遺跡発掘調査報告書 遺構出土遺物の概要(昭和60年度鹿児島県教育委員会文化課調査)	同上	〃
芝山町史資料集2中世編(本文・付図)	芝山町史編さん室	〃
練馬区小竹町二丁目遺跡(本文・付図)	小竹町二丁目遺跡調査会	〃
志波城跡 平成6年度発掘調査概報	盛岡市教育委員会	〃
小屋塚遺跡	同上	〃
大葛遺跡	同上	〃
市道市場岡田線新設に伴う岡田西・氏の松遺跡発掘調査報告書(本文及び図版編・別冊図版編)	泉南市教育委員会	〃
泉南市山間部言語調査報告	同上	〃
泉南市信達葛畑・信達楠畑地区民俗資料調査報告	同上	〃
泉南市文化財年報1 昭和57年度～平成5年度	同上	〃
仏教の受容と古代国家 日本古代国家の成立を探る・III	同上	〃
本郷台遺跡	船橋市遺跡調査会	〃
富山県埋蔵文化財センター年報平成6年度	富山県埋蔵文化財センター	〃
武蔵大学人文学会雑誌第27巻第3号	武蔵大学人文学会	〃
王郷遺跡	豊橋市埋蔵文化財調査事務所	〃
外神遺跡	同上	〃
高井遺跡	同上	〃
太田・黒田遺跡第26次発掘調査概報	和歌山市教育委員会・和歌山市文化体育振興事業団	〃
鳴神IV遺跡第6次発掘調査概報	同上	〃
和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報1 昭和63(1988)・平成元(1989)年度	同上	〃
和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報2 平成2(1990)・平成3(1991)年度	同上	〃
のじぎく文化財だより第46号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	8. 4. 10
はいばら野の花の四季	榛原町教育委員会	〃
ムゼイオン第41号	立教大学 学校・社会教育講座	〃
羽黒前遺跡第3次発掘調査概報	我孫子市教育委員会	〃
蟹沢横穴墓群	調布市郷土博物館・調布市遺跡調査会	〃
五輪・観音洞・元山中・陰洞遺跡 I・II (第1分冊・第2分冊)	三島市教育委員会	〃
向日市文化資料館報第10号 平成5年度	向日市文化資料館	〃
佐原市内遺跡発掘調査概報X	佐原市教育委員会	〃
三島市文化財年報第6号	三島市教育委員会	〃

書名	寄贈者	受入日
三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅲ	三島市教育委員会	8.4.10
三島市埋蔵文化財報告Ⅳ	同上	〃
三島代官所・市ヶ原廃寺関連遺跡Ⅰ	同上	〃
榛原町遺跡調査集Ⅰ	榛原町教育委員会	〃
榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 1993年度	同上	〃
榛原町内遺跡発掘調査概要報告書 1994年度	同上	〃
瀬沼三左衛門日記三	八王子市郷土資料館	〃
大場川遺跡群	三島市教育委員会	〃
地下鉄7号線白金台・東六本木間遺跡発掘調査報告書(本文・付図)	港区立港郷土資料館	〃
苫小牧市美沢10遺跡発掘調査概要報告書	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃
苫小牧市美沢東遺跡群発掘調査概要報告書Ⅲ	同上	〃
柏市埋蔵文化財調査報告書31	柏市教育委員会	〃
八王子の歴史と文化第8号	八王子市郷土資料館	〃
富吉遺跡群確認調査報告書	君津市教育委員会	〃
福岡市埋蔵文化財センター年報第14号	福岡市埋蔵文化財センター	〃
平成7年度千葉県君津市内遺跡発掘調査報告書	君津市教育委員会	〃
平成7年度野田市内遺跡発掘調査報告	野田市教育委員会	〃
埋蔵文化財速報展「縄文の彩り」	徳島県埋蔵文化財センター	〃
貝塚博物館紀要第23号	千葉県立加曾利貝塚博物館	8.4.20
山田寺	奈良国立文化財研究所・飛鳥資料館	〃
自然科学研究所研究報告第21号	岡山理科大学図書館	〃
芝山町内遺跡発掘調査報告書	芝山町教育委員会	〃
成田市内遺跡発掘調査報告書	成田市教育委員会	〃
大久保山遺跡Ⅳ(本文・付図)	早稲田大学校地埋蔵文化財調査室	〃
大和の大王の埴輪 冠形埴輪の成立と展開	桜井市文化財協会	〃
平成6年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書	佐倉市教育委員会	〃
平成7年度千葉県富津市内遺跡発掘調査報告書	富津市教育委員会	〃
のじきく文化財だより第47号	財)のじきく文化財保護研究財団	8.5.2
古梅谷遺跡	財)横浜市ふるさと歴史財団	〃
雑色杉本遺跡発掘調査報告	同上	〃
川和向原遺跡 原出口遺跡	同上	〃
庄吉遺跡	財)長生郡市文化財センター	〃
千葉県長生郡長南町 川島遺跡	同上	〃
千葉県長生郡睦沢町石川横穴墓群B支群	同上	〃
千葉県茂原市長尾遺跡群(本文・付図)	同上	〃
長生郡市文化財センター年報No.9 平成5年度・6年度	同上	〃
ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅲ 美沢15遺跡	財)北海道埋蔵文化財センター	〃
七飯町大中山13遺跡(2)	同上	〃
千歳市オサツ2遺跡(1)・オサツ14遺跡	同上	〃
千歳市キウス5遺跡・キウス7遺跡(2)・ケネフチ8遺跡	同上	〃
滝里遺跡群Ⅴ 芦別市滝里4遺跡(1)	同上	〃
調査年報7(平成6年度)	同上	〃
津島東3丁目遺跡第1地点 清水谷遺跡	岡山理科大学	〃
平成7年度企画展中沢貝塚出土品展 後期縄文人の暮らしと祈り	鎌ヶ谷市郷土資料館	〃
さんだのいせき11~25ミニ・ミニ企画展じゅうさん〜じゅうご	三田市教育委員会	〃
梶内遺跡	山武考古学研究所	〃
観音寺遺跡	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
岩本前遺跡発掘調査報告書	山武考古学研究所	8.5.2
研究紀要創刊号	同上	"
県立文書館遺跡	同上	"
元総社稲葉遺跡	同上	"
元島名瓦井遺跡	同上	"
幸田遺跡・幸田台遺跡	同上	"
高野・新宿遺跡	同上	"
高野南遺跡	同上	"
山武郡考古学研究所年報No.13	同上	"
小暮東新地遺跡	同上	"
上中居平塚Ⅰ遺跡	同上	"
上中居平塚Ⅱ遺跡	同上	"
神岡上古墳群	同上	"
西善殿治屋遺跡	同上	"
青梨子金古境遺跡	同上	"
地藏平遺跡・地藏窪貝塚 発掘調査報告書	同上	"
東山団地遺跡	同上	"
峠遺跡	同上	"
峯崎遺跡	同上	"
堀遺跡	同上	"
免の内台遺跡Ⅱ	同上	"
杣瀬Ⅰ遺跡・杣瀬Ⅱ遺跡・杣瀬Ⅲ遺跡	同上	"
御殿・二之宮遺跡 第6次発掘調査報告書(本文・付図)	同上	"
井之上遺跡	山武町教育委員会	"
山武町内遺跡発掘調査報告書	同上	"
内園6遺跡	深川市教育委員会	"
20年のあゆみ	千葉県立総南博物館	"
志茂遺跡・神谷遺跡	北区教育委員会	"
袋低地遺跡・道合遺跡	同上	"
田端西台通遺跡Ⅲ・田端不動坂遺跡Ⅲ	同上	"
本納城外郭跡-2	茂原市教育委員会	"
一般国道11号重信道路埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	8.5.7
一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ	同上	"
岩崎台地遺跡群発掘調査報告書(第1分冊 本文編)(第2分冊 遺構図解編)(第3分冊 遺物図版編)(第4分冊 写真図版)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	"
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成6年度分)	同上	"
紀要XV(平成6年度)	同上	"
荒田Ⅲ・荒田Ⅳ遺跡第1次発掘調査報告書	同上	"
志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書	同上	"
松屋敷遺跡発掘調査報告書	同上	"
上村遺跡発掘調査報告書	同上	"
上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書(分冊1・分冊2・分冊3)	同上	"
上米内遺跡調査報告書(第1分冊)(第2分冊)	同上	"
上野々遺跡	同上	"
水吉Ⅵ遺跡発掘調査報告書	同上	"
西田東遺跡発掘調査報告書	同上	"
大渡Ⅱ遺跡発掘調査報告書(本文・図版No.1・図版No.2・図版No.3)	同上	"
大畑Ⅰ遺跡・大畑Ⅱ遺跡発掘調査報告書	同上	"

書名	寄贈者	受入日
猪川館跡発掘調査報告書(第1分冊)(第2分冊)(図版No.1)(図版No.2)	磐手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	8.5.7
田代IV遺跡・田代VI遺跡発掘調査報告書	同上	〃
土場遺跡発掘調査報告書	同上	〃
馬場館遺跡・小吹野遺跡	同上	〃
本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書	同上	〃
本内I遺跡発掘調査報告書	同上	〃
柳上遺跡発掘調査報告書(第1分冊 本文・遺構編)(第2分冊 遺物編)(第3分冊 写真図版編)	同上	〃
京都市内遺跡試掘調査概報平成7年度	財京都市埋蔵文化財研究所	〃
京都市内遺跡発掘調査概報平成7年度	同上	〃
京都市内遺跡立会調査概報平成7年度	同上	〃
瀬名遺跡I(遺構編I)遺構図	財静岡県埋蔵文化財調査研究所	〃
瀬名遺跡I(遺構編I)本文編	同上	〃
吉崎・次場遺跡	石川県立埋蔵文化財センター	〃
金沢市近岡遺跡	同上	〃
九谷A遺跡	同上	〃
佐野遺跡	同上	〃
寺井町千代デジロA遺跡・大長野A遺跡	同上	〃
石川県立埋蔵文化財センター年報第15号(平成5年度)	同上	〃
大津赤兀遺跡	同上	〃
大島南古墳群発掘調査報告	同上	〃
滝・柴垣海岸G遺跡	同上	〃
鶴来北部遺跡調査報告I	同上	〃
念仏林遺跡	同上	〃
富来町貝田遺跡・貝田C遺跡	同上	〃
平木遺跡群	同上	〃
北吉田ノノメ号墳群発掘調査報告書	同上	〃
北塚遺跡第13次発掘調査報告書	同上	〃
仁徳陵古墳 築造の時代	大阪府立近つ飛鳥博物館	〃
大阪府立近つ飛鳥博物館館報1	同上	〃
のじぎく文化財だより第49号	財のじぎく文化財保護研究財団	8.5.13
「古代の布づくりと土器づくり体験」	財広島市歴史科学教育事業団	〃
串山城遺跡発掘調査報告(本文・付図)	同上	〃
広島城関連遺跡発掘調査報告書	同上	〃
黒谷遺跡発掘調査報告	同上	〃
原田窯跡・原田C遺跡	いわき市教育委員会	〃
根岸遺跡	同上	〃
番匠地遺跡	同上	〃
調査研究報告第9号	埼玉県立さきたま資料館	〃
世田谷区史料叢書第十一巻	世田谷区立郷土資料館	〃
郡山遺跡XVI	仙台市教育委員会	〃
今泉遺跡第3次発掘調査報告書	同上	〃
仙台平野の遺跡群XV	同上	〃
南小泉遺跡	同上	〃
北原街道B遺跡発掘調査報告書	同上	〃
平成6年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書	船橋市教育委員会	〃
平成7年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書	同上	〃
小田野遺跡発掘調査報告書	八王子市教育委員会	〃

書名	寄贈者	受入日
古代学研究所研究紀要第5輯	（財）古代学協会古代学研究所	8. 5. 14
くらしの道具	一宮市博物館	〃
一宮市博物館年報（4）平成5・6年度	同 上	〃
日本全国書誌No.2070	国立国会図書館	〃
四街道市内発掘調査報告書1996	四街道市教育委員会	〃
くらしの道具 道具が語るくらしの歴史	船橋市郷土資料館	〃
ぼくらをのせて 船橋の鉄道	同 上	〃
古墳時代	同 上	〃
戦中・戦後の生活	同 上	〃
地域研究資料1地形図	同 上	〃
地図で読む船橋の歴史	同 上	〃
縄文時代	同 上	〃
多古町栗山川流域遺跡群	多古町教育委員会	〃
笠間市西田遺跡の研究 縄文時代における石鏃の製作と流通に関する研究	筑波大学歴史・人類学系	〃
千葉県香取郡大栄町稲荷山遺跡の整理1	同 上	〃
筑波大学先史学・考古学研究第7号	同 上	〃
伊藤鉄夫・陽夫考古学資料目録Ⅱ 伊藤鉄夫収集資料編	法政大学文学部考古学研究室	〃
名古屋大学文学部研究論集125 史学42	名古屋大学文学部考古学研究室	〃
長岡京跡右京第496次・東羅古墳群発掘調査報告	（財）長岡京市埋蔵文化財センター	8. 5. 15
多摩ニュータウン遺跡	（財）東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
川越村	（財）枚方市文化財研究調査会	〃
埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書 平成7年度	千葉市教育委員会	〃
銚子の指定文化財	銚子市教育委員会	〃
東宮前遺跡	柏市教育委員会	〃
研究紀要第2号	（財）京都市埋蔵文化財研究所	8. 5. 16
平成5年度京都市埋蔵文化財調査概要	同 上	〃
汐留遺跡	（財）東京都埋蔵文化財センター	〃
尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要Ⅳ	同 上	〃
日本全国書誌1996-18No.2073	国立国会図書館	〃
高橋家「御用留」第四集	茂原市教育委員会	〃
千束台遺跡群発掘調査報告書Ⅱ	木更津市教育委員会	〃
千葉県木更津市内遺跡発掘調査報告書 高砂遺跡・野焼B遺跡	同 上	〃
大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅰ	同 上	〃
中尾遺跡群発掘調査報告書Ⅱ	同 上	〃
小林一茶寄寓の地保存整備事業報告書	流山市教育委員会	〃
平成7年度流山市市内遺跡発掘調査報告書	同 上	〃
京都府埋蔵文化財情報第59号	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	8. 5. 17
府中市No.29遺跡	（財）東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
生尾遺跡	（財）東総文化財センター	〃
千葉県八日市場市矢摺泥炭遺跡Ⅰ	同 上	〃
千葉県八日市場市矢摺泥炭遺跡Ⅱ	同 上	〃
ハサマ遺跡発掘調査報告書	岡崎市教育委員会	〃
古村積神社古墳発掘調査報告書	同 上	〃
向原土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	〃
女坂遺跡発掘調査報告書	同 上	〃
上吉沢向田遺跡発掘調査報告書	同 上	〃
二伝寺砦遺跡発掘調査報告書	同 上	〃

書名	寄贈者	受入日
芝山町史通史編上(本文・別図)	芝山町史編さん室	8.5.17
図録「古筆手鑑」	成田山霊光館	〃
大里東遺跡	大里東遺跡発掘調査団・三宅村教育委員会	〃
千葉県八街市長者堀柳沢野馬土手(第2地点)発掘調査報告書	八街市教育委員会	〃
名古屋市博物館研究紀要第19巻	名古屋市博物館	〃
明治期博覧会出品七宝工総覧	同上	〃
京都府遺跡調査概報第68冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	8.5.20
向日市埋蔵文化財調査報告書第43集	(財)向日市埋蔵文化財センター	〃
平成6年度(財)向日市埋蔵文化財センター年報都城7	同上	〃
岡山市埋蔵文化財調査の概要 1994年度	岡山市教育委員会	〃
三内丸山(2)遺跡Ⅱ(第1分冊・第2分冊・付図)	青森県埋蔵文化財調査センター	〃
三内丸山(2)遺跡Ⅳ	同上	〃
山元(2)遺跡発掘調査報告書	同上	〃
上蛇沢(1)遺跡	同上	〃
上蛇沢(2)遺跡	同上	〃
上田遺跡	同上	〃
水木館遺跡(本文・配置図)	同上	〃
西張(3)遺跡	同上	〃
泉山遺跡Ⅲ	同上	〃
大平(5)遺跡・草薙(1)遺跡・湯ヶ森(2)遺跡	同上	〃
白砂遺跡	同上	〃
長野県立歴史館研究紀要第2号	長野県立歴史館	〃
郡遺跡群発掘調査報告書Ⅱ(本編・写真図版編)	(財)君津郡市文化財センター	8.5.21
山ノ下製鉄遺跡	同上	〃
常代遺跡群(第1分冊常代遺跡縄文～古墳前期編)(第2分冊常代遺跡古墳後期～近世)(第3分冊常代遺跡弥生時代大溝・分析)	同上	〃
台木A遺跡	同上	〃
井沼方遺跡発掘調査報告書	浦和市遺跡調査会	8.5.22
会ノ谷遺跡発掘調査報告書	同上	〃
大久保領家片町遺跡発掘調査報告書(第8地点)	同上	〃
田島遺跡発掘調査報告書	同上	〃
不動谷遺跡発掘調査報告書(第6次)(本文・付図)	同上	〃
明花南遺跡発掘調査報告書	同上	〃
玉里村立史料館報第1号	玉里村立史料館	〃
伊勢原遺跡	寄居町遺跡調査会	8.5.27
大町遺跡	同上	〃
町内遺跡4	寄居町教育委員会	〃
東家地古墳・茗荷谷古墳群第3古墳	三田市教育委員会	〃
久野諏訪の原第2号古墳	小田原市教育委員会	〃
沼津市博物館紀要20	沼津市歴史民俗資料館	〃
豊中市服部遺跡 第5次調査	六甲山麓遺跡調査会	〃
房総文化第十八号	和洋女子大学博物館学研究室	〃
境窪・城・畦の前・南山	近藤 敏	8.5.28
考古文献資料(1)上福岡貝塚	同上	〃
鴻ノ巣遺跡 第6次発掘調査報告書	同上	〃
調布市上石原遺跡第Ⅱ地点	同上	〃
調布市深大寺遺跡	同上	〃
調布市染地遺跡第Ⅶ地区A地点・B地点	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
東の上遺跡第2次～6次	近藤 敏	8.5.28
縄文探検	同 上	〃
飛田給遺跡第2地点	同 上	〃
柳瀬川流域遺跡群 (X)	同 上	〃
六ツ家遺跡	同 上	〃
和考研究増刊号	同 上	〃
東邦考古第20号	山岸良二	〃
最新日本考古学用語辞典	大村 直	〃
飯能の遺跡 (1)	飯能市教育委員会	〃
飯能の遺跡 (2)	同 上	〃
飯能の遺跡 (3)	同 上	〃
飯能の遺跡 (4)	同 上	〃
飯能の遺跡 (5) (本文・付図)	同 上	〃
飯能の遺跡 (6)	同 上	〃
飯能の遺跡 (7)	同 上	〃
飯能の遺跡 (8)	同 上	〃
飯能の遺跡 (9)	同 上	〃
飯能の遺跡 (10)	同 上	〃
飯能の遺跡 (11)	同 上	〃
飯能の遺跡 (12)	同 上	〃
飯能の遺跡 (13)	同 上	〃
飯能の遺跡 (14)	同 上	〃
飯能の遺跡 (15)	同 上	〃
飯能の遺跡 (16)	同 上	〃
飯能の遺跡 (17)	同 上	〃
飯能市遺跡分布調査報告書	同 上	〃
宝蔵寺経塚調査報告書 付智観寺板碑発掘調査報告	同 上	〃
和考研究IV	鈴木敏弘	〃
西東子遺跡発掘調査報告書	(財)東広島市教育文化振興事業団	8.6.3
愛知県埋蔵文化財情報11	(財)愛知県埋蔵文化財センター	8.6.10
年報平成7年度	同 上	〃
市立市川考古博物館図録17	市立市川考古博物館	〃
平成6年度市立市川考古博物館年報 第23号	同 上	〃
平成6年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	大阪市教育委員会	〃
五郎山古墳第1次発掘中間報告	福岡大学考古学研究室	〃
物見処遺跡1995	國學院大學文学部考古学研究室	〃
柳又遺跡A地点第5次発掘調査報告書	同 上	〃
柳又遺跡A地点第6次発掘調査報告書	同 上	〃
空港跡地遺跡発掘調査概報	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	8.6.11
県道関係埋蔵文化財発掘調査概報平成7年度	同 上	〃
弘田川西岸遺跡	同 上	〃
高松城跡	同 上	〃
高松城跡(西の丸町)	同 上	〃
国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成7年度	同 上	〃
砂入遺跡	同 上	〃
鹿伏・中所遺跡	同 上	〃
平池南遺跡	同 上	〃



書名	寄贈者	受入日
今田遺跡発掘調査報告書	(財)東広島市教育文化振興事業団	8.6.11
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第34集	宇治市教育委員会	〃
若林遺跡発掘調査概報	同上	〃
柴又帝釈天遺跡Ⅶ(本文・付図)	葛飾区教育委員会	〃
本郷遺跡Ⅴ(本文・付図)	同上	〃
千葉県成東町駄ノ塚古墳発掘調査報告	国立歴史民俗博物館	〃
上谷地C遺跡発掘調査報告書	山形県教育委員会	〃
分布調査報告書(21)	同上	〃
分布調査報告書(22)	同上	〃
分布調査報告書(23)	同上	〃
千葉県の自然誌	千葉県文書館	〃
倉敷埋蔵文化財センター年報2 1994年度	倉敷埋蔵文化財センター	〃
茂浦古墳群	同上	〃
江戸幕府の代官	大田区立郷土博物館	〃
大田区立郷土博物館紀要第6号	同上	〃
馬込文士村ガイドブック	同上	〃
奈良市埋蔵文化財センター紀要1995	奈良市教育委員会	〃
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書平成7年度	同上	〃
平城京東市跡推定地の調査XIV	同上	〃
國學院大學考古学資料館紀要第12輯	國學院大學考古学資料館	〃
鬼鹿川遺跡26次・西ノ辻遺跡18~20次調査概要報告 東大阪市東石切・西石切町所在	(財)東大阪市文化財協会	8.6.12
宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書(第1分冊・第2分冊)	同上	〃
若江遺跡第38次発掘調査報告	同上	〃
西ノ辻遺跡第9次発掘調査報告	同上	〃
西ノ辻遺跡第22次発掘調査報告書	同上	〃
西ノ辻遺跡第27次・鬼鹿川遺跡第32次発掘調査報告書	同上	〃
西ノ辻遺跡第30次発掘調査報告	同上	〃
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告 1993年度	同上	〃
かわちもめん	近藤 敏	〃
廻沢北遺跡	同上	〃
萱田町川崎山遺跡	同上	〃
吉祥山	同上	〃
江戸川区上小岩遺跡	同上	〃
鹿島平方裏遺跡発掘調査報告書	同上	〃
松原遺跡	同上	〃
上福岡市遺跡調査報告書	同上	〃
先史19東京都町田市武蔵岡遺跡1981年度	同上	〃
千葉県多古町境遺跡発掘調査報告書	同上	〃
扇山遺跡	同上	〃
相原坂下遺跡発掘調査概報	同上	〃
第5回東日本の水田跡を考える会資料集	同上	〃
沢口遺跡発掘調査報告書	同上	〃
池ノ台遺跡	同上	〃
南橋遺跡	同上	〃
仏教伝来その後	同上	〃
埋蔵文化財の調査(Ⅳ)	同上	〃
桐田遺跡群1976年度調査概報	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
栲田遺跡群1978年度調査概報	近藤 敏	8.6.12
新潟県史通史編1 原始・古代	高橋康男	"
東大阪市文化財資料目録第1集	小川浩一・近藤 敏	"
下道遺跡	沼津市教育委員会	"
三枚橋城址外堀跡発掘調査報告書	同 上	"
土手上遺跡（b・c区）発掘調査報告書	同 上	"
土手上遺跡（b・c区）付図	同 上	"
柏葉尾遺跡遺跡発掘調査報告書	同 上	"
四五迫城跡	新市町立歴史民俗資料館	"
平成7年度千葉県遺跡調査研究発表会要旨	千葉県文化財法人連絡協議会	"
市川橋遺跡第19次調査報告書	多賀城市埋蔵文化財調査センター	"
多賀城市埋蔵文化財調査センター年報 平成6年度	同 上	"
京都府遺跡調査概報第69冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	8.6.13
埼玉県立埋蔵文化財センター年報5	埼玉県立埋蔵文化財センター	"
秋田市秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財遺構確認調査報告書	秋田市教育委員会	"
四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書X I 伊予市編 I	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	8.6.14
農耕開始期の石器組成1	国立歴史民俗博物館	"
農耕開始期の石器組成2	同 上	"
栃木県立なす風土記の丘資料館年報第3号（平成6年度版）	栃木県立なす風土記の丘資料館	"
鎌坂遺跡	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	"
光源寺遺跡	同 上	"
舟場窯跡	同 上	"
曾々木谷田遺跡	同 上	"
大土呂遺跡	同 上	"
長泉寺遺跡	同 上	"
南江守大榎遺跡	同 上	"
八田新保1号窯跡	同 上	"
尾永見遺跡、下田遺跡、縄境遺跡、犬山遺跡	同 上	"
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター年報 9	同 上	"
北陸自動車道関係遺跡調査報告書No.13	同 上	"
六条・和田地区遺跡群	同 上	"
史跡吉川氏城館跡 吉川元春館跡	広島県教育委員会	8.6.17
汐留遺跡（第1分冊・第2分冊・第3分冊）	汐留遺跡調査会	"
新寺遺跡	春日部市教育委員会	"
新寺遺跡2次	同 上	"
坊荒句北／坊荒句／坊荒句北2次／立山遺跡	同 上	"
大寺山洞穴	千葉大学文学部考古学研究室	"
福知山市文化財調査報告書第32集	福知山市教育委員会	"
平成7年度埋蔵文化財発掘調査概報	同 上	"
東海大学校地内遺跡調査団報告6	東海大学校地内遺跡調査団	8.6.20
カンカン2遺跡	平取町教育委員会	"
旧平取小学校植物園遺跡	同 上	"
横引遺跡 籠峰遺跡 柳平遺跡	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	8.6.25
吉ヶ沢遺跡A地点・上ノ平遺跡B地点・中峰遺跡	同 上	"
新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成7年度	同 上	"
清水上遺跡Ⅱ（本文編・観察表・写真図版編・図面図版編）	同 上	"
大坂上道遺跡・猿額遺跡・中棚遺跡・牧ノ沢遺跡	同 上	"

書名	寄贈者	受入日
古代出雲文化展 神々の国悠久の遺産	島根県教育委員会	8.6.25
海老名の庚甲塔	海老名市教育委員会	"
海老名市埋蔵文化財年報1 平成3年(1991)度版	同上	"
港区文化財調査集録第3集	港区立港郷土資料館	"
文書目録	同上	"
平成7年度港区指定文化財	同上	"
不動塚古墳(本文・付図・フォトCDディスク)	山武考古学研究所	"
六反田遺跡	仙台市教育委員会	"
広島大学文学部帝釈遺跡群発掘調査室年報IX	帝釈遺跡群発掘調査室	"
広島大学文学部帝釈遺跡群発掘調査室年報X	同上	"
落越遺跡	八王子市教育委員会	"
千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告 平成7年度	八千代市教育委員会	"
千葉県八千代市追分塚発掘調査報告書	同上	"
八千代市埋蔵文化財調査年報 平成6年度版	同上	"
落川・一の宮遺跡調査略報IV(本文・付図)	落川・一の宮遺跡調査会	"
公社要覧 昭和59年度～平成6年度	働ひたちなか市文化・スポーツ振興公社	8.6.26
武田IX	同上	"
B-17号遺跡(第2次調査)	大宮市遺跡調査会	"
B-22号遺跡(土呂陣屋跡)(本文・付図)	同上	"
御蔵山中遺跡 第3次調査	同上	"
三崎台遺跡 第3次調査	同上	"
市内遺跡発掘調査報告	大宮市教育委員会	"
10周年記念論文集	働静岡県埋蔵文化財調査研究所	8.6.27
遠江国分寺跡の調査(本文・付図)	同上	"
曲金北遺跡	同上	"
元島遺跡	同上	"
御殿川流域遺跡群III	同上	"
瀬名遺跡IV(自然科学編)	同上	"
静岡県埋蔵文化財調査研究所年報XII(平成7年度事業概要)	同上	"
川田・藤蔵淵遺跡	同上	"
椿野遺跡	同上	"
甘粕原遺跡	寄居町遺跡調査会	"
末野元宿遺跡	同上	"
用土前峯遺跡(第2・3次)	同上	"
井ノ内稲荷塚古墳 第3次発掘調査概報	大阪大学文学部考古学研究室	"
古代交通研究会第5回大会	田所 真	"
恩原2遺跡	岡山大学文学部考古学研究室	8.6.28
大津の文化財	大津市教育委員会	"
大津市遺跡分布地図(本文・付図)	同上	"
三井氏館跡(北村遺跡)概報	長坂町教育委員会	"
東条地区遺跡発掘調査概報	鳴川市教育委員会	8.7.2
大阪府下埋蔵文化財研究会(第34回)資料	働大阪府文化財調査研究センター	8.7.3
武蔵国分寺跡	国分寺市教育委員会	"
武蔵国分尼寺跡I	同上	"
武蔵国分尼寺跡II	同上	"
恋ヶ窪遺跡調査報告VII	同上	"
H37遺跡丘珠空港内(本文・付図)	札幌市教育委員会	"

書名	寄贈者	受入日
K113遺跡北35条地点(本文・付図)	札幌市教育委員会	8.7.3
N175遺跡	同上	"
T276遺跡	同上	"
古代第101号	早稲田大学考古学会	"
伊勢国分寺・国府跡3	鈴鹿市教育委員会	"
鈴鹿市埋蔵文化財調査年報Ⅲ	同上	"
埋蔵文化財調査報告11 平成7年度(1995年度)	練馬区教育委員会	8.7.8
千葉県立総南博物館年報3	千葉県立総南博物館	8.7.9
土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(本文・付図)	土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム	"
鶴沼古市場遺跡A地区発掘調査報告書	各務原市埋蔵文化財調査センター	8.7.10
宮塚遺跡A地区発掘調査報告書	同上	"
野口廃寺B地区発掘調査報告	同上	"
間野台貝塚	(財)印旛都市文化財センター	8.7.11
吉見稲荷山遺跡	同上	"
小菅法華塚Ⅰ・Ⅱ遺跡(本文・付図)	同上	"
鐘塚No.2遺跡	同上	"
上岩橋岩崎遺跡	同上	"
神門房下遺跡発掘調査報告書	同上	"
千葉県印旛郡印西町曾谷窪遺跡発掘調査報告書	同上	"
千葉県佐倉市八木宇廣遺跡発掘調査報告書	同上	"
千葉県佐倉市城次郎丸遺跡	同上	"
墨木戸(本文編・図版編・付図)	同上	"
四天王寺旧境内遺跡発掘調査報告Ⅰ	(財)大阪市文化財協会	"
長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅷ	同上	"
長原遺跡発掘調査報告Ⅵ	同上	"
上野忍ヶ岡遺跡国立西洋美術館地点調査報告書	国立西洋美術館	"
花積台耕地遺跡3次 浜川戸遺跡12・13次	春日部市教育委員会	"
浜川戸14・16次/花積内谷耕地3次/慈恩寺原西遺跡	同上	"
水沢遺跡群範囲確認調査平成7年度発掘調査概報	水沢市教育委員会	"
胆沢城跡平成7年度発掘調査概報	同上	"
杉の堂遺跡	水沢市埋蔵文化財調査センター	"
雷神Ⅰ遺跡	同上	"
龍ヶ馬場Ⅱ遺跡発掘調査報告書	同上	"
島根大学構内遺跡発掘調査概報Ⅱ(諸田地区1)	島根大学埋蔵文化財調査研究センター	"
高森遺跡Ⅲ	東北歴史資料館	"
飛鳥・藤原宮発掘調査概報26	奈良国立文化財研究所	"
糸大谷遺跡(本文・付図)	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	8.7.12
若草町遺跡Ⅱ	同上	"
高槻市文化財年報平成6年度	高槻市立埋蔵文化財調査センター	"
嶋上遺跡群20	同上	"
瀬戸市埋蔵文化財センター年報	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	8.7.15
走田古墳群・海印寺跡・長岡京跡 長岡京市文化財調査報告書第35冊	長岡京市教育委員会	"
尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅰ	(財)東京都教育文化財団・東京都埋蔵文化財センター	8.7.16
オサツ15・16・18遺跡	北海道文化財保護協会	"
千歳市 ポンオサツ遺跡・ケネフチ5遺跡	同上	"
夕張市十三哩遺跡・滝の上4遺跡	同上	"
伊地山石塔前Ⅱ遺跡	(財)香取都市文化財センター	8.7.17

書名	寄贈者	受入日
月輪神社遺跡	(財)香取都市文化財センター	8.7.17
高岡清水遺跡	同上	〃
桜田野馬土手跡	同上	〃
猫作・栗山16号墳	同上	〃
千葉県立安房博物館研究紀要VOL.3	千葉県立安房博物館	〃
寺方遺跡	(財)東総文化財センター	8.7.19
小高遺跡	同上	〃
財団法人八尾市文化財調査研究会報告50	(財)八尾市文化財調査研究会	〃
中田遺跡	同上	〃
東郷遺跡 財団法人八尾市文化財調査研究会報告48	同上	〃
平成7年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告	同上	〃
埋蔵文化財発掘調査概報集4	横須賀市教育委員会	〃
レトロ・レトロの展覧会1996 シンガタロウ君の時間旅行記2	(財)滋賀県文化財保護協会	8.7.22
京都府遺跡調査概報第70冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	8.7.23
横田遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	〃
丸山／青梅道南／十文字原／東武蔵野／西武蔵野	同上	〃
栗屋／屋淵／中台	同上	〃
今井川越田遺跡(本文・付図)	同上	〃
今羽丸山遺跡	同上	〃
坂東山／坂東山西／後B	同上	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報16	同上	〃
山王裏遺跡	同上	〃
新屋敷遺跡C区	同上	〃
深谷城跡	同上	〃
菅原遺跡	同上	〃
中里前原北遺跡	同上	〃
堂山公園／久台	同上	〃
八木上／八木／八木前／上広瀬北／森坂北／森坂	同上	〃
万才町遺跡	長崎市埋蔵文化財調査協会	〃
出土文字資料集成(千葉県の歴史資料編古代別冊)	千葉県文書館	8.7.25
千葉県の歴史 資料編 近現代1(政治・行政1)	同上	〃
千葉県の歴史 資料編 古代(出土文字資料集成)	同上	〃
千葉県の歴史 別編 地誌1 総論	同上	〃
下戸塚遺跡の調査 第2部弥生時代から古墳時代前期	早稲田大学文化財整理室	〃
早稲田大学東伏見総合グラウンド遺跡B地区調査報告書	同上	〃
長岡京市埋蔵文化財センター年報平成6年度	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	8.7.29
大古里遺跡発掘調査報告書	浦和市遺跡調査会	〃
第33回企画展「縄文時代の自然と祈り」	小山市立博物館	〃
久野城平成6・7年度発掘調査概報	袋井市教育委員会	〃
金山古墳群・金山横穴群Ⅰ・Ⅱ	同上	〃
高尾向山遺跡Ⅱ	同上	〃
寿行地古墳発掘調査報告書	土浦市教育委員会	〃
土浦市中村西根地内中新台遺跡発掘調査報告書	同上	〃
東山団地遺跡	同上	〃
ライトコロ右岸遺跡	東京大学文学部考古学研究室	〃
東京大学文学部考古学研究室研究紀要第14号	同上	〃
荒砥上ノ坊遺跡Ⅰ 縄文時代～古墳時代の調査(本文・図版編・遺物観察表編)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	8.7.30

書名	寄贈者	受入日
行力春名社遺跡(本文・付図)	(勸)群馬県埋蔵文化財調査事業団	8.7.30
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団年報14	同上	"
大八木屋敷遺跡(本文・付図)	同上	"
東上秋間遺跡群	同上	"
南蛇井増光寺遺跡(本文編・写真図版編)	同上	"
矢田遺跡Ⅳ 古墳時代住居跡編(3)(本文・付図)	同上	"
吉岡遺跡群Ⅰ	(勸)かながわ考古学財団	8.7.31
吉岡遺跡群Ⅱ	同上	"
宮ヶ瀬遺跡群Ⅵ	同上	"
年報2	同上	"
(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書(上巻・中巻・下巻・付図)	(勸)茨城県教育財団	"
一級河川玉川改修工事地内埋蔵文化財調査報告書	同上	"
一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ(本文・付図)	同上	"
一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ(本文・付図)	同上	"
牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)(本文・付図)	同上	"
牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ)(本文・付図)	同上	"
研究ノート5号	同上	"
国道354号国補道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書(本文・付図)	同上	"
主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ(本文・付図)	同上	"
主要地方道土浦竜ヶ崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	同上	"
取手都市計画事業下高井特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(本文・付図)	同上	"
常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書1	同上	"
常北町道105号線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	同上	"
常陸那珂有料道路事業地内埋蔵文化財調査報告書	同上	"
年報15〈平成7年度〉	同上	"
下柳A遺跡発掘調査報告書	(勸)山形県埋蔵文化財センター	"
宮ノ下遺跡発掘調査報告書	同上	"
向田遺跡発掘調査報告書	同上	"
上荒谷遺跡発掘調査報告書	同上	"
西谷地遺跡第3次発掘調査報告書(本文・付図)	同上	"
渡戸遺跡発掘調査報告書	同上	"
年報	同上	"
富沢Ⅰ遺跡(本文・付図)	同上	"
北目長田遺跡・權待遺跡第2次発掘調査報告書	同上	"
落合遺跡発掘調査報告書	同上	"
古代の木製食器 弥生期から平安期にかけての木製食器	(勸)石川県埋蔵文化財保存協会	"
南八王子地区遺跡調査報告10(郷田原遺跡)	玉川文化財研究所	"
金沢市河原市館跡	金沢市教育委員会	"
柚木城と三ノ坂道	同上	"
金石本町遺跡Ⅰ	同上	"
金石本町遺跡Ⅱ	同上	"
金石本町遺跡Ⅲ	同上	"
金沢市近岡テラダ遺跡	同上	"
西念・南新保遺跡Ⅳ	同上	"
平成7年度 金沢市埋蔵文化財調査年報	同上	"
及川宮ノ西遺跡	国道412号線遺跡発掘調査団	"
及川寺ノ上遺跡調査報告書	同上	"

書名	寄贈者	受入日
神奈川県立埋蔵文化財センター年報14	神奈川県立埋蔵文化財センター	8.7.31
「大昔のけものたち」 信州のほ乳類化石	長野市立博物館	〃
枚方市文化財年報16 (1994年度分)	(協)枚方市文化財研究調査会	8.8.5
枚方市文化財年報17 (1995年度分)	同上	〃
猿沢 (42) 遺跡外試掘調査報告書	青森県埋蔵文化財調査センター	〃
熊ヶ平遺跡発掘調査報告書・板子塚遺跡発掘調査報告書	同上	〃
研究紀要 第1号	同上	〃
戸沢川代遺跡・熊ヶ平遺跡	同上	〃
高野川 (3) 遺跡	同上	〃
佐野平館跡・上佐野遺跡	同上	〃
四ッ役遺跡	同上	〃
畑内遺跡Ⅲ (本文・付図)	同上	〃
平野遺跡	同上	〃
大和の埴輪	近藤 敏	8.8.6
比企 丘陵に生きた人々の暮らしと文化	同上	〃
さきたま古墳群とその時代 古代東国の武人たち	同上	〃
埋蔵文化財白書	同上	〃
さんいん古代史の周辺〈上〉	同上	〃
さんいん古代史の周辺〈中〉	同上	〃
一色遺跡	同上	〃
稲荷山古墳出土鉄剣金象嵌銘概報	同上	〃
歌舞伎入門⑧ (上方歌舞伎)	同上	〃
建築知識 1994年6月号	同上	〃
研究紀要1982	同上	〃
古代の顔	同上	〃
古代官道・西海道跡	同上	〃
古代交通研究 創刊号	同上	〃
古代交通研究 第2号	同上	〃
古代交通研究 第3号	同上	〃
古代交通研究 第4号	同上	〃
古代交通研究会 第4回大会	同上	〃
五味貝戸貝塚	同上	〃
埼玉県上福岡市内遺跡群埋蔵文化財の調査 (Ⅲ)	同上	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報11	同上	〃
埼玉県立博物館館有資料目録Ⅲ	同上	〃
埼玉県立博物館紀要5	同上	〃
埼玉県立博物館紀要6	同上	〃
埼玉県立博物館紀要8・9	同上	〃
埼玉県立博物館紀要10	同上	〃
埼玉県立博物館紀要11	同上	〃
埼玉県立博物館紀要15	同上	〃
埼玉県立博物館展示解説歴史 I	同上	〃
埼玉県立博物館展示総合案内	同上	〃
埼玉県立歴史資料館研究紀要第1号	同上	〃
埼玉県立歴史資料館研究紀要第2号	同上	〃
埼玉県立歴史資料館研究紀要第5号	同上	〃
埼玉考古第9号	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
埼玉考古第16号	近藤 敏	8. 8. 6
埼玉考古第17号	同 上	"
埼玉考古第18号	同 上	"
埼玉考古第20号	同 上	"
山田・宝馬古墳群（本文・付図）	同 上	"
子和清水遺跡房地遺跡一枚田遺跡	同 上	"
市川市新山遺跡	同 上	"
芝山町山田古墳群・山田出口遺跡	同 上	"
小深作前遺跡・青葉園東遺跡発掘調査報告	同 上	"
辛亥銘鉄剣と金石文シンポジウム	同 上	"
成増一丁目遺跡の発掘調査	同 上	"
西相模の三・四世紀	同 上	"
先史文化論考（上）	同 上	"
先史文化論考（下）	同 上	"
千葉・上ノ台遺跡（全5分冊-1本文編）	同 上	"
千葉・上ノ台遺跡（付篇）	同 上	"
千葉県立房総風土記の丘資料館図録	同 上	"
千葉市中薮遺跡	同 上	"
川口市文化財調査報告書第8集 天神山遺跡	同 上	"
太宰府天満宮	同 上	"
台地研究No.21	同 上	"
第2回弥生時代シンポジウム発表要旨 長野大会	同 上	"
第9回企画展 野尻湖発掘展 氷河時代の狩人を求めて	同 上	"
的場 八番 荒川附遺跡	同 上	"
東京都板橋区成増一丁目遺跡発掘調査報告（本文編・図版編）	同 上	"
東北原遺跡 第5次調査	同 上	"
特別展「古墳 かざり大刀の世界」 展示図録	同 上	"
萩原内遺跡・西谷A遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書（本文・付図）	同 上	"
箱清水式土器 櫛描文と鉄丹の文化	同 上	"
飛鳥資料館案内	同 上	"
房総のあけぼのⅡ 古墳と古代の寺でら	同 上	"
房総のあけぼのⅢ 古代のむらと中世の城	同 上	"
流山市郷土資料館年報No.5'83	同 上	"
歴史公論第2巻第10号	同 上	"
歴史公論第4巻第9号	同 上	"
歴史公論第5巻第5号	同 上	"
歴史公論第7巻第2号	同 上	"
歴史公論第7巻第5号	同 上	"
歴史公論第7巻第6号	同 上	"
歴史読本第39巻第21号	同 上	"
佛教藝術148号	同 上	"
文化財ノート第4集	伊勢原市教育委員会	8. 8. 12
国立歴史民俗博物館研究報告第63集	国立歴史民俗博物館	8. 8. 20
「新発見考古速報展'96」群馬県地域展示 群馬発掘最前線	群馬県立歴史博物館	8. 9. 3
舎人遺跡	足立区立郷土博物館	8. 9. 10
千葉城郭研究第1号	近藤 敏	8. 9. 17
千葉城郭研究第2号	同 上	"



書名	寄贈者	受入日
千葉城郭研究第3号	近藤 敏	8.9.17
中世城郭研究創刊号	同 上	〃
中世城郭研究第2号	同 上	〃
中世城郭研究第3号	同 上	〃
中世城郭研究第4号	同 上	〃
東北の中世陶器	同 上	〃
四日市市文化財保護年報6 平成6年度	四日市市教育委員会	8.9.18
西ヶ谷遺跡	四日市市遺跡調査会	〃
茶臼山古墳群	同 上	〃
長野県埋蔵文化財センター紀要4 1995	(財)長野県埋蔵文化財センター	〃
長野県埋蔵文化財センター年報12 1995	同 上	〃
柿谷遺跡・菖蒲谷西山B遺跡・山田古墳群A	(財)徳島県埋蔵文化財センター	8.9.19
上喜来蛭子～中佐古遺跡(本文・付図)	同 上	〃
岳美遺跡Ⅱ(遺物編)	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	8.9.24
縄文の扉	「縄文まほろば博」実行委員会	〃
井手東Ⅰ遺跡(本文編・自然科学分析・考察編・観察表・写真図版編・付図)	高松市教育委員会	〃
井手東Ⅱ遺跡(本文・付図)	同 上	〃
志木市遺跡群Ⅶ	志木市教育委員会	〃
朝日遺跡Ⅲ	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館	8.9.30
下上戸遺跡	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	8.10.9
研究輯録Ⅵ	同 上	〃
城山	同 上	〃
神峠遺跡発掘調査報告書	同 上	〃
年報11 平成6年度	同 上	〃
本地丸山遺跡発掘調査報告書	同 上	〃
薬師城跡	同 上	〃
水無瀬荘跡遺跡	名神高速道路内遺跡調査会	〃
東京都埋蔵文化財センター年報16	(財)東京都教育文化研究財団東京都埋蔵文化財センター	8.10.11
伊勢原上粕屋団地内遺跡	伊勢原上粕屋団地内遺跡調査団	〃
君津市立久留里城址資料館年報17(平成7年度)	君津市立久留里城址資料館	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第68集	国立歴史民俗博物館	〃
西毛の古代	山武考古学研究所	〃
木戸前Ⅱ遺跡	松戸市遺跡調査会	〃
平成7年度沼南町内遺跡発掘調査報告書	沼南町教育委員会	〃
特別展示図録房総芸芸帖	千葉県立総南博物館	〃
大田区の船大工 海苔の船を造る	大田区立郷土博物館	〃
美濃市の文化財	美濃市教育委員会	〃
小山市立博物館報第13号 平成7年度	小山市立博物館	8.10.14
～晴れの日～夜の嫁入り	大宮市立博物館	〃
第20回特別展「～晴れの日～夜の嫁入り」調査報告	同 上	〃
大宮市立博物館研究紀要第7号	同 上	〃
大宮市立博物館要覧第4号	同 上	〃
弥生人のくらし 卑弥呼の時代の北関東	栃木県立なす風土記の丘資料館	〃
斉明紀	奈良国立文化財研究所飛鳥資料館	〃
烏帽子遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター	8.10.16
儀長正楽寺遺跡	同 上	〃
広坪遺跡	同 上	〃

書名	寄贈者	受入日
清洲城下町遺跡VI	(財)愛知県埋蔵文化財センター	8.10.16
大毛沖遺跡	同上	"
鳥羽城跡(本文・付図)	同上	"
北道手遺跡	同上	"
宮内第1遺跡・宮内第4遺跡・宮内第5遺跡・宮内2、63、64、65号墳(本文・付図)	(財)鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター	"
鶴田荒神ノ峯遺跡 鶴田堤ヶ谷遺跡 宇代横平遺跡 宇代寺中遺跡	同上	"
枚方市の社寺建築(本文・付図)	(財)枚方市文化財調査研究会	"
千葉県袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書	袖ヶ浦市教育委員会	"
袖ヶ浦市史研究第4号	同上	"
がんだの流れ	島根県古代文化センター	8.10.17
しまねの古代文化第三号	同上	"
安来道路(西地区)発掘調査概報	同上	"
塩津山1号墳が語る古代の出雲	同上	"
古代文化研究第4号	同上	"
出雲国風土記論究下巻	同上	"
門遺跡	同上	"
のじぎく文化財だより第51号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	8.10.18
のじぎく文化財だより第52号	同上	"
事業報告V 平成6年度	(財)香取郡市文化財センター	"
園田遺跡・八反田遺跡	(財)北九州市教育文化事業団	"
貫川遺跡11	同上	"
祇園町遺跡3 第3地点	同上	"
金山遺跡VI区	同上	"
研究紀要第10号	同上	"
上曽根遺跡	同上	"
中縄手遺跡(1区~3区)	同上	"
長ムタ遺跡	同上	"
長野・早田遺跡(第2地点)	同上	"
徳力土地区画整理事業関係調査報告8	同上	"
縄手遺跡4区	同上	"
片伊田遺跡II区	同上	"
埋蔵文化財調査室年報12 平成6年度	同上	"
脇田・丸山遺跡1	同上	"
講演資料「災害考古学」 山形県の発掘例から	忍澤成視	"
武蔵大学人文学会雑誌第28巻第1号	武蔵大学人文学会	"
キウス5遺跡(2)B地区	(財)北海道埋蔵文化財センター	8.10.22
フレペツ遺跡群III美沢16遺跡	同上	"
芦別市滝里遺跡群VI 滝里4遺跡(2)	同上	"
千歳市オサツ2遺跡	同上	"
千歳市キウス7遺跡(3)	同上	"
千歳市ユカンボシC9遺跡	同上	"
中野B遺跡(第1分冊・第2分冊・第3分冊・第4分冊・第5分冊)	同上	"
調査年報8 平成7年度	同上	"
函館市西桔梗1遺跡	同上	"
美沢川流域の遺跡群XVIII	同上	"
豊浦町高岡1遺跡(3)・高岡2遺跡	同上	"
豊浦町東雲遺跡	同上	"

書名	寄贈者	受入日
戸室茅林遺跡第1地点・2地点発掘調査報告書	玉川文化財研究所	8.10.29
中村遺跡発掘調査報告書	同上	〃
大唐王朝の華 都・長安の女性たち	群馬県立歴史博物館	〃
新地唐人荷蔵跡	長崎市教育委員会	〃
浜松市博物館第15回特別展 庶民の旅	浜松市博物館	〃
民具からみた台所の歴史	同上	〃
楠・荒田町遺跡	妙見山麓遺跡調査会	〃
京都府埋蔵文化財情報第61号	㈱京都府埋蔵文化財調査研究センター	8.11.5
古代桜井の木製品	㈱桜井市文化財協会	〃
古曾部・芝谷遺跡(本文編・図版編・付図)	高槻市立埋蔵文化財調査センター	〃
研究紀要第18号	埼玉県立歴史資料館	〃
印旛沼の自然とくらし 縄文・江戸・現代の姿から探る	八千代市歴史民俗資料館	〃
曲金北遺跡(遺構編)	㈱静岡県埋蔵文化財調査研究所	8.11.6
小鹿杉本堀合坪遺跡	同上	〃
水井遺跡・清水遺跡	同上	〃
石成遺跡	同上	〃
川合遺跡八反田地区Ⅱ(図版編)	同上	〃
川合遺跡八反田地区Ⅱ(本文編・別冊図版編)	同上	〃
保録ヶ谷遺跡	同上	〃
下上津遺跡	妙見山麓遺跡調査会	〃
㈱のじぎく文化財保護研究財団紀要創刊号	㈱のじぎく文化財保護研究財団	8.11.7
のじぎく文化財だより第53号	同上	〃
倭国乱る	国立歴史民俗博物館	〃
下戸塚遺跡の調査 第1部旧石器時代から縄文時代	早稲田大学文化財整理室	〃
淡河中村遺跡発掘調査報告書(本文編・図版編)	淡神文化財協会	〃
千葉県やぐら分布調査報告書	㈱千葉県史料研究財団	8.11.11
大久保領家遺跡発掘調査報告書(第4次)	浦和市遺跡調査会	〃
大久保領家片町遺跡発掘調査報告書	同上	〃
大久保領家片町遺跡発掘調査報告書(第9地点)	同上	〃
白鷺遺跡発掘調査報告書	同上	〃
三島市文化財年報 第7号	三島市教育委員会	〃
三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅴ(本文・付図)	同上	〃
山中城跡三ノ丸第1地点	同上	〃
西大久保・奈良橋向遺跡	同上	〃
接待茶屋遺跡	同上	〃
遺跡探査No.19 1996.9.30	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	〃
古瀬戸をめぐる中世陶器の世界	㈱瀬戸市埋蔵文化財センター	8.11.13
三河臺町遺跡発掘調査報告書	港区教育委員会	〃
芝田町屋跡遺跡発掘調査報告書	同上	〃
麻布竜土坂口町屋跡発掘調査報告書	同上	〃
東京都新宿区 市谷本村町遺跡(第Ⅰ分冊・第Ⅱ分冊)	近藤 敏	8.12.4
東京都新宿区高田馬場三丁目遺跡	同上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第67集	国立歴史民俗博物館	〃
姉崎ゆかりの人物(複写)	市原市地方史研究連絡協議会	〃
図録「成田の近代文学」	成田山霊光館	〃
貝塚は縄文時代のタイムカプセル	流山市立博物館	〃
京都府埋蔵文化財論集第3集	㈱京都府埋蔵文化財調査研究センター	8.12.5

書名	寄贈者	受入日
財団法人船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター年報1 平成7年度	船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター	8.12.5
中ノ島遺跡第1次・2次発掘調査報告書	同上	"
中野木台遺跡群(4)	同上	"
森の宮遺跡Ⅱ	財大阪市文化財協会	"
九州歴史資料館研究論集21	九州歴史資料館	"
九州歴史資料館年報(平成7年度)	同上	"
昭和60年度千葉県遺跡調査研究発表会要旨	高浦貞子	"
平成5年度千葉県遺跡調査会発表会要旨	同上	"
平成5年度千葉市遺跡発表会要旨	同上	"
江戸の博物館図譜 世田谷の本草画家斎田雲岱の世界	世田谷区立郷土資料館	"
湖西風土記文庫 語り継ぐ	田所 真	"
日野市落川遺跡調査概報Ⅵ(本文・付図)	日野市落川遺跡調査会	"
日野市落川遺跡調査概報Ⅶ(本文・付図)	同上	"
日野市落川遺跡調査概報Ⅷ(本文・付図)	同上	"
日野市落川遺跡調査概報Ⅸ(本文・付図)	同上	"
日野市落川遺跡調査概報Ⅹ(本文・付図)	同上	"
平成7年度 年報	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所	"
山田・宝馬古墳群(宝馬93-42地点)	財山武郡市文化財センター	8.12.6
小泉遺跡(御用地3257地点)	同上	"
浅間台遺跡	同上	"
大網山田台遺跡群Ⅱ(第1分冊・第2分冊)	同上	"
滝木浦遺跡	同上	"
年報No.11	同上	"
相馬開発関連遺跡調査報告Ⅲ(本文・写真・付図)	財福島県文化センター	8.12.7
北方遺跡第5、6次調査	財北九州市教育文化事業団	"
上小島遺跡	財新潟県埋蔵文化財調査事業団	8.12.9
郡家遺跡	高山歴史学研究所	"
おかあさんの考古学	三田市教育委員会	"
門出下古墓	庄原市教育委員会	"
雪野山古墳の研究(報告篇・考察篇)	雪野山古墳発掘調査団	"
袖ヶ浦市史研究創刊号	袖ヶ浦市郷土博物館	"
袖ヶ浦市史研究第2号	同上	"
袖ヶ浦市史研究第3号	同上	"
鎌田遺跡・西新屋遺跡・西新屋古墳群	豊橋市教育委員会	"
大西貝塚(Ⅱ)	同上	"
南田遺跡・瓜郷遺跡(Ⅲ)	同上	"
百々池B古窯・東田遺跡(Ⅱ)	同上	"
のじぎく文化財だより第54号	財のじぎく文化財保護研究財団	8.12.10
つちの中の京都	財京都市埋蔵文化財研究所	"
帝京大学山梨文化財研究所研究報告第7集	財山梨文化財研究所	"
岡遺跡発掘調査報告書 推定古代栗本郡銜跡の調査	財滋賀県文化財保護協会	"
尼子南遺跡2 尼子西遺跡1	同上	"
江内遺跡	財新潟県埋蔵文化財調査事業団	"
水久保遺跡・宮平遺跡Ⅱ	同上	"
堂付遺跡・百塚東E遺跡・百塚西C遺跡・割目B遺跡	同上	"
(仮称)犬上養護学校建設に伴う 金屋古墳群発掘調査報告書	財滋賀県文化財保護協会	"
在土北遺跡2 尼子遺跡 小川原遺跡2(本文・付図)	同上	"

書名	寄贈者	受入日
長束三坊・中堂遺跡発掘調査報告書	(財)滋賀県文化財保護協会	8.12.10
北落古墳群Ⅲ・金屋南古墳群	同上	〃
霊仙寺遺跡発掘調査報告書Ⅱ	同上	〃
網取貝塚(本文・付図)	いわき市教育委員会	〃
大平B遺跡・大平C遺跡 古代集落・近代屋敷跡の調査	同上	〃
木簡が語る古代のいわき	同上	〃
古代第102号	早稲田大学	〃
遺跡保存方法の検討 試掘・確認調査方法	文化庁記念物課	〃
南橋遺跡Ⅱ	北区教育委員会	〃
市内遺跡群調査報告書2	所沢市立埋蔵文化財調査センター	8.12.12
所沢市立埋蔵文化財調査センター年報No1	同上	〃
膳棚遺跡第9次調査	同上	〃
東の上遺跡第12次調査	同上	〃
東の上遺跡第61次調査	同上	〃
ちば3万年の遺産 房総の人と用具	千葉県立房総風土記の丘	〃
文化財学報第14集	奈良大学文学部考古学研究室	〃
八千代市の歴史資料編 近代・現代Ⅱ	八千代市歴史民俗資料館	〃
神戸市中央区熊内遺跡第2次調査	六甲山麓遺跡調査会	〃
神戸市北区古寺山遺跡と多聞廃寺址概要	同上	〃
宮ヶ瀬遺跡群Ⅶ	(財)かながわ考古学財団	8.12.13
青野原バイパス関連遺跡(第一分冊・第二分冊・付図)	同上	〃
年報3 平成7年度	同上	〃
一般県道横芝山武線道路改良事業埋蔵文化財調査報告書	(財)千葉県文化財センター	〃
一般国道296号国道道路改良事業埋蔵文化財調査報告書1	同上	〃
一般国道296号国道道路改良事業埋蔵文化財調査報告書2	同上	〃
一般国道464号県単道路改良事業埋蔵文化財調査報告書	同上	〃
研究連絡誌第45号	同上	〃
研究連絡誌第46号	同上	〃
研究連絡誌第47号	同上	〃
佐原市鴉崎貝塚発掘調査報告書	同上	〃
市原市釈迦山古墳発掘調査報告書	同上	〃
市原市西野遺跡第1次発掘調査報告書	同上	〃
市原市武士遺跡1(第1分冊・第2分冊)	同上	〃
主要地方道松戸野田線埋蔵文化財調査報告書(本文・指図篇・写真図版篇)	同上	〃
主要地方道多古笹本線埋蔵文化財調査報告書2	同上	〃
成田市松崎遠原遺跡	同上	〃
千葉県重要古墳群測量調査報告書 市原市安須・武士古墳群ほか	同上	〃
千葉県所在中近世城跡詳細分布調査報告書Ⅱ 旧上総・安房国地域	同上	〃
千葉県中近世城跡研究調査報告書第16集(本文・付図)	同上	〃
千葉県文化財センター年報No.21 平成7年度	同上	〃
千葉市西唐沢遺跡	同上	〃
袖ヶ浦市堂庭山B遺跡	同上	〃
多古町千田台遺跡	同上	〃
大多喜町市場台遺跡	同上	〃
大多喜町女ヶ谷遺跡	同上	〃
八日市場市大塚・塔ノ前遺跡	同上	〃
稲荷台遺跡	(財)千葉市文化財調査協会	〃

書名	寄贈者	受入日
狐塚西遺跡	(財)千葉市文化財調査協会	8.12.13
砂子遺跡(D区)発掘調査報告書	同上	〃
財団法人千葉市文化財調査協会年報4 平成2年度	同上	〃
財団法人千葉市文化財調査協会年報5 平成3年度	同上	〃
財団法人千葉市文化財調査協会年報6 平成4年度	同上	〃
財団法人千葉市文化財調査協会年報7 平成5年度	同上	〃
上深見沢遺跡発掘調査報告書	同上	〃
千葉市永作北遺跡	同上	〃
千葉市熊ノ台西遺跡	同上	〃
千葉市枯木台遺跡	同上	〃
千葉市根崎遺跡(I地区)	同上	〃
千葉市砂子遺跡	同上	〃
千葉市山王遺跡	同上	〃
千葉市若郷遺跡 平成3年度発掘調査報告書	同上	〃
千葉市小中台遺跡 平成2年度発掘調査報告書	同上	〃
千葉市松ヶ丘遺跡	同上	〃
千葉市上鶴牧遺跡	同上	〃
千葉市神門遺跡(本文・付図)	同上	〃
千葉市長堀遺跡	同上	〃
千葉市蛤谷津上遺跡	同上	〃
千葉市芳賀輪遺跡 平成2年度調査報告書	同上	〃
千葉市芳賀輪遺跡 平成3年度調査報告書	同上	〃
千葉市芳賀輪遺跡 平成4年度調査報告書	同上	〃
千葉市立山城跡	同上	〃
千葉中央ゴルフ場遺跡群発掘調査報告書(第1分冊・第2分冊・写真図版編・付図)	同上	〃
谷津遺跡図版編	同上	〃
土気南遺跡群I	同上	〃
土気南遺跡群II 弥三郎第2遺跡	同上	〃
土気南遺跡群III(本文・付図)	同上	〃
土気南遺跡群IV(本文・付図)	同上	〃
福寿院遺跡	同上	〃
平川町向エ遺跡第二次調査報告書	同上	〃
日置荘遺跡(本文編・分析・考察編・付図・付表・図版編)	(財)大阪府文化財調査研究センター	〃
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
埋蔵文化財年報(7) 平成7年度	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	〃
梅原加賀坊遺跡・久戸遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡発掘調査報告(第一分冊・第二分冊・付図)	同上	〃
梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)(第一分冊・第二分冊・第三分冊)	同上	〃
埋蔵文化財調査概要 平成7年度	同上	〃
秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第11号	秋田県埋蔵文化財センター	〃
秋田県埋蔵文化財センター年報14(平成7年度)	同上	〃
大平遺跡	同上	〃
東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書XX 蟹子沢遺跡	同上	〃
東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書XXII 岩瀬遺跡(本文・付図)	同上	〃
払田柵跡 第103~106次調査概要	同上	〃
片野I遺跡	同上	〃
漢とローマ 倭の時代の世界	大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館	〃
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター年報10 平成6年度	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	〃

書名	寄贈者	受入日
神明遺跡	豊田市教育委員会	8.12.13
梅坪遺跡Ⅲ	同上	〃
多摩ニュータウン遺跡	㈱東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	8.12.18
文字の世界	富山県埋蔵文化財センター	〃
㈱京都市埋蔵文化財研究所研究紀要第3号	㈱京都市埋蔵文化財研究所	8.12.20
平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要	同上	〃
財団法人栃木県文化振興事業団年報 平成7年度版	㈱栃木県文化振興事業団	〃
栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター年報第6号(平成8年度)	㈱栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	〃
いしのきおく	向日市文化資料館	〃
いにしへの島根ガイドブック全8巻	島根県教育委員会	〃
のじぎく文化財だより第55号	㈱のじぎく文化財保護研究財団	8.12.24
立木南遺跡	㈱同仁会	〃
文化財学報第12集	奈良大学文学部考古学研究室	〃
文化財学報第13集	同上	〃
横須賀市博物館館報第43号	横須賀市自然博物館・横須賀市人文博物館	9.1.7
横須賀市博物館研究報告(人文学科)第40号	同上	〃
横須賀市博物館資料集第21号	同上	〃
考古資料図録X I	同上	〃
下小鳥町頭Ⅱ遺跡 発掘調査報告書	山武考古学研究所	〃
観音寺原Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書	同上	〃
吉田遺跡	同上	〃
興津地区遺跡群	同上	〃
清水Ⅰ遺跡	同上	〃
石関西築瀬遺跡 西片貝源田島遺跡	同上	〃
前橋城三ノ丸遺跡発掘調査報告書	同上	〃
双葉町Ⅰ遺跡	同上	〃
倉賀野中里前遺跡	同上	〃
中尾村前Ⅴ遺跡	同上	〃
布施大塩遺跡	同上	〃
今泉遺跡発掘調査報告書	仙台市教育委員会	〃
南小泉遺跡 第21次発掘調査報告書	同上	〃
津南町遺跡発掘調査概要報告書	津南町教育委員会	〃
横手遺跡群発掘調査報告書	大分県教育委員会	9.1.8
岩崎横穴墓	同上	〃
机張原遺跡・女狐近世墓地・庄ノ原遺跡群	同上	〃
大分県内遺跡発掘調査概報4	同上	〃
大分県埋蔵文化財年報4 平成6(1994)年度版	同上	〃
徳瀬遺跡	同上	〃
府内城三ノ丸北口跡(本文・付図)	同上	〃
群馬県立歴史博物館紀要第17号	群馬県立歴史博物館	9.1.9
群馬県立歴史博物館調査報告書第7号	同上	〃
小野	松本市教育委員会	〃
シンポジウム古代寺院の移建と再建を考える	堅田 直	9.1.10
激動の古代東アジア 6・7世紀を中心に	同上	〃
考古学における計量分析 計量考古学への道(V)	同上	〃
考古学における計量分析 計量考古学への道IV	同上	〃
第8回考古学におけるパーソナルコンピューター利用の現状	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
朝鮮の古瓦を考える	堅田 直	9. 1. 10
渡来系氏族と古代寺院	同 上	〃
宮竹野際遺跡4	(財)浜松市文化協会	9. 1. 14
半田山C27号墳	同 上	〃
1996古代の塩作りシンポジウム 蒲刈をめぐる瀬戸内の古代土器製塩を考える	広島大学文学部考古学研究室	〃
辰の口古墳発掘調査概報	同 上	〃
日本古代印集成	国立歴史民俗博物館	〃
千葉城郭研究第4号	千葉城郭研究会	〃
海老名本郷XIV	半田堅三	〃
YALO i VITI SHADES OF VITI: A FIJI MUSEUM CATALOGUE	木口裕史	〃
松山市埋蔵文化財調査年報VIII	(財)松山市生涯学習振興財団	9. 1. 16
松山大学構内遺跡II (本文編・写真図版編・遺構・遺物一覧表編)	同 上	〃
東本遺跡4次調査・枝松遺跡4次調査 (本文編・図版編・付図)	同 上	〃
福音寺地区の遺跡	同 上	〃
来往廃寺第19次調査	同 上	〃
三軒屋遺跡II	(財)大阪府文化財調査研究センター	〃
志紀遺跡発掘調査報告書	同 上	〃
上町遺跡II (本文編・図版編・付図)	同 上	〃
東奈良遺跡	同 上	〃
発掘速報展 大阪 '97	同 上	〃
仏並遺跡III (本文・付図)	同 上	〃
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
千葉県史研究第4号	(財)千葉県史料研究財団	9. 1. 28
多摩ニュータウン遺跡	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	〃
由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書	鎌倉市教育委員会	〃
むじな塚遺跡第4次調査	寄居町遺跡調査会	〃
中小前田1遺跡 (第2次)	同 上	〃
用土北沢遺跡 (1次)	同 上	〃
商人たちの瀬戸内	広島県立歴史博物館	〃
平成8年度千葉県遺跡調査研究発表会 発表要旨	千葉県文化財法人連絡協議会	〃
遺跡探査No.20 1996.12.31	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	〃
史叢第56号	日本大学史学会	〃
奥中谷古墳群発掘調査報告書	(財)君津郡市文化財センター	9. 1. 30
君津郡市文化財センター第3回遺跡発表会資料	同 上	〃
君津郡市文化財センター年報No.13 平成6年度	同 上	〃
君津市 南子安金井崎遺跡	同 上	〃
市宿横穴墓群発掘調査報告書	同 上	〃
上ノ山A・上ノ山B・下根田A・下根田B・御所塚遺跡	同 上	〃
清水沢遺跡発掘調査報告書	同 上	〃
石神横穴墓群・石神古墳群・石神遺跡	同 上	〃
千葉県木更津市 高砂遺跡	同 上	〃
泉遺跡発掘調査報告書 I	同 上	〃
大井戸八木25号墳・大井戸八木遺跡	同 上	〃
大竹遺跡群発掘調査報告書IV 向神納里遺跡・上南原遺跡・狐谷遺跡・大竹古墳群 (本文・付図)	同 上	〃
谷ノ台遺跡 (B地点)	同 上	〃
兎谷・上時田・下時田・向台木・台木B遺跡	同 上	〃
獅子沢遺跡	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	〃



書名	寄贈者	受入日
備後国府と鴻臚館・太宰府・西日本の国府	府中市教育委員会	9. 2. 3
備後国府跡 推定地にかかる1990年度調査	同 上	〃
備後国府跡 推定地にかかる1991年度調査概報	同 上	〃
府中市内遺跡1 1993年度調査に関する報告	同 上	〃
府中市内遺跡2 1994年度調査に関する報告	同 上	〃
京都府埋蔵文化財情報第62号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	9. 2. 5
第14回小さな展覧会	同 上	〃
安倍遺跡 第1次調査報告書	郡山市教育委員会	9. 2. 7
影遺跡 発掘調査報告書	同 上	〃
遠後遺跡	同 上	〃
割田B遺跡	同 上	〃
鴨内A遺跡 第一冊(遺構編)(本文・付図)	同 上	〃
桐ノ木沢遺跡	同 上	〃
郡山市埋蔵文化財分布調査報告1	同 上	〃
郡山市埋蔵文化財分布調査報告2(本文・付図)	同 上	〃
郡山東部15	同 上	〃
郡山東部16(本文・付図)	同 上	〃
郡山東部17	同 上	〃
広畑遺跡	同 上	〃
咲田遺跡赤木地区第1次調査報告	同 上	〃
上之内遺跡	同 上	〃
城山館遺跡	同 上	〃
清水台遺跡 第15次A地点調査報告	同 上	〃
大安場古墳群測量調査報告書(本文・付図)	同 上	〃
大根畑遺跡 第4次調査報告	同 上	〃
東山田遺跡 第1次調査報告	同 上	〃
桃見台遺跡 第2次調査報告書	同 上	〃
南山田遺跡 第一冊(本文・付図)	同 上	〃
二池遺跡(Ⅱ・Ⅲ区) 第2次発掘調査報告	同 上	〃
二池遺跡(V区) 第3次発掘調査報告	同 上	〃
分析・試験結果報告書 郡山市二池遺跡出土耐火物、砂鉄および鉄滓	同 上	〃
木村館跡(Ⅶ・Ⅷ区) 第3次発掘調査報告(本文・付図)	同 上	〃
弓手原A遺跡(第1次調査)(本文・付図)	(財)福島県文化財センター	9. 2. 10
獅子内遺跡(第1次調査)	同 上	〃
勝利ヶ岡遺跡	同 上	〃
常磐自動車道遺跡調査報告6	同 上	〃
相馬開発関連遺跡調査報告Ⅳ(本文1・本文2・写真)	同 上	〃
京都発掘20年	(財)京都市埋蔵文化財研究所	9. 2. 12
油井古塚原遺跡群(本文編・図版編)	(財)山武郡市文化財センター	9. 2. 24
粟生岩阪遺跡	(財)大阪府文化財調査研究センター	〃
河内平野遺跡群の動態Ⅰ(プロローグ編・付図)	同 上	〃
久宝寺遺跡・竜華地区(その1)発掘調査報告書	同 上	〃
久宝寺遺跡・竜華地区試掘調査報告書	同 上	〃
巨摩・若江北遺跡発掘調査報告第4次	同 上	〃
考古学から災害と復興を考える	同 上	〃
新家遺跡第6次発掘調査報告書	同 上	〃
図録大阪城跡の調査4	同 上	〃

書名	寄贈者	受入日
図録大阪城跡の調査5	(財)大阪府文化財調査研究センター	9.2.24
水込遺跡	同上	"
清堂遺跡	同上	"
摂河泉発掘資料精選	同上	"
大阪考古学文献目録	同上	"
大阪城跡の発掘調査4	同上	"
大阪城跡の発掘調査5	同上	"
大阪城跡の発掘調査6	同上	"
大阪府立弥生文化博物館発掘速報展大阪 '96	同上	"
大阪文化財センター研究助成報告書研究紀要Vol. 2	同上	"
大阪文化財研究第7号	同上	"
大阪文化財研究第8号	同上	"
大阪文化財研究第10号	同上	"
大庭寺遺跡Ⅱ・伏尾遺跡Ⅰ	同上	"
棚原遺跡	同上	"
丹上遺跡(その8)発掘調査報告書	同上	"
池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅳ	同上	"
池島・福万寺遺跡発掘調査概要Ⅹ	同上	"
池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅠ	同上	"
池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅡ	同上	"
池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅢ	同上	"
池島・福万寺遺跡発掘調査概要ⅩⅥ	同上	"
中開遺跡Ⅲ・上町東遺跡	同上	"
陶邑・大庭寺遺跡Ⅳ(本文・図版)	同上	"
福田遺跡	同上	"
末廣遺跡・中開遺跡・松原遺跡(本文・図版・付図)	同上	"
醉古雑録	同上	"
多摩ニュータウン遺跡(図版編)	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	"
多摩ニュータウン遺跡(本文編)	同上	"
中国百科	近藤 敏	"
日本タテヨコ	同上	"
武蔵大学人文学会雑誌第28巻第2号	武蔵大学人文学会	"
武蔵大学人文学会雑誌第28巻第3号	同上	"
駒木横穴群	北茨城市教育委員会	"
細原Ⅲ	同上	"
細原Ⅳ	同上	"
神岡上古墳群	同上	"
唐帰山遺跡	同上	"
(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター年報6	(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター	9.2.25
C18横穴・矢崎山古墳	同上	"
老馬遺跡	同上	"
旧岩崎家住宅所在遺跡	湯島貝塚遺跡調査団	"
大綱山田台遺跡群Ⅰ(概要篇・旧石器時代篇・縄文時代篇・付図・FD)	(財)山武郡市文化財センター	9.2.28
史跡池上曾根95	(財)大阪府文化財調査研究センター	"
第35回大阪府下埋蔵文化財研究会資料集	同上	"
古代生産史研究会'97シンポジウム東国の須恵器	田所 真	9.3.3
宮ヶ瀬遺跡群	(財)かながわ考古学財団	9.3.5

書名	寄贈者	受入日
研究紀要1かながわの考古学	(財)かながわ考古学財団	9.3.5
池子遺跡群(1)・(2)・付図)	同上	〃
長津田遺跡群	同上	〃
本入こざっ原遺跡	同上	〃
七飯町大中山13遺跡(3)	(財)北海道埋蔵文化財センター	〃
中野B遺跡(第1・2・3分冊)	同上	〃
函館市石倉貝塚	同上	〃
埋蔵銭の物語	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	〃
宮の内A遺跡・宮の内B遺跡	栃木県教育委員会	〃
西赤堀遺跡	同上	〃
道路改良工事地内所在遺跡発掘調査報告書	同上	〃
八幡根東遺跡	同上	〃
栃木県立なす風土記の丘資料館年報第4号(平成7年度版)	栃木県立なす風土記の丘資料館	〃
企画展いにしへの木の匠	福島県立博物館	〃
企画展会津大塚山古墳の時代	同上	〃
企画展東北からの弥生文化	同上	〃
企画展発掘ふくしま	同上	〃
佐倉城跡	(財)印旛都市文化財センター	9.3.13
上本佐倉上宿遺跡	同上	〃
新橋高松遺跡	同上	〃
千葉県成田市野毛平泉台遺跡発掘調査報告書	同上	〃
千葉県八街市米ヶ峠遺跡	同上	〃
南囲護台遺跡(第一地点)	同上	〃
白池台遺跡・西御門荒生遺跡A地区・西御門荒生遺跡B地区	同上	〃
平賀細町遺跡	同上	〃
油作I-II遺跡発掘調査報告書	同上	〃
京都府遺跡調査概報	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
川前窯跡発掘調査報告書	角田市教育委員会	〃
縄文まほろば博 90日間の記録	忍澤成視	〃
平成7年度市内遺跡発掘調査報告書	柏市教育委員会	〃
畳屋の上遺跡・西谷戸の上遺跡・北川貝塚南遺跡	(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター	9.3.28
六浦大道やぐら群発掘調査報告	同上	〃
縄文カタログ暮らしと道具	(財)滋賀県文化財保護協会	〃
新金岡更池遺跡	(財)大阪府文化財調査研究センター	〃
大阪府文化財調査研究センター年報1	同上	〃
海上町岩井安町遺跡	(財)東総文化財センター	〃
新農遺跡	同上	〃
千葉県旭市坊ノ場遺跡	同上	〃
千葉県海上郡海上町蛇園猪鹿々野遺跡	同上	〃
仲有戸遺跡・佐野原北遺跡・荒野台遺跡・粟島台遺跡	同上	〃
有識故実図典	近藤 敏	〃
金沢大学考古学紀要第23号	金沢大学文学部考古学研究室	〃
深大寺城山遺跡神代植物公園城山地区整備	調布市郷土博物館・調布市遺跡調査会	〃
在自遺跡群Ⅲ	津屋崎町教育委員会	〃
下総国府台I	和洋学園校地埋蔵文化財調査室	〃
埋蔵文化財発掘調査概報集V 八幡神社遺跡Ⅱ	横須賀市教育委員会	9.3.31
問答ヶ原遺跡	同上	〃

## 付編 椎津大ツ作遺跡発掘調査報告

1. はじめに、ここに掲載するのは、市原市椎津字バチ谷2970-9に所在する椎津大ツ作遺跡（調査コード セ230）の埋蔵文化財発掘調査報告である。発掘調査はりんかい建設株式会社TKC作業所の委託を受け、財団法人市原市文化財センターが実施した。発掘調査は調査対象地360㎡のうち36㎡に対する確認調査を平成8年5月20日から23日まで実施し、確認調査の結果を受けて、60㎡について同月24日から28日まで本調査を実施した。発掘調査・整理作業・本編の編集および執筆は田中清美が行った。本編遺構図面の方位は磁北である。
2. 遺跡の位置と周辺の環境 遺跡は椎津川の上流部の小谷を望む右岸洪積台地上で東京湾の旧汀線から約2.5km東側に入った地点である（図1）。標高は約65m、小谷からの比高は約20mを測る。遺跡は北側からは椎津川、南側からは小櫃川の支流である松川の小谷がそれぞれ複雑に入り込み、南北に長い鼓状の平面形態を呈し、全体の面積は約37,000㎡とみられる（図2）。今回の調査地点は遺跡の北西側端部付近である。

周辺の主な遺跡は、西約2.6kmの小櫃川下流域右岸台地上に縄文時代後期から晩期の山野貝塚（註1）、北約2.2kmの主に養老川下流域左岸台地上には後期と考えられる椎津貝塚、下



図1 位置図

中台貝塚、台貝塚が存在する（註2）。当遺跡に関連して縄文時代早期後半の炉穴群等を検出した遺跡は、西側から南側の小櫃川流域に中六遺跡（炉穴14基）（註3）、西萩原遺跡（炉穴11基、陥穴3基）（註4）、打越台遺跡（炉穴42基、陥穴2基）（註5）、小谷遺跡（炉穴9基、陥穴2基）（註6）、美生遺跡（炉穴15基、陥穴31基）、角山遺跡（炉穴5基）（註7）で

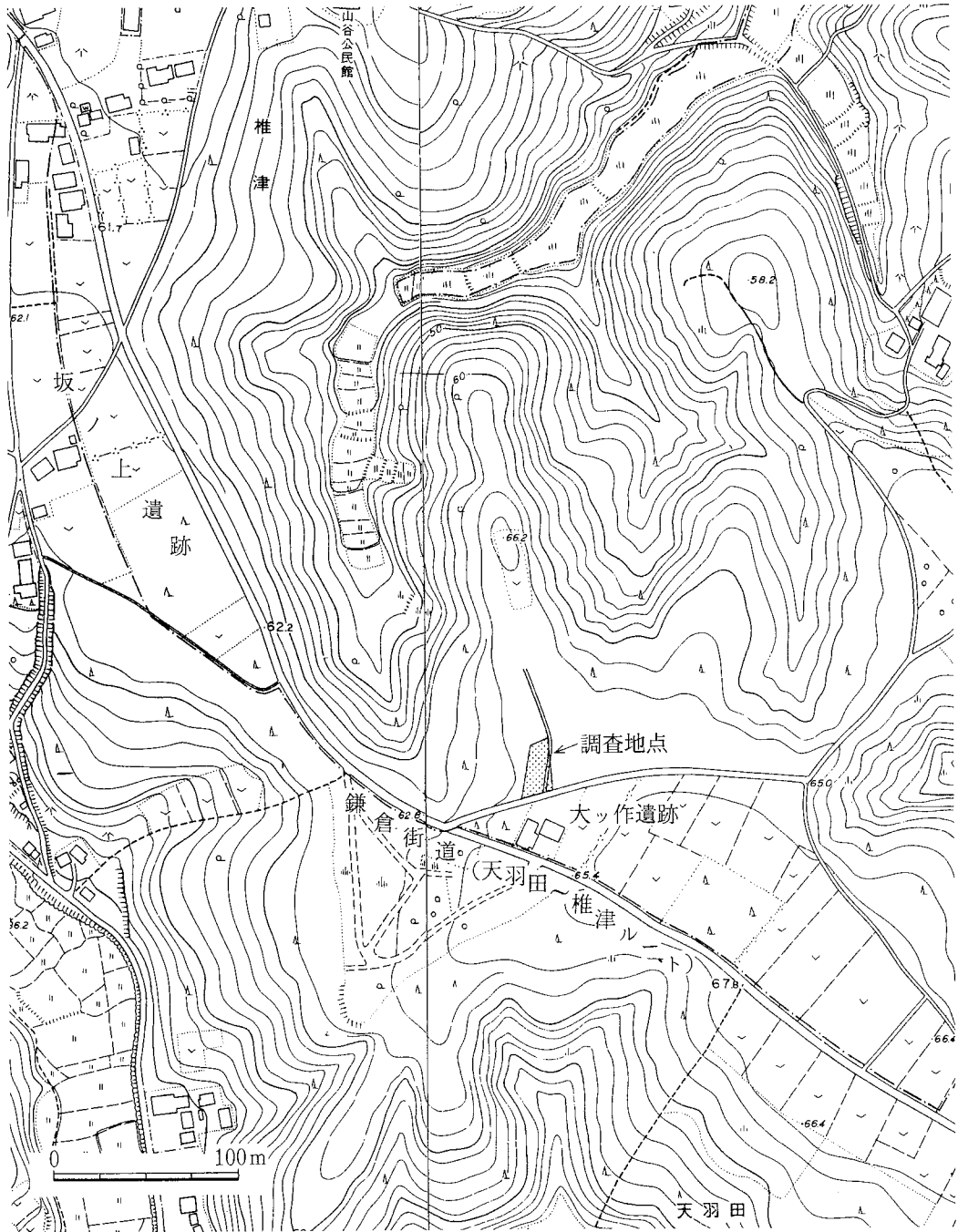


図2 周辺地形図

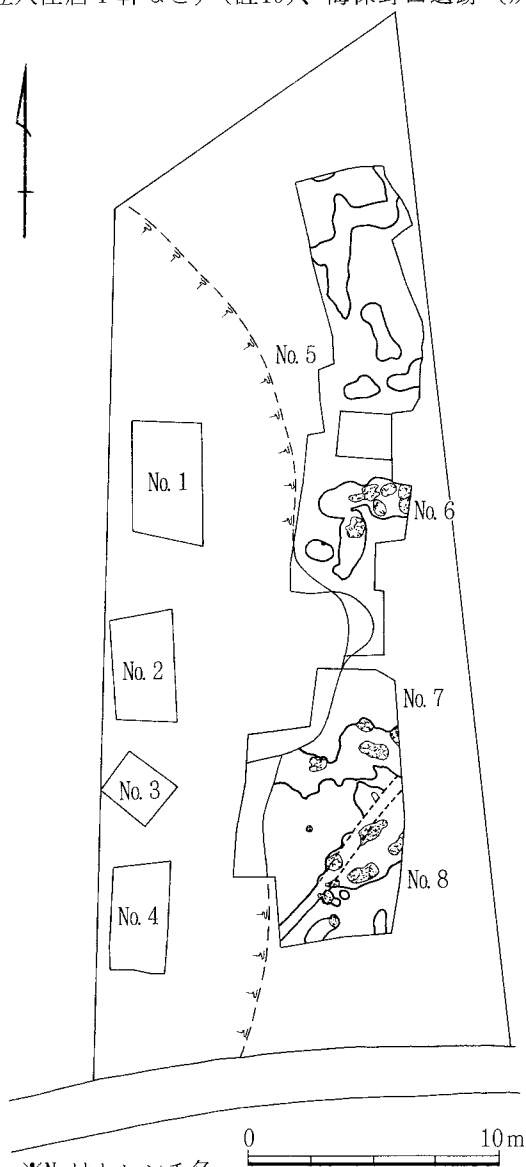
ある。また北側の主に養老川流域に椎津中林遺跡（炉穴85基）（註8）、畑木小谷遺跡（炉穴18群）（註9）、片又木遺跡（炉穴27基、竪穴住居1軒など）（註10）、海保野口遺跡（炉穴166基）（註11）、今富大道遺跡（炉穴46群）（註12）、新生荻原野遺跡（炉穴50群、陥穴33基）（註13）などが調査されている。また、遺跡中央を南東～北西に横断する現道は、中世の「鎌倉街道」の1ルート（天羽田～椎津）に推定されている。さらに、北西側に隣接する椎津坂ノ上遺跡では、炉穴3基、陥穴1基が調査され縄文時代の遺構は希薄である。また、側溝を伴う幅員9m前後の古代道などが検出されている「註14」。

### 3. 調査内容

(1) 調査は360㎡のうち36㎡の確認調査を行い、その結果60㎡の本調査を実施した。確認調査は任意にトレンチを約10%設定し（図3）、さらに遺構の検出されたトレンチの周辺を20㎡程拡張し遺構の広がりなどを把握した。調査対象区域の内、西側では（1～4号トレンチ）傾斜面でもあり遺構は認められなかった。東側の平坦面（台地縁辺部）に遺構が存在し、工事により掘削される60㎡の範囲について本調査を行った。確認調査のみで本調査に移行しなかった北側調査地区では単独か数基の重複の炉穴が5群認められている。

(2) 本調査で検出した遺構は、縄文時代早期後半の炉穴4群（焼土が15ヶ所）、陥穴1基、時期不明の溝1条である。炉穴は重複する例がほとんどであるが、最も南側の例は全掘していないが単独の可能性ある。炉穴の掘り込み面はⅡc層からで深さは、6cm～24cm前後で比較的浅い検出状況である。1号陥穴は一部の調査であるが深さは49cmを測る。

出土遺物は縄文時代早期後半の条痕文系土器群と凹石などである。遺構伴出遺物は、3号炉穴群（図6-1～4、図10-9）、6号炉穴群（図6-5、6）、13号炉穴群（図6-7～23）、15号炉穴群（図6-24、25、図9-1～11）、17号炉穴群（図9-12～17）、18A号炉穴

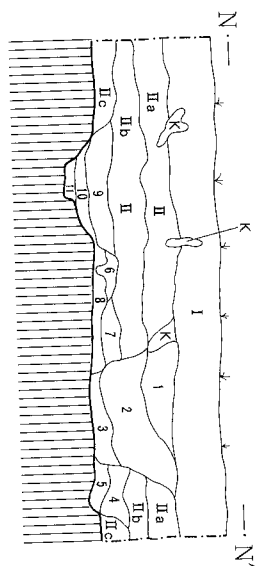


※No.はトレンチ名

図3 調査全体図

土層説明 (N-N')

1. 黒褐色
2. 黒褐色。ローム粒と焼土粒を含む。
3. 褐色 (ロームブロック)。焼土粒を少量含む。
4. 黒褐色。ローム粒を含む。
5. 暗褐色。ローム土塊を少量含む。
6. 黒褐色。ローム粒と焼土粒を含む。
7. 暗褐色。ローム粒を含む。焼土粒を少し含む。
8. 褐色。ローム土塊を少し含む。
9. 黒褐色。ローム粒と焼土粒を多く含む。
10. 焼土
11. 焼土化したローム



土層説明 (L-L')

1. II a, II b, II c. 標準土層
1. 黒褐色。ローム粒を少量含む。
  2. 暗褐色 (少し硬質)。ローム粒を含む。
  3. 褐色 (少し軟質)。ローム粒を多く含む。
  4. 黒褐色 (軟質)。ローム粒を少量含む。

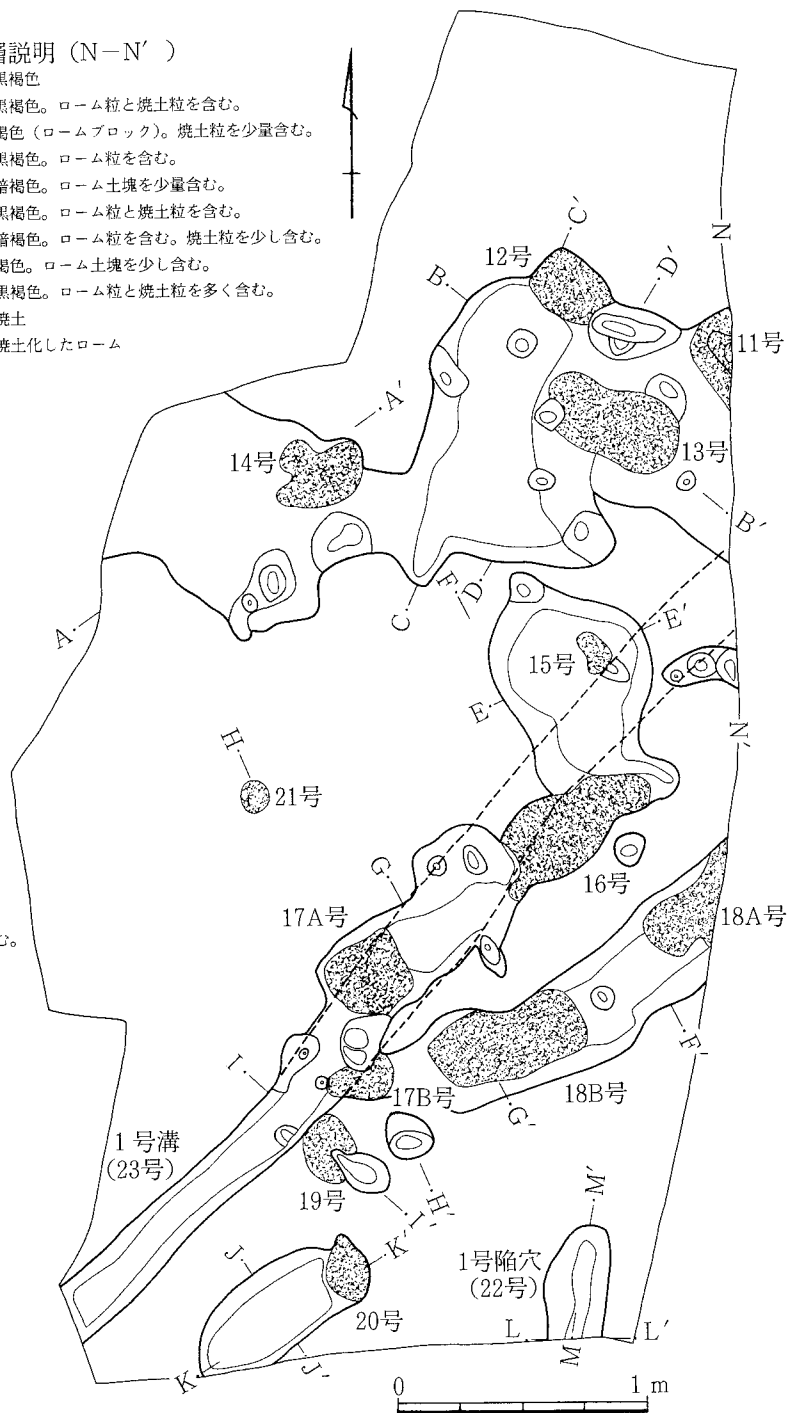
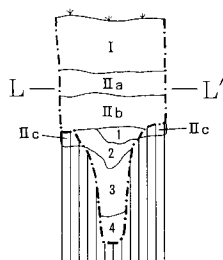


図4 南側本調査地区検出遺構実測図 (1)

図7の土層説明 (A-A', F-F', G-G')

1. 黒褐色。褐色土塊と焼土粒を含む。
2. 焼土。軟質の褐色土塊を含む。
3. 褐色。ロームを含む。
4. ロームブロック。
5. 黒褐色。焼土粒を含む。
6. 焼土。
7. 黒褐色。ローム粒を含む。
8. 黒褐色。焼土粒を少量含む。
9. 黒褐色。軟質のローム土塊を含む。
10. 黒褐色。焼土粒とローム粒を含む。
11. ロームブロック。焼土粒を極少量含む。
12. 褐色。焼土塊を含む。
13. 褐色土と黒色土の混合土

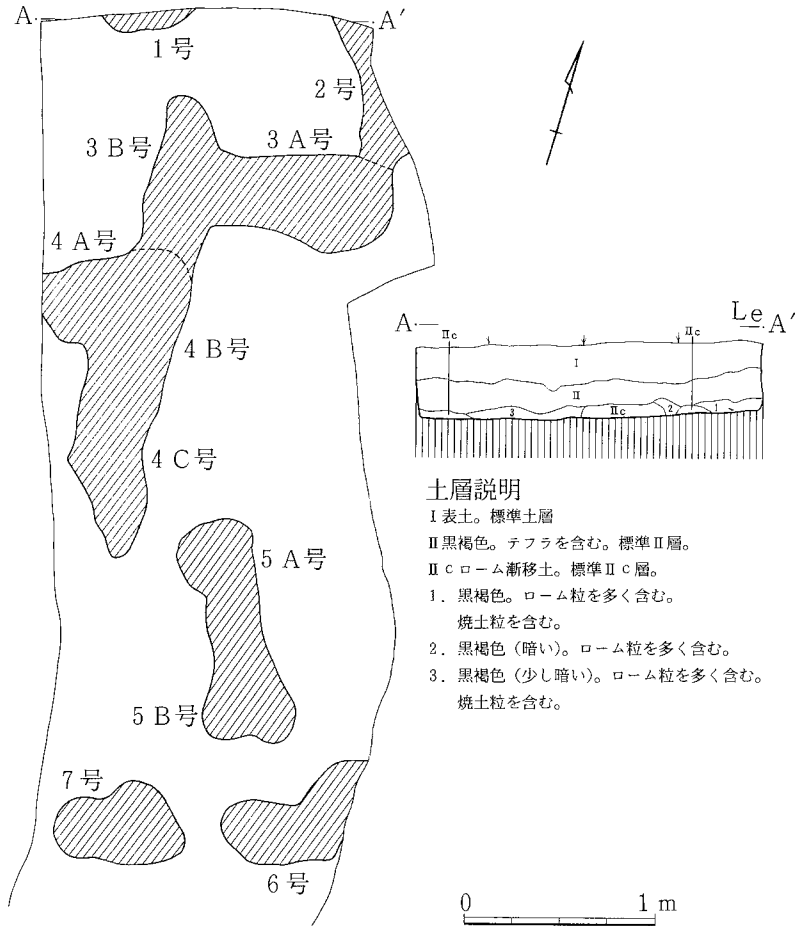


図5 北側調査地区トレンチ内遺構プラン検出状況図

群(図9-18~22)、18B号炉穴群(図9-23)、1号陥穴(図9-24)である。条痕文系土器群は繊維を含むが無文にちかく、擦痕をもつ例が多いため、田戸上層式後葉の土器群と考えられる(註15)。また、図10-8は、1号溝から出土しており、鉢の口縁部片と考えられ近代以降の所産である(註16)。石器類(図10-9~13)は、9が砂岩製の敲石で1/3を欠損し、重量は159.8g、片縁部は使用によって打ち欠かれており、平坦面中心部には凹み



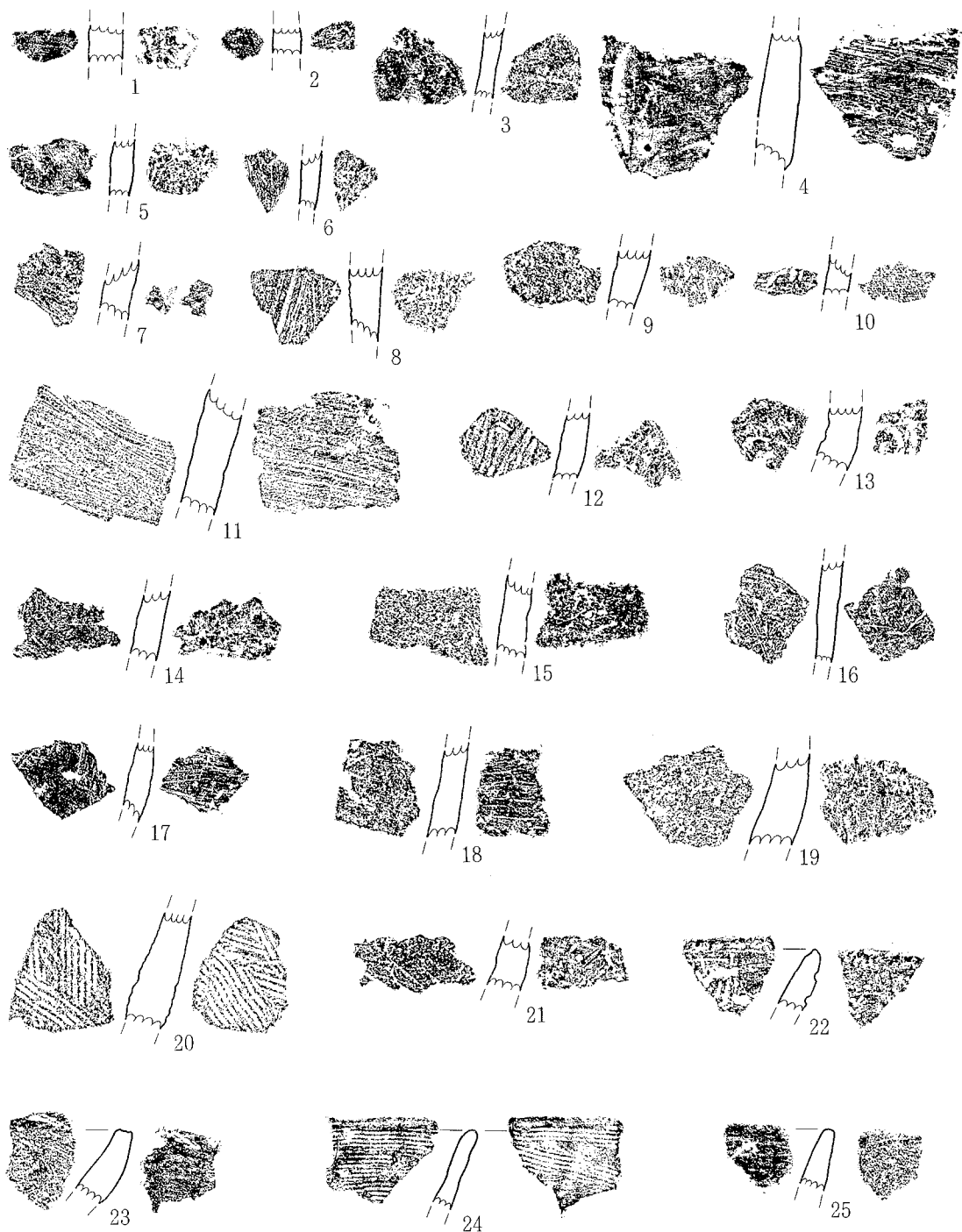


图6 3, 6, 13, 15号炉穴群出土遗物实测图

(1~4 (3号炉穴群)、5, 6 (6号炉穴群)、  
7~23 (13号炉穴群)、24, 25 (15号炉穴群))

0 10cm

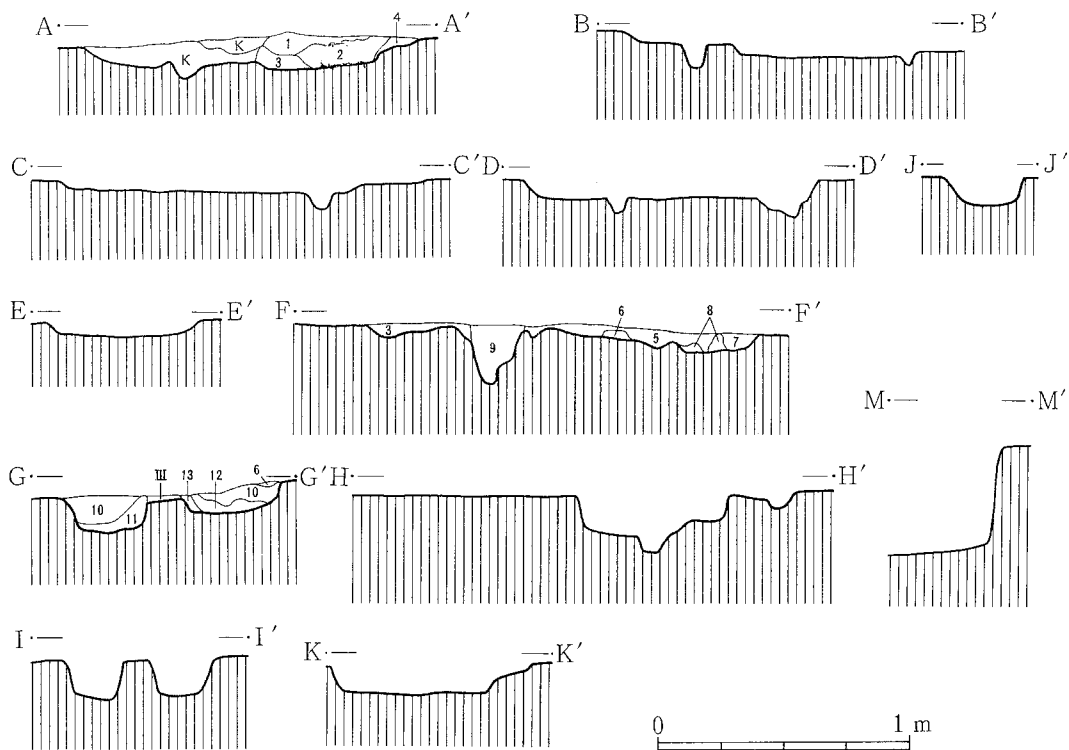


図7 南側本調査地区検出遺構実測図(2)

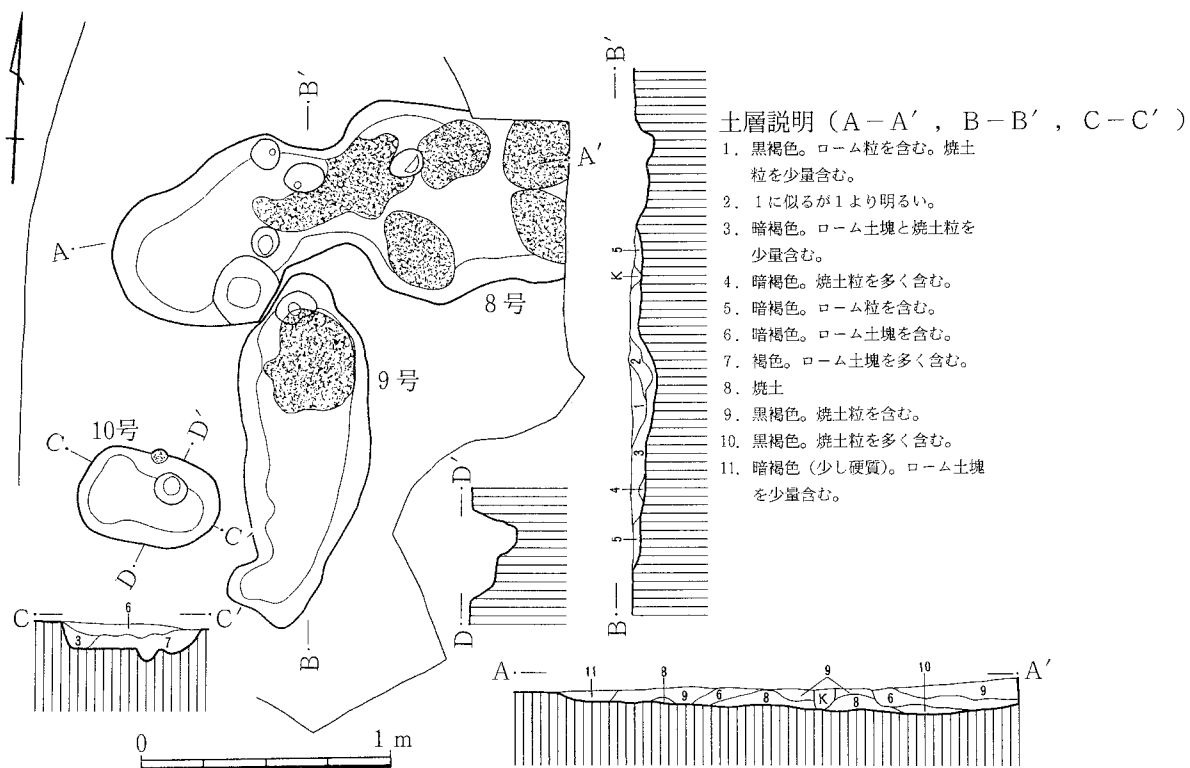


図8 中央部本調査地区検出遺構実測図

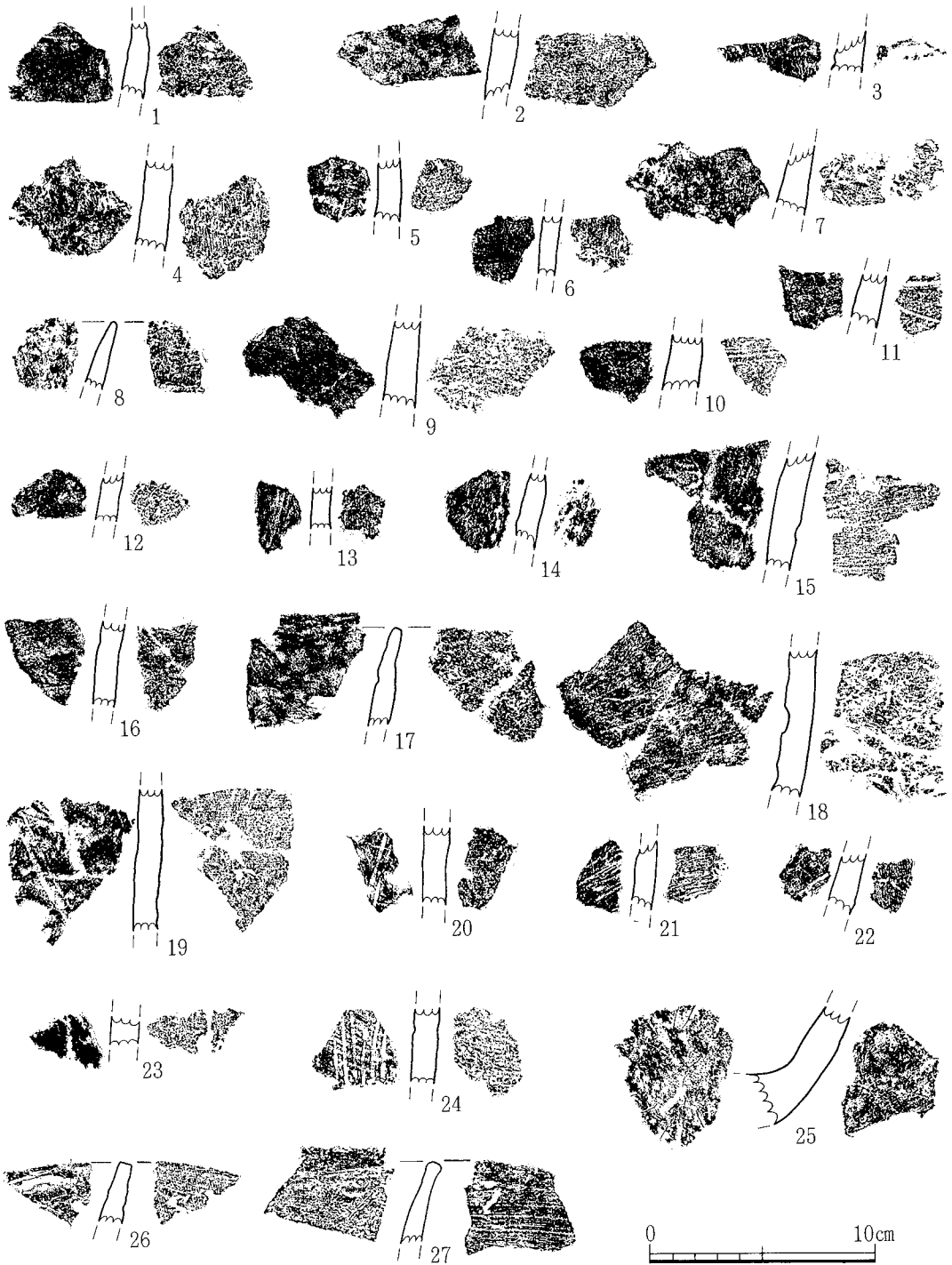
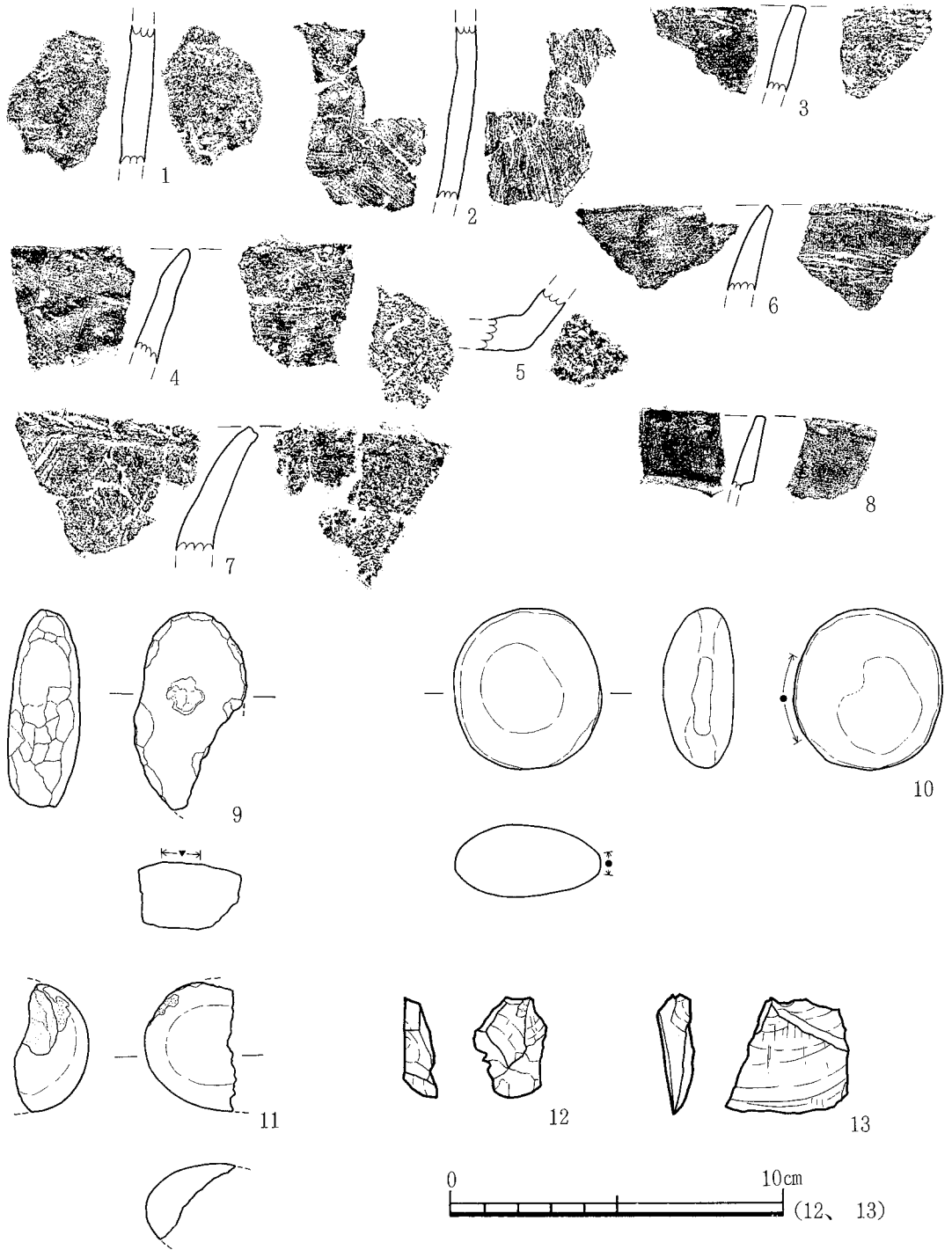


図9 15、17A、18A、18B、22号炉穴群及びトレンチ出土遺物実測図  
 (1~11 (15号炉穴群)、12~17 (17A号炉穴群)、18~22 (18A号炉穴群)、23 (18B号炉穴群)、  
 24 (1号陥穴)、25 (1号トレンチ)、26 (2号トレンチ) 27 (6号トレンチ)



0 10cm

0 10cm (12、13)

図10 第3号炉穴群、第2、3、6、7号トレンチ出土遺物実測図  
 (1、2、13 (2号トレンチ)、3~5、10、12 (3号トレンチ)、6、11 (6号トレンチ)、  
 7、8 (7号トレンチ)、9 (3号炉穴群))

状の敲打痕が見られる。10は石英斑岩製の磨石で重量は223.3gを測り、片縁部1ヶ所を使用した痕跡があり、全体的に被熱している。11は、砂岩製の敲石とみられ、2/3を欠損し被熱している。重量は67.0gである。12と13は黒曜石の剥片であり、12は搔器として使用できる形態ではあるが、刃部に明瞭な加工は見られない。重量は12が1.5g、13が0.7gを測る(註17)

#### 4. まとめ

今回の調査は小範囲ではあったが、縄文時代早期後半の炉穴群(9群)などを検出し、一部は現状保存で埋めもどした。当遺跡では北西側から北側にかけての小谷縁辺部に炉穴群が集中することが想定出来、周辺の中林、野口、西萩原、打越台、中六などの遺跡との様々な関連性が注目される。炉穴群は調査例が増大し、単に「早期後半の遺構」から土器型式を含めた詳細で地域的な分析が必要となってきた事を痛感している。

- (註1) 野村幸希他「袖ヶ浦町山野貝塚」1973 (財)千葉県都市公社  
 (註2) 小出紳夫他「千葉県市原市埋蔵文化財分布図―北部編―」1988 市原市教育委員会  
 (註3) 桐村修司「千葉県袖ヶ浦市―中六遺跡Ⅱ」1993 (財)君津郡市文化財センター  
 (註4) 山本哲也「西萩原遺跡」1987 (財)君津郡市文化財センター  
 (註5) 野口行雄他「打越台遺跡」1989 “ ”  
 (註6) 大崎紀子「千葉県袖ヶ浦市小谷遺跡発掘調査報告書」1992 (財)君津郡市文化財センター  
 (註7) 石田広美「角山遺跡」『君津広域水道用供給事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1980 君津広域水道企業団  
 (註8) 宮本敬一「5. 椎津中林遺跡」『市原市文化財センター年報昭和60年度』1986 (財)市原市文化財センター  
 (註9) 北見一弘「第2章畑木小谷遺跡」『平成10年度市原市内遺跡発掘調査報告』1999 市原市教育委員会  
 (註10) 寺島 博「片又木遺跡」1984 (財)市原市文化財センター  
 (註11) 川島利道他「市原市海保野口遺跡」『東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』1998 (財)千葉県文化財センター  
 (註12) 米田耕之助「今富大道遺跡」1988 (財)市原市文化財センター  
 (註13) 田中清美他「市原市新生萩原野遺跡」1998 “ ”  
 (註14) 櫻井敦史「4. 天羽田稲荷山遺跡」『市原市文化財センター年報平成7年度』1998 (財)市原市文化財センター  
 田所 真「6. 椎津坂ノ上遺跡」 “ ”  
 (註15) 蜂屋孝之氏ご教示。  
 (註16) 櫻井敦史氏ご教示。  
 (註17) 石器類の実測図と原稿は牧野光隆氏による。

図1の番号解説

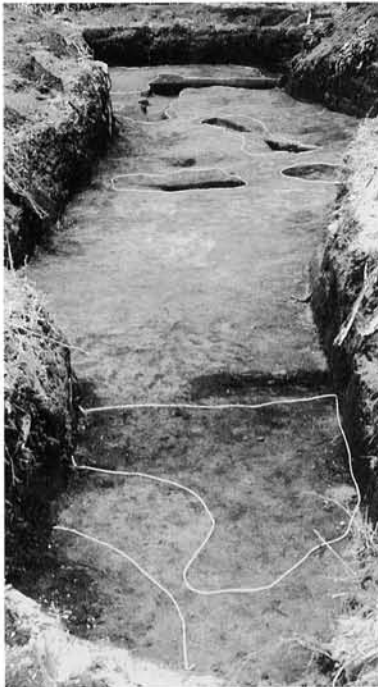
- |            |                    |
|------------|--------------------|
| 1. 椎津大ッ作遺跡 | 9. 片又木遺跡           |
| 2. 下中台貝塚   | 10. 海保野口遺跡         |
| 3. 椎津貝塚    | 11. 今富大道遺跡         |
| 4. 姉崎台貝塚   | 12. 新生萩原野遺跡(A・B・C) |
| 5. 山野貝塚    | 13. 西萩原遺跡          |
| 6. 中六遺跡    | 14. 打越台遺跡          |
| 7. 椎津中林遺跡  | 15. 小谷遺跡           |
| 8. 畑木小谷遺跡  | 16. 角山遺跡           |
|            | 17. 美生遺跡           |
|            | 18. 椎津坂ノ上遺跡(A・B)   |



遺跡遠景 西側より



遺跡近景 南側より



北側調査区遺構確認状況（南側より）



北側調査区遺構確認状況



南側本調査区の状況（1）北側より



溝状遺構付近  
（上）南西側より



16、17A・B、18A・B号炉穴群検出状況

（下）北東側より



1号陥穴検出状況



図版 3



8～10号炉穴群（南西側より）



8～10号炉穴群（北東側より）



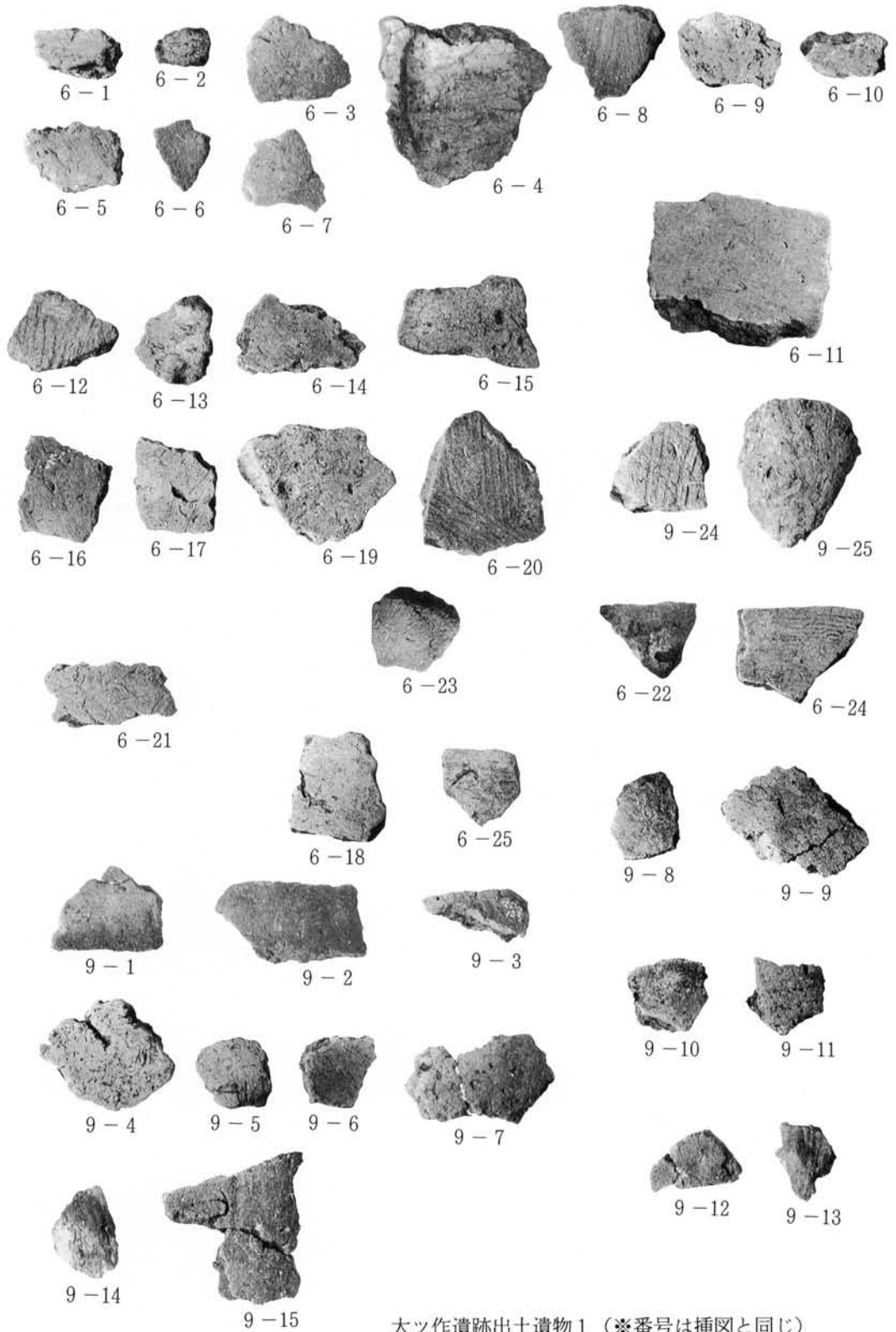
南側本調査区の状況（2）南側より



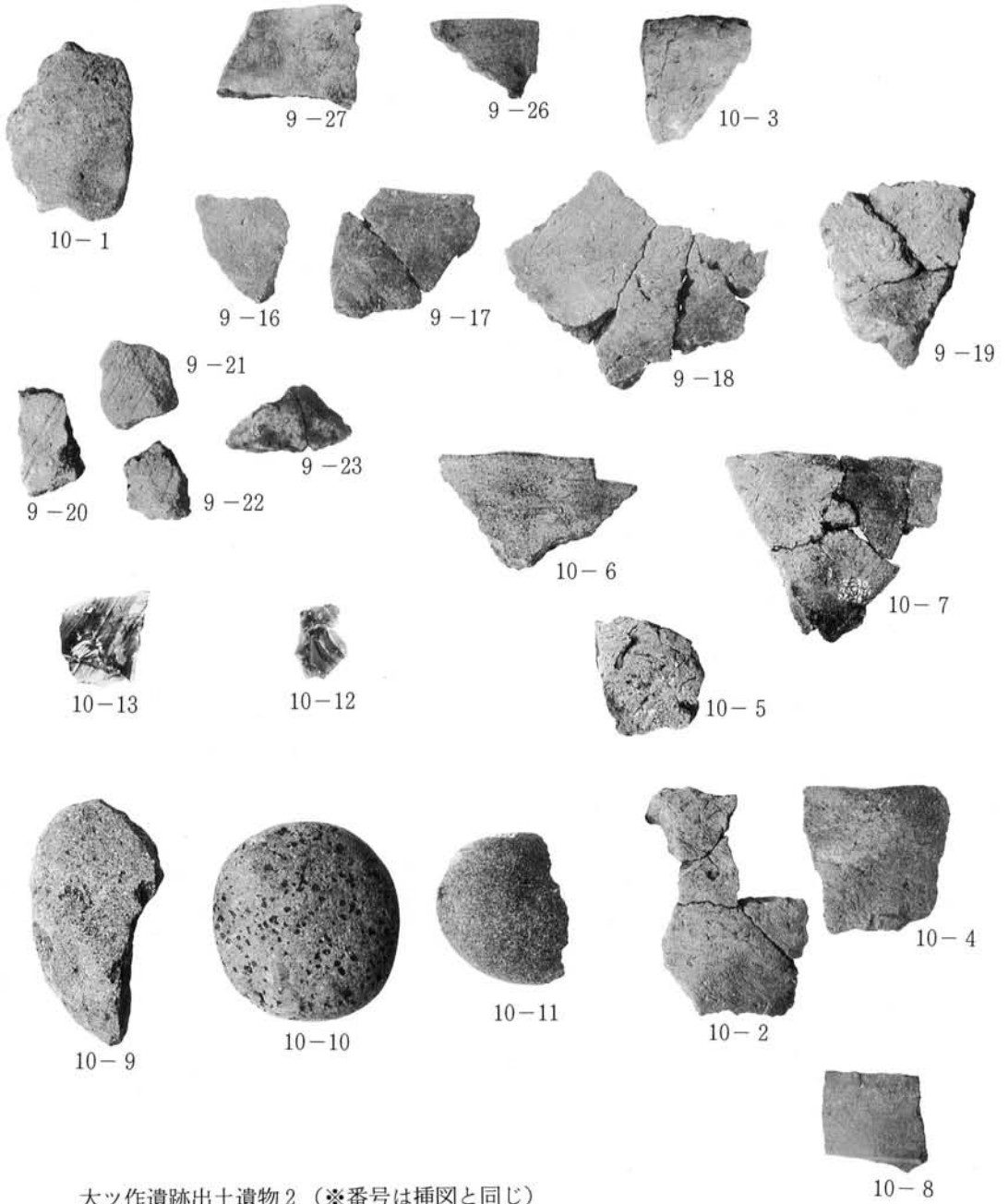
20号炉穴



図版 4



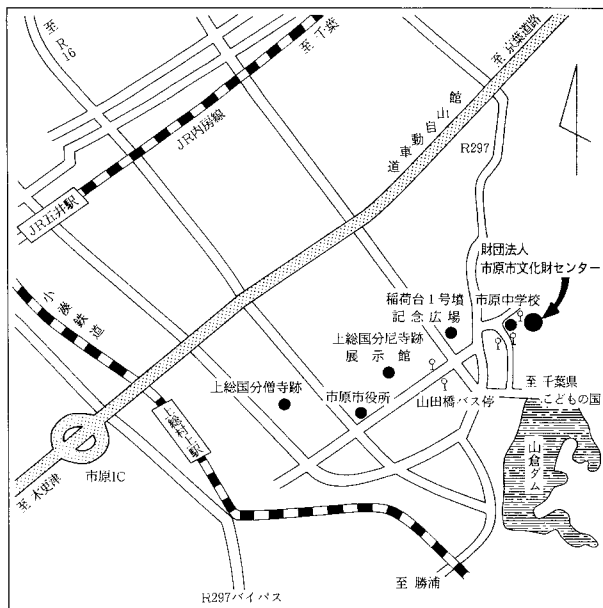
大ッ作遺跡出土遺物 1 (※番号は挿図と同じ)



大ツ作遺跡出土遺物 2 (※番号は挿図と同じ)

## 抄 録

ふりがな	いちほらしぶんかざいセンターねんぼうへいせいほちねんど							
書名	市原市文化財センター年報(平成8年度)							
副書名	付編 椎津大ツ作遺跡発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番								
編著者名	田中 清美							
編集機関	財団法人市原市文化財センター							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436-41-7300							
発行年月日	2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しいづ おお つ さく 椎津大ツ作 いせき 遺跡	ちばけんいちほらししいづ 千葉県市原市椎津 あざぼちたに 字バチ谷2970-9	12219	セ230	35° 25' 48"	140° 3' 16"	確認調査 19960520 ) 19960523 本調査 19960524 ) 19960528	確認調査 360㎡の うち36㎡ 本調査 60㎡	無線基地局建設に伴う埋蔵文化財調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
椎津大ツ作 遺跡	包蔵地	縄文時代早期	炉 穴		縄文土器、石器		縄文時代早期後半の炉穴群の存在が確認された。	



〔交通案内〕

- JR東日本内房線五井駅下車  
五井駅東口より中央武道館行バスあり  
終点 文化財センター下車徒歩2分
- JR東日本内房線八幡宿駅下車  
八幡宿駅西口より市原市役所経由国  
分寺台行、又は  
千葉県こどもの国行 山田橋下車  
徒歩5分 市原中学校入口に入る
- 館山自動車道市原ICを降り  
市原市役所方面へ車で15分

## 市原市文化財センター年報

(平成8年度)

平成12年3月31日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター

〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地

TEL 0436(41)7300

FAX 0436(42)0133

印刷 三陽工業株式会社

〒290-0056 千葉県市原市五井5510の1

TEL 0436(22)4348